

ラグビーワールドカップ 2019 を通じた  
地域活性化についての調査研究  
報告書

平成 28 年 3 月

総務省地域力創造グループ地域振興室

## <本報告書で扱う用語・略号等について>

### RWC/RWC2011/RWC2015/RWC2019

RWC は、Rugby World Cup（ラグビーワールドカップ）の略で、RWC2011 は、ラグビーワールドカップ 2011 ニュージーランド大会、RWC2015 は、ラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会、RWC2019 は、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会のこと。

### NZ2011/ER2015/JR2019

NZ1011 は、New Zealand Rugby 2011 の略で、ラグビーワールドカップ 2011 組織委員会のこと。ER2015 は、England Rugby 2015 の略で、ラグビーワールドカップ 2015 組織委員会のこと。JR2019 は、Japan Rugby 2019 の略で、ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会のこと。

### Rugby Union（ラグビーユニオン）/Rugby Football Union（ラグビーフットボールユニオン）

2つに分化したラグビーフットボールの一つで、1 チーム 15 名で行われるフルコンタクトのチームスポーツ。一般に「ラグビー」と言われた場合、ラグビーユニオンフットボールを指すことが多い。

### WR（ワールドラグビー）

WR は、World Rugby の略で、ラグビーユニオンの国際統括団体であるワールドラグビーのこと。

### RWC Limited（ラグビーワールドカップリミテッド）

Rugby World Cup Limited の略で、ラグビーワールドカップを運営管理する団体のこと。

### ファン・ゾーン

RWC の大会期間中にスタジアム等の周辺に設置され、スクリーンによる RWC 試合の放映やイベントの開催、飲食物や RWC 公式グッズの販売等が行われる原則入場無料のイベントスペースのこと。

### ホストシティアグリーメント

RWC の試合等を開催する都市と RWC Limited が締結する RWC 開催に関する契約のこと。試合開催やファン・ゾーンの設置等に関する事項が盛り込まれている。

### RWC 開催都市（ホストシティ）

RWC Limited とホストシティアグリーメントの契約を締結した RWC の試合開催都市のこと。

### ベニューアグリーメント

RWC の試合会場を運営する事業者や自治体と RWC Limited が締結する RWC の試合開催におけるスタジアム利用に関する契約のこと。

#### チームベース/ベースキャンプ地

RWC2015 に参加するチームがトレーニングをするために利用する施設のこと。

#### チームベースマネージャー

チームベースに選定されたラグビー施設等に所属し、ER2015 との調整役となるスタッフのこと。

#### チームベースコーディネーター

ER2015 が RWC2015 の運営のために雇用し、RWC2015 に参加するチームとチームベースの調整を行うスタッフのこと。

#### **<その他注意事項>**

本報告書では、外国通貨の円換算を以下の為替レートに基づいて行った。

- ・ 1 ドル=110 円
- ・ 1 ポンド=160 円

本報告書に掲載した画像等は、文献や HP 等から引用した場合、引用元の情報を併記した。また、現地調査等で委託先の調査機関が撮影した場合、特に引用元の情報を併記せずに掲載した。

## 目次

項目	頁
1. 調査の背景と目的	P. 001
2. 調査方法	P. 002
3. 調査結果の詳細	P. 003
3.1 RWC2011に関する調査：RWC2011 開催自治体等へのヒアリング調査	P. 003
3. 1. 1 調査概要	P. 004
3. 1. 2 調査結果のまとめ	P. 005
3. 1. 3 調査結果：ニュージーランド政府	P. 007
3. 1. 4 調査結果：オークランド市	P. 009
3. 1. 5 調査結果：ウェリントン市	P. 014
3. 1. 6 調査結果：ファンガレイ市	P. 018
3. 1. 7 調査結果：ハミルトン市	P. 020
3. 1. 8 調査結果：ネルソン市	P. 023
3. 1. 9 調査結果：ダニーデン市	P. 026
3. 1. 10 調査結果：インバーカーギル市	P. 028
3.2 RWC2015に関する調査：RWC2015 現地視察ツアーへの同行調査（大会期間中）	P. 031
3. 2. 1 調査概要	P. 032
3. 2. 2 調査結果のまとめ	P. 034
3. 2. 3 調査結果：チームキャンプ地「ハートプリーカレッジ」	P. 037
3. 2. 4 調査結果：チームキャンプ地「ロンドンアイリッシュ RFC」	P. 040
3. 2. 5 調査結果：「ラグビー市」（ファン・ゾーン視察含む）	P. 042
3. 2. 6 調査結果：「グロスター市」（ファン・ゾーン視察含む）	P. 046
3. 2. 7 調査結果：「ジャパンパビリオン」	P. 049
3.3 RWC2015に関する調査：ファン・ゾーン等の現地視察調査（大会期間中）	P. 050
3. 3. 1 調査概要	P. 051
3. 3. 2 調査結果のまとめ	P. 052
3. 3. 3 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市ブレント区」	P. 058
3. 3. 4 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市リッチモンド区」	P. 062
3. 3. 5 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市ニューハム区」	P. 066
3. 3. 6 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市トラファルガースクエア」	P. 068
3. 3. 7 調査結果：ファン・ゾーン「ブライトン市」	P. 071
3. 3. 8 調査結果：ファン・ゾーン「ミルトン・キーンズ市」	P. 076

項目	頁
3.4 RWC2015 に関する調査：RWC2015 ビジターの動向調査（大会期間中）	P. 082
3.4.1 調査概要	P. 083
3.4.2 調査結果のまとめ	P. 084
3.4.3 主な調査結果	P. 085
3.5 RWC2015 に関する調査：RWC2015 開催自治体等へのヒアリング（大会終了後）	P. 092
3.5.1 調査概要	P. 093
3.5.2 調査結果のまとめ	P. 098
3.5.3 調査結果：RWC2015 開催都市「レスター市」	P. 100
3.5.4 調査結果：RWC2015 開催都市「グロスター市」	P. 107
3.5.5 調査結果：RWC2015 開催都市「ミルトン・キーンズ市」	P. 116
3.5.6 調査結果：RWC2015 開催都市「ブライトン市」	P. 123
3.5.7 調査結果：RWC2015 開催都市「ロンドン市ブレント区」	P. 130
3.5.8 調査結果：RWC2015 開催都市「ニューキャッスル市及びニューキャッスルユナイテッド」	P. 137
3.5.9 調査結果：RWC2015 開催都市「ロンドン市リッチモンド区」	P. 146
3.5.10 調査結果：RWC2015 開催都市「カーディフ市」	P. 155
3.5.11 調査結果：RWC2015 開催都市「ロンドン市ニューハム区」	P. 163
3.6 RWC2019 に関する調査：RWC2019 開催自治体等へのヒアリング調査	P. 170
4. 調査結果のまとめ	P. 173
5. 調査結果の考察	P. 177
6. 今後の検討課題	P. 179
付録	P. 180

# 1. 調査の背景と目的

2019年にラグビーワールドカップ2019日本大会（以下「RWC2019」という。）が日本で開催される予定である。ラグビーワールドカップは、大規模な国際スポーツイベントであり、開催期間の長さや海外からのビジター数の多さを特徴としており、試合会場の所在都市（以下「開催都市」という。）やその周辺の地域を中心に、国内外からの多くのビジターの流入による経済効果等の波及効果が見込まれている。

本調査研究においては、RWC2019の開催都市をはじめとする全国の地方自治体において、RWC2019の開催にむけて地域活性化のための効果的な取組みが進められるよう、直前の大会となるラグビーワールドカップ2015イングランド大会（以下「RWC2015」という。）及びラグビーワールドカップ2011ニュージーランド大会（以下「RWC2011」という。）等の開催都市等におけるビジターの動向や地方自治体による地域活性化のための取組みの調査・分析等を行い、RWC2019を通じた地域活性化の有効な手法を提言することを目的とする。

具体的には、開催都市に設置が求められるファンゾーン（図表1-1参照）の整備を中心に、訪日外国人を含めた有効なビジターの受入体制の構築の手法について、ラグビーワールドカップ2015の現地調査等を行いながら報告書にまとめ、開催都市に周知を行う。

図表 1-1. RWC2015 の開催都市レスター市の実際のファン・ゾーン



[引用：レスター市提供のファン・ゾーン写真]

## 2. 調査方法

本調査研究では、前述の目的を実現するために、以下の6つの調査を実施した。

年月		実施内容		
2015 年	6月	【3.1】RWC2011に関する調査：RWC2011開催自治体等へのヒアリング調査[P3.～P.30]		
	7月			
	8月			
	9月	【3.2】RWC2015に関する調査：RWC2015現地視察ツアーへの同行調査（大会期間中）[P.31～P.49]	【3.3】RWC2015に関する調査：ファン・ゾーン等の現地視察調査（大会期間中）[P.50～P.81]	【3.4】RWC2015に関する調査：RWC2015ビジターの動向調査（大会期間中）[P.82～P.91]
	10月			
	11月	【3.5】RWC2015に関する調査：RWC2015開催自治体等へのヒアリング（大会終了後）[P.92～P.169]		
12月				
2016 年	1月	【3.6】RWC2019に関する調査：RWC2019開催自治体等へのヒアリング調査[P.170～P.172]		
	2月			
	3月			

**3.1 RWC2015に関する調査：**

**RWC2011 開催自治体等へのヒアリング調査**

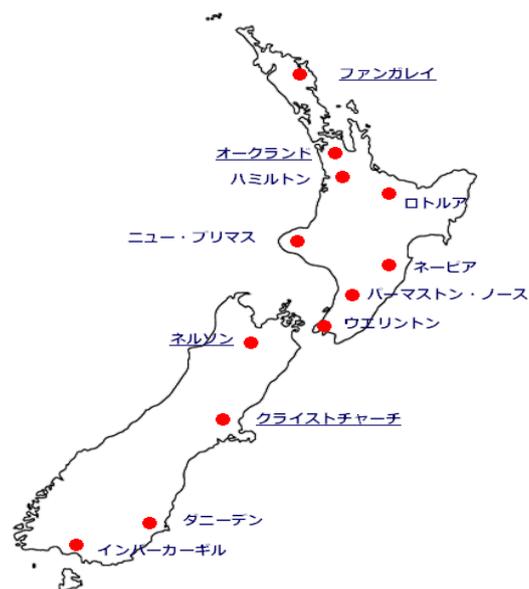
### 3.1 RWC2011 に関する調査：RWC2011 開催自治体等へのヒアリング調査

#### 3.3.1 調査概要

- 目的：RWC2019 の開催都市等における地域活性化の取組の実施状況を把握すること。
- 方法：文献調査及びヒアリング調査（E-mail、電話等）
- 対象者：RWC2011 開催都市である 12 自治体及びニュージーランド政府
- 期間：2015 年 8 月～10 月
- 回答者：下表の 8 都市及びニュージーランド政府

No	組織名	所属・肩書・氏名等
1	ニュージーランド政府	ビジネス・イノベーション・雇用省 Jo Gresham Major Event, Funding Coordinator
2	オークランド市	Sue Norton Exective Assistant to the General Maneger External Relationships and the CFO
3	ウェリントン市	* 報告書のみ
4	ハミルトン市	Chris Simpson
5	ネルソン市	Catherine Close Receptionist/Administration Assistant
6	ダニーデン市	Shaz Clark Economic Development Co-ordinator, Enterprise Dunedin
7	インバーカーギル市	Eirwen Harris
8	ファンガレイ市	Peter Glesson Economic Development Maneger
9	ネーピア市	Wayne Japan Chief Exective

図表 3-1-1. RWC2011 の開催 12 都市（クライストチャーチは試合開催なし）



### 3.1.2 調査結果のまとめ

今回の調査結果を下表に整理した。

No	組織名	人口	試合数	スタジアム	観客数	ファン・ゾーン	開催効果等
1	ニュージーランド政府	447万人	48試合	-	約150万人 (ビジター約13万人)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年～2012年間の経済効果(価値の向上)1,730百万ドル(約1,903億円)</li> <li>・2007年のGDPの0.34%に相当する貢献、573百万ドル(約630億円)</li> </ul>
2	オークランド市	139万人	15試合	「エデン・パーク」約60,000人 「ノース・ハーバー・スタジアム」約30,000人	722,117人	あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接消費512百万ドル(約563億円)</li> <li>短期的な経済効果(価値の向上)728百万ドル(約801億円)</li> <li>・中期的な経済効果(GDPへの貢献)322百万ドル(約322億円)</li> </ul>
3	ウェリントン市	19万人	8試合	「Wellington Regional Stadium (Westpac STADIUM)」約42,000人	232,696人	あり	直接効果 9,400万ドル (約103億円)
4	ファンゲレイ市	8万人	2試合	「North Event Centre (Toll Stadium)」約19,000人	34,538人	なし	RWC2011開催により、ラグビーリーグ、サッカー、クリケット等の国際大会の誘致に成功
5	ハミルトン市	17万人	2試合	「Waikato Stadium」約36,000人	27,920人	あり	806万ドル (約8,866万円)
6	ネルソン市	6万人	3試合	「Trafalgar Park」約18,000人	42,961人	あり	消費金額 140.6百万ドル (約1億4千万円)
7	ダニーデン市	11万人	4試合	「Otago Stadium」約30,000人	101,308人	あり	ビジター80,000人 *6月-9月の期間の合計で、試合以外も含む
8	インバーカーギル市	7万人	3試合	「Rugby Park Stadium」約16,000人	35,500人	なし	経済効果は不明 (観客数は35,500人)

今回の調査結果より、以下の2点がわかった。

### **① ニュージーランドのPRを目的とし、政府、自治体等が一体となって取り組んだ**

RWC2011においては、RWC2011開催を契機としたニュージーランドのPRを目的とし、観光省、経済・ビジネス・イノベーション省（当時はビジネス・雇用省）、ニュージーランドのRFU及び各開催自治体が一体となった取組みが行われた。

具体的には、「REAL New Zealand Festival」プログラムにて、RWC2011のブランドを全国各地の既存もしくは新規のイベントやお祭りに冠し、政府が資金支援をして開催自治体や周辺自治体で1,200を超えるイベントを開催している。

### **② 開催都市の財政事情等に応じ、ファン・ゾーンの設置等は自治体に応じた対応とした**

RWC2011において、調査に協力いただいた8自治体の中で、ファンガレイ市、インバーカーギル市については、財政事情、自治体の立地、試合スケジュールの関係で、ファン・ゾーンの開催を見送っている。また、ファン・ゾーンを設置したダニーデン市でも、予選プール終了後は試合開催がなく、ビジターがニュージーランド中央部～北部に移動してしまったため、早々にファン・ゾーンの閉鎖を決定する等している。ファン・ゾーンの規模も、オークランド市のメイン会場が1万人規模と大きいものの、その他の自治体は数千人規模にとどまり、自治体の事情に応じた仕様となっている。

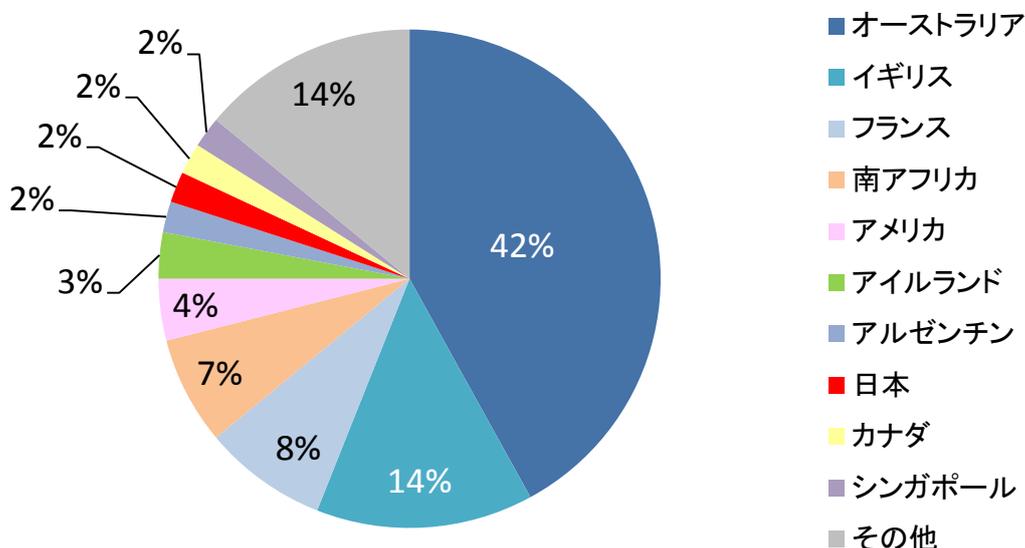
### 3.1.3 調査結果：ニュージーランド政府

#### ■ 概要：

RWC2011 では 20 チームが参加し、12 開催都市（試合がなかったクライストチャーチを含む）で 48 試合が開催され、合計 1,475,688 人の観客がスタジアムで観戦した。

開催都市とともに観光庁等、ニュージーランド政府も協力して外国人観光客の誘引に取り組み、その成果として海外から 133,000 人の観光客が RWC2011 を観戦しにニュージーランドを訪れた。そのビジターの国・地域別内訳は下図のとおり。オーストラリアが最も多く、4 割を占め、次いでイギリス（14%）、フランス（8%）、南アフリカ（7%）の順であった。

図表 3-1-1. RWC2011 の海外からのビジター（13 万 3 千人）の国・地域の割合



[引用：The Stadium of Four Million]

RWC2011 では、ビジターの受入に際し、ファン・ゾーンの設置を含めて、以下のような取組が行われた。

取組名	取組内容
ファン・ゾーン	オークランド市のクイーンズワーフに最大規模 1 万人収容のファン・ゾーンを設置。クライストチャーチでも開催。
REAL New Zealand Festival	ニュージーランドの既存の 1,200 フェスティバルを統合したイベント。
コミュニティエンゲージメントプログラム	開催都市と参加チームの間で地域交流等を行うプログラム。
ボランティアプログラム	ボランティアを構築・運用するプログラム。
ビジネスエンゲージメントプログラム	RWC を通じたビジネス機会の創出を促すプログラム。

[引用：The Stadium of Four Million]

## 「REAL New Zealand Festival」

RWC2011 に合わせてニュージーランド全土で行われた 1,200 以上のイベントの総称である。芸術、音楽、飲食物、ビジネス、スポーツなど多様なカテゴリーで、イベントや体験事業が行われた。このフェスティバルは、RWC2011 が大成功を収めるカギの一つとなった。

### <事例：ニュー・プリマス「Pukekura Park Light Trail」>

プケクラ・パークではライトアップイベントが行われた。9月10日～30日の間、プリマスで3試合が行われている期間中に開催。時間は18時～21時。



[左記画像の引用：

Pukekura Park HP 及び NEW PLYMOUTH DISTRICT COUNCIL HP]

### <事例：ウェリントン「Maori Art Market in Porirua」>

ウェリントンの北、港町ポリルアの Pataka Museum and Te Rauparaha Arena で、「マオリ・アートマーケット 2011」が行われた。200人以上の新進の現代マオリアーティストが参加する文化イベント。10月6日～9日、10時～開催。



### <事例：ハミルトン「Hamilton Farmers Market」>

ハミルトンの Sonning car park では、「Hamilton Farmers Market」と銘打ち、大規模に新鮮な農作物の販売がされるイベントを開催した。「Real New Zealand Festival」の一環として、食の専門家が、地元の季節野菜を使った料理の作り方を紹介するイベントが開催された。参加無料。



### <事例：オタゴ「Tri-Nations Sheep Shearing Championships」>

オタゴ地方では、アレクサンドラの Molyneux Stadium で毛刈りコンテストが開催された。2011年で50周年となる、南アフリカ・オーストラリア・ニュージーランドの3カ国合同の歴史ある大会。試合観戦目的のビジターが訪れることを期待して行った。9月29日、30日、10月1日の3日間開催。



[ニュー・プリマス以外の画像の引用：REAL New Zealand FestivalFacebook 及び公式 HP]

### 3.1.4 調査結果：オークランド市

#### ■ 概要：

オークランド市はニュージーランドの北部に位置し、人口約139万人のニュージーランド最大の都市である。

オークランド市では開催都市の中でも最多の15試合、全試合の3分の1近くが開催され、「エデン・パーク (Eden Park)」と「ノース・ハーバー・スタジアム (North Harbour Stadium)」の2つの会場で試合が行われた。



[地図データ引用：Google マップ]

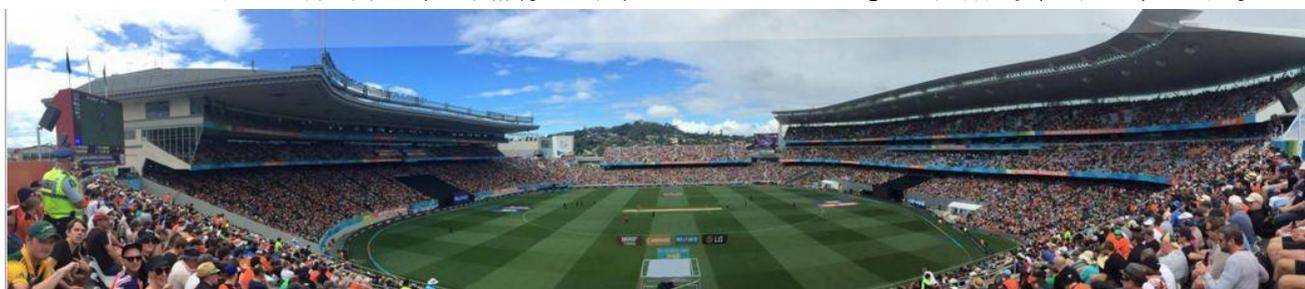
■ 詳細：

① 試合開催

オークランド市では、予選プール9試合、準々決勝2試合、準決勝2試合、3位決定戦と決勝の合計15試合が開催された。オークランド市で行われた試合スケジュール等は下表のとおり。

No	年月日	試合形式	対戦カード	会場
1	2011年9月9日	予選	ニュージーランド対トンガ	エデン・パーク
2	2011年9月10日	予選	フランス対日本	ノース・ハーバー・スタジアム
3	2011年9月11日	予選	オーストラリア対イタリア	ノース・ハーバー・スタジアム
4	2011年9月17日	予選	オーストラリア対アイルランド	エデン・パーク
5	2011年9月22日	予選	南アフリカ対ナミビア	ノース・ハーバー・スタジアム
6	2011年9月24日	予選	ニュージーランド対フランス	エデン・パーク
7	2011年9月25日	予選	フィジー対サモア	エデン・パーク
8	2011年9月30日	予選	南アフリカ対サモア	ノース・ハーバー・スタジアム
9	2011年10月1日	予選	イングランド対スコットランド	エデン・パーク
10	2011年10月8日	準々決勝	イングランド対フランス	エデン・パーク
11	2011年10月9日	準々決勝	ニュージーランド対アルゼンチン	エデン・パーク
12	2011年10月15日	準決勝	ウェールズ対フランス	エデン・パーク
13	2011年10月16日	準決勝	オーストラリア対ニュージーランド	エデン・パーク
14	2011年10月21日	3位決定戦	ウェールズ対オーストラリア	エデン・パーク
15	2011年10月23日	決勝	フランス対ニュージーランド	エデン・パーク

オークランド市の試合会場は、2箇所。まず、「エデン・パーク」の収容人員は約60,000人。



[引用：Eden Park HP]

次に、「ノース・ハーバー・スタジアム」の収容人員は約 30,000 人。



[引用 : aucklandstadiums HP]



[引用 : TripAdvisor HP]

## ② ファン・ゾーン

オークランド市では、ファン・ゾーンを 5 箇所を設置した。

メインのファン・ゾーンはクイーンズ埠頭に設置され、1 万人収容と、最も規模が大きい会場であった。また、付近のキーストリートにもビッグスクリーンのあるファン・ゾーンが設置された。

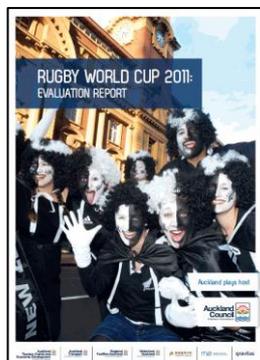
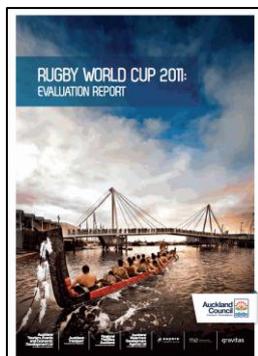


[引用 : The Stadium of Four Million (NEW ZEALAND2011) ]

オークランド市では、この 2 つのファン・ゾーンに加え、オールバーニー湖市民公園（試合会場であるノース・ハーバー・スタジアムに隣接）、トラストスタジアム、マンガレータウンセンターの 3 箇所にもファン・ゾーンが設置された。

### ③ RWC2011 開催に関する成果報告書

オークランド市では、RWC2011 開催に関する成果報告書を取りまとめている。RWC2011 開催後の2011年12月に速報報告書が作成され、経済効果等の測定が完了した後、2012年6月に最終報告書が作成された。



[引用：RUGBY WORLD CUP 2011:EVALUATION REPORT (Auckland Council)]

※左が速報報告書。右が最終報告書

### ④ RWC2011 開催による効果

オークランド市では、RWC2011 開催による効果を測定し、報告書に取りまとめている。直接消費としては512百万ドル(約563億円)があった。そして2006年～2012年の経済効果としては1,730百万ドル(約1,903億円)があり、2007年のGDPの中期的な経済効果としては322百万ドル(約354億円)のGDPへの貢献があった。

それ以外にも、ビジネスへの好影響、社会への好影響、そして都市づくりへの寄与があったとされている。報告書に取りまとめられているRWC2011開催によるオークランド市の効果は以下のとおり。

経済効果	ビジネス効果	社会効果	都市づくりへの寄与
<ul style="list-style-type: none"> <li>直接消費 512 百万ドル (約 563 億円)</li> <li>2006 年～2012 年間の経済効果 (価値の向上) 1,730 百万ドル (約 1,903 億円)</li> <li>2007 年の GDP の 0.34% に相当する貢献、573 百万ドル (約 630 億円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネス弱者が経済効果を実感できた</li> <li>ビジネスネットワークの機会</li> <li>オークランド市が投資先として認知向上</li> <li>数多くの重要な商談が行われた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試合やイベントに興味や参加が広がった</li> <li>住民の同市への誇りの向上</li> <li>コミュニティの意識の向上</li> <li>治安の改善</li> <li>ボランティアへの興味拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会後も都市設備が改善された</li> <li>満足したビジターから都市の評判が口コミ等で広がった</li> <li>有名なイベントの開催地としてのオークランド市への支援</li> </ul>

[引用：RUGBY WORLD CUP 2011:EVALUATION REPORT (Auckland Council)]

## ⑤ その他の取組

オークランド市では、大会期間中「Queen St」において交通規制を行い、歩行者のみ通行可とし、「FAN TRAIL」を設置した。参加者の多くはチケットを持っていないが、RWC2011に参加している雰囲気を楽しむことができ、6週間で10万人以上が参加した。



[引用：FAN TRAIL]

### 3.1.5 調査結果：ウェリントン市

#### ■ 概要：

ウェリントン市は、ニュージーランドの首都であり、同国の中心に位置している。人口は約19万人。

ウェリントン市では、予選プール6試合と準々決勝2試合の合計8試合が開催された。2011年9月9日～10月9日までの1カ月間、ウォーターフロントに3,000人収容可能なファン・ゾーンを設置し、周辺の建物の夜間ライトアップも行われた。成果報告書によると、RWC2011開催による経済効果は約113億円と試算されている。



[地図データ引用：Google マップ]

■ 詳細：

① 試合開催

ウェリントン市では、予選プール6試合と準々決勝2試合の合計8試合が開催された。ウェリントン市で行われた試合スケジュール等は下表のとおり。

No	年月日	試合形式	対戦カード	会場
1	2011年9月11日	予選	南アフリカ対ウェールズ	ウェリントン・リージョナル・スタジアム
2	2011年9月17日	予選	南アフリカ対フィジー	ウェリントン・リージョナル・スタジアム
3	2011年9月23日	予選	オーストラリア対アメリカ	ウェリントン・リージョナル・スタジアム
4	2011年9月25日	予選	アルゼンチン対スコットランド	ウェリントン・リージョナル・スタジアム
5	2011年10月1日	予選	フランス対トンガ	ウェリントン・リージョナル・スタジアム
6	2011年10月2日	予選	ニュージーランド対カナダ	ウェリントン・リージョナル・スタジアム
7	2011年10月8日	準々決勝	アイルランド対ウェールズ	ウェリントン・リージョナル・スタジアム
8	2011年10月9日	準々決勝	南アフリカ対オーストラリア	ウェリントン・リージョナル・スタジアム

ウェリントン市の試合会場は、「ウェリントン・リージョナル・スタジアム（ウエストパック・スタジアム）／（Wellington Regional Stadium (Westpac STADIUM))」で、収容人員は42,000人。



[引用：JMA Decorators Ltd HP]

## ② ファン・ゾーン

ウェリントン市では、ウェリントンウォーターフロント（Odlins Plaza）に公式のファン・ゾーンが設置された。ウェリントンのファン・ゾーンは3,000人の収容人員で、2011年9月9日～10月9日（準々決勝が行われる10月8日～9日を含む）の1カ月間、設置された。ただし、期間中の開催日は不明。



[引用 : Wellington. Scoop]



[引用 : New Zealand 2011]

カーニバル祭のプロデューサーである Andy Scotland 氏は、「ファン・ゾーンでは試合前の一連のエンターテインメントとパフォーマンスが披露され、大きなスクリーンでラグビーの試合が生放送される。大会の興奮を共有したいファンたちの活動拠点となる。」とコメントしている。

[引用 : VIEW Wellington. co. nz]

ウェリントン市のファン・ゾーンでは、ウェリントン市がイベント会社に業務委託し、ウォーターフロントの5つの建築物で夜間のライトアップが行われた。



[引用 : Inside Out Production HP]

(URL)<http://www.iop.co.nz/site-specific/illumina-wellington-fanzone-rwc-2011/>

## ③ イベント開催等

ウェリントン市では、開幕戦のニュージーランド対トンガ戦の際、開幕イベントとして、ファン・ゾーンにおいて、ウェリントン市主催による、ウェリントン国際ウクレレオーケストラの演奏や、サンバチームによるパフォーマンス等が行われた。また、準々決勝の週末（10月8日～9日）には、20組ものバンド・音楽家による演奏イベントが行われた。

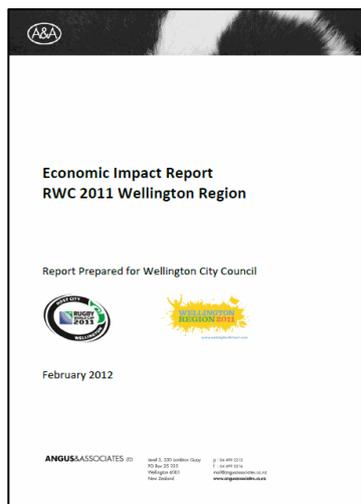
[引用 : VIEW Wellington. co. nz]



[引用 : Batucada HP]

#### ④ RWC2011 開催に関する成果報告書

ウェリントン市では、RWC2011 開催に関する成果報告書を取りまとめている。



[引用 : Economic Impact Report RWC2011 Wellington Region]

(URL) <http://wellington.govt.nz/~media/events/past-major-events/files/rwc-impact-report.pdf>

#### ⑤ RWC2011 開催による効果

ウェリントン市全体では直接効果として9,400万ドル（約103億円）があったと試算されている。8試合の開催で、入場チケットは合計約25万枚販売された。

### 3.1.6 調査結果：ファンガレイ市

#### ■ 概要：

ファンガレイ市はニュージーランドの北部に位置し、人口約8万人の都市である。

ファンガレイ市では予選プール2試合が開催された。試合会場は「ノースイベントセンター（トールスタジアム）（North Event Centre (Toll Stadium))」で、収容人員は約19,000人。



[地図データ引用：Google マップ]

## ■ 詳細：

### ① 試合開催

ファンガレイ市では、予選プール2 試合が開催され、試合スケジュール等は下表のとおり。

No	年月日	試合形式	対戦カード	会場
1	2011年9月14日	予選	トンガ対カナダ	ノースイベントセンター（トールスタジアム）
2	2011年9月21日	予選	トンガ対日本	ノースイベントセンター（トールスタジアム）

ファンガレイ市の試合会場は、「ノースイベントセンター（トールスタジアム）」で、収容人員は約19,000人。



[引用：eventfinda HP]



[引用：stuff HP]

### ② ファン・ゾーン

ファンガレイ市では、公式ファン・ゾーンを設定していない。ファンガレイ市は人口が約8万人に過ぎず、市としての目標はスタジアムを満員にすることであった。スタジアムは街の中心街からわずか800mほどの距離にあり、その間の道がファンで埋め尽くされ、非公式のファントレイルのような様子になることを狙っていた。

### ③ RWC2011 開催に関する成果報告書

ファンガレイ市では、RWC2011 開催に関する成果報告書が存在しない。その代わりに、同市の担当者から今回ヒアリング調査に回答があった。

### 3.1.7 調査結果：ハミルトン市

#### ■ 概要：

ハミルトン市は、オークランド市の南に位置し、人口約17万人の都市である。

ハミルトン市では3試合が開催され、大会の開催による経済効果は約9億7千万円と試算されている。



[地図データ引用：Google マップ]

■ 詳細：

① 試合開催

ハミルトン市では、予選プール3試合が開催された。試合スケジュール等は下表のとおり。

No	年月日	試合形式	対戦カード	会場
1	2011年9月16日	予選	ニュージーランド対日本	ワイカト・スタジアム
2	2011年9月18日	予選	ウェールズ対サモア	ワイカト・スタジアム
3	2011年10月2日	予選	ウェールズ対フィジー	ワイカト・スタジアム

ハミルトン市の試合会場は、「ワイカト・スタジアム (Waikato Stadium)」で、収容人員は約 36,000 人。



[引用：FMG Stadium Waikato HP]

② ファン・ゾーン

ハミルトン市では、「Hood 通り」と「Alexandra 通り」に公式のファン・ゾーンが設置された。スタジアムから徒歩で 15 分程離れた場所にあり、スタジアムまでのメイン通りには道沿いに様々なイベントが用意された。また、これとは別に、ガーデンパレスに家族向けのファン・ゾーンが設置された。

前者の公式ファン・ゾーンは、現地での試合開催日 3 日間を含め、以下の 6 日間開催した。後者のファン・ゾーンは現地で試合が開催されるた 3 日間のみ開催した。

No	年月日	時間	内容
1	2011年9月16日	18時～深夜	ニュージーランド対日本（現地開催）
2	2011年9月17日	16時～深夜	南アフリカ対フィジー／アイルランド対オーストラリア
3	2011年9月18日	13時半～深夜	ウェールズ対サモア（現地開催）
4	2011年9月24日	16時～深夜	イングランド対ルーマニア／ニュージーランド対フランス
5	2011年10月2日	13時半～深夜	ニュージーランド対カナダ／ウェールズ対フィジー（現地開催）
6	2011年10月2日	19時～深夜	決勝戦：フランス対ニュージーランド



[引用 : There and Back Again HP]

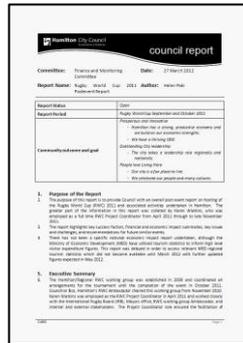
### ③ イベント開催等

ハミルトン市では、「Real New Zealand Festival」のひとつとして、Scanning car parkで農作物の販売イベントが開催された。参加費は無料で、食の専門家が地元の季節野菜を使った料理を紹介した。



### ④ RWC2011 開催に関する成果報告書

ハミルトン市でも、RWC2011 開催に関する成果報告書が作成された。



### ⑤ RWC2011 開催による効果

ハミルトン市では、RWC2011 開催による効果を測定し、全体では約 806 万ドル (約 8,866 億円) の経済効果があったと試算している。

### 3.1.8 調査結果：ネルソン市

#### ■ 概要：

ネルソン市はニュージーランドの中央部に位置し、人口約6万人の都市である。

ネルソン市では、予選プールの3試合が開催された。ネルソン市の試合会場は、「トラファルガー・パーク (Trafalgar Park)」で、収容人員は約18,000人。



[地図データ引用：Google マップ]

■ 詳細：

① 試合開催

ネルソン市では、予選プール3試合が開催された。試合スケジュールは下表のとおり。

No	日付	試合形式	対戦カード	会場
1	2011年9月20日	予選	イタリア対ロシア	トラファルガー・パーク
2	2011年9月27日	予選	イタリア対アメリカ	トラファルガー・パーク
3	2011年10月1日	予選	オーストラリア対ロシア	トラファルガー・パーク

ネルソン市の試合会場は、「トラファルガー・パーク」で、収容人員は約18,000人。



[引用 : stuff HP]



[引用 : Nelson City Council HP]

② ファン・ゾーン

ネルソン市では、スタジアムがあるトラファルガーパークにファミリー向けのファン・ゾーンを設置するとともに、モトゥイーカ地区に全天候型のファン・ゾーンを設置し、開催日はいずれも10月15日、10月16日、10月23日の3日間であった。

## Fanzones

As an integral part of the 'Stadium of Four Million', special Fanzones are being created for the semi-finals and the finals of Rugby World Cup 2011.

The Fanzones will kick off in the early afternoon with live bands and performances, followed by the matches shown on a huge screen. Meet friends and fellow fans from all over the world and celebrate the Tournament in a festive atmosphere. So come on down, wear your colours, and bring your pride and celebrate our region hosting this once in a lifetime event. It's Game On!

### Nelson

In Nelson, fans will find plenty of activity in the city's heart at the top of Trafalgar Street where the Fanzone will provide a family-friendly environment to watch the matches.

**Place: Top of Trafalgar Street, Nelson city centre**

**Semi-finals: 15 and 16 October**

**Final: 23 October**

### Tasman

In Tasman, Motueka will host the region's Fanzone and create a party atmosphere no matter what the weather in the cozy Recreation Centre.

**Place: Motueka Recreation Centre**

**Semi-finals: 15 and 16 October**

**Final: 23 October**

[引用 : THE NELSON RUGBY FESTIVAL GAME ON]

### ③ ファン・ゾーンの予算内訳

ネルソン市のファン・ゾーンの設置・運営に関する費用とその内訳は下表のとおり。合計で94,600ドル（約1,040万円）だった。内訳をみると、ビッグスクリーンの費用が大きく、次いでエンターテインメント関連費、セキュリティ費用等の順であった。

項目	費用[ドル]
ファン・ゾーンの用地借用	2,800
プロジェクト管理	4,000
ビッグスクリーン（レンタル・設置等）	21,000
舞台の設置	3,100
放送関連	7,000
エンターテインメント関連	8,880
電源等	5,500
保険	3,500
セキュリティ	7,280
交通管理	5,400
交通及び駐車場	1,500
トイレ等	24,640
トイレ	16,000
医療サービス	3,520
その他	5,120
合 計	94,600

[引用：ネルソン市提供資料]

### 3.1.9 調査結果：ダニーデン市

#### ■ 概要：

ダニーデン市はニュージーランド南部に位置し、人口約 11 万人の都市である。ダニーデン市では予選プール 4 試合が開催された。同市の試合会場は「オタゴ・スタジアム (Otago Stadium)」で、収容人員は約 30, 000 人である。



[地図データ引用：Google マップ]

■ 詳細：

① 試合開催

ダニーデン市では、予選プール 4 試合が開催された。ダニーデン市で行われた試合スケジュール等は下表のとおり。

No	年月日	試合形式	対戦カード	会場
1	2011年9月10日	予選	アルゼンチン対イングランド	オタゴ・スタジアム
2	2011年9月18日	予選	イングランド対グルジア	オタゴ・スタジアム
3	2011年9月24日	予選	イングランド対ルーマニア	オタゴ・スタジアム
4	2011年10月2日	予選	アイルランド対イタリア	オタゴ・スタジアム

ダニーデン市の試合会場は、「オタゴ・スタジアム」で、収容人員は約 30,000 人。



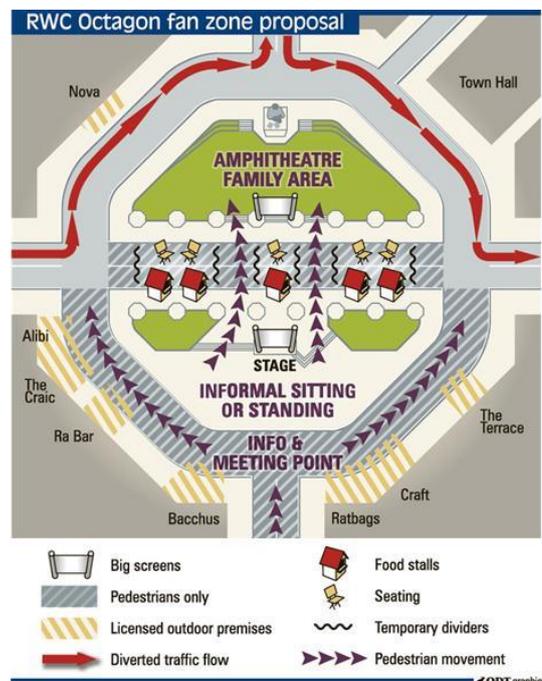
[引用：The Advertiser HP]



[引用：sport24 HP]

② ファン・ゾーン

ダニーデン市ではファン・ゾーンを設置したが、予選プール終了後、ファン・ゾーンを閉鎖した。市の責任者によると、多くのビジターが予選プール終了後、北部へと移動してしまったために閉鎖することを決断したとのことである。



[引用：Dunedin' s World Cup fan zone closes early (RADIO NEW ZEALAND NEWS) ]

(URL) <http://www.radionz.co.nz/news/rugby-2011/88118/dunedin's-world-cup-fan-zone-closes-early>

### 3.1.10 調査結果：インバーカーギル市

#### ■ 概要：

インバーカーギル市は、ニュージーランドの最南端に位置し、人口約5万人と小さな都市である。同市では予選プールの3試合が開催され、試合会場は収容人数約16,000人の「ラグビー・パーク・スタジアム (Rugby Park Stadium)」。大会開催時には1,077席の仮設スタンドが設置され、3試合の開催で合計35,500人の観客が集まった。

同市では、試合開催が大会開幕後の1週間で終わってしまうことと、資金力に乏しいことから、公式のファン・ゾーンは設置しなかった。しかし、ファン・ゾーンの名称は使わずに、ファンが集まることの出来る施設の開放を行った。



## ■ 詳細：

### ① 試合開催

インバーカーギル市では、予選プール 3 試合が開催され、行われた試合スケジュール等は下表のとおり。

No	年月日	試合形式	対戦カード	会場
1	2011年9月10日	予選	スコットランド対ルーマニア	ラグビー・パーク・スタジアム
2	2011年9月14日	予選	スコットランド対グルジア	ラグビー・パーク・スタジアム
3	2011年9月17日	予選	アルゼンチン対ルーマニア	ラグビー・パーク・スタジアム

インバーカーギル市の試合会場は、「ラグビー・パーク・スタジアム」で、収容人員は約 16,000 人。インバーカーギル市の中心部から 3km 程の距離にあり、車で 5 分、徒歩で 20 分程度。なお、インバーカーギル市には鉄道が存在しない。



[引用：eventfinda HP] [引用：RUGBY HEAVEN HP]

### ② RWC2011 開催に関する予算

RWC2011 の開催に関する予算は、直接費で 10 万ドル（約 1,100 万円）。開催の準備等に使用した費用の総計は 35 万ドル（約 3,850 万円）。なお、NZ2011 が別途 30 万ドル（約 3,300 万円）を支払った。

なお、インバーカーギル市は、スタジアムを所有するサウスランドラグビーフットボールユニオンに対し、7 万 5 千ドル（約 825 万円）をフェンスや装飾等の改修費として補助金を出した。

[引用：インバーカーギル市提供資料]

### ③ ファン・ゾーン

インバーカーギル市ではファン・ゾーンを設置しなかった。ニュージーランドの最南端に位置する人口約 51,000 人の小さな都市で、交通が非常に不便であったためである。また、開催した 3 試合は全て予選プールの最初の週に開催したため、ファンは試合が終わると北部へ移動し、同市に戻らないことが見込まれた。その 1 週間のためにファン・ゾーンを設置することは経済的に実現不可能であり、ファン・ゾーンの規定や条件等から事業性を判断しその結論となった。

なお、公式ファン・ゾーンの代わりに、同市はファンを歓迎するための施設等を開放した。

[引用：インバーカーギル市担当者へのヒアリング結果]

#### ④ イベント開催等

市の中心部であるベンチャー・サウスランドで、「テイスト・オブ・サウスランド」イベントを開催し、同市の地域文化や生産品を展示した。また、許可を受けた多くのエンターテイメントや民間イベントが行われた。

[引用：インバーカーギル市提供資料]

#### ⑤ RWC2011 開催に関する成果報告書

RWC2011 開催に関する同市の成果報告書は存在しない。

#### ⑥ RWC2011 開催による効果

成果報告書が存在せず、RWC がインバーカーギル市にもたらした効果は不明だが、各試合の観客数は以下のとおり。なお、観客数におけるビジターの割合は不明である。

No	日付	試合形式	対戦カード	観客数
1	2011年9月10日	予選	スコットランド対ルーマニア	12,500人
2	2011年9月14日	予選	スコットランド対グルジア	10,500人
3	2011年9月17日	予選	アルゼンチン対ルーマニア	12,500人

[引用：インバーカーギル市提供資料]

**3.2 RWC2015に関する調査：**

**RWC2015 現地視察ツアーへの同行調査（大会期間中）**

## 3.2 RWC2015 に関する調査:RWC2015 現地視察ツアーへの同行調査(大会期間中)

### 3.2.1 調査概要

- 目的: RWC2015 の開催都市等における地域活性化の取組の実施状況を把握すること。
- 方法: RWC2015 公式視察ツアーへの同行による現地調査
- 期間: 2015年10月10日(土)～10月15日(木)
- 場所: 以下の5箇所
  - チームキャンプ地「ハートプリーカレッジ」(チェルトナム)
  - チームキャンプ地「ロンドンアイリッシュ」(ロンドン)
  - 開催都市「ラグビー市」(ファン・ゾーン視察含む)
  - 開催都市「グロスター市」(ファン・ゾーン視察含む)
  - 「ジャパンパビリオン」(ロンドン)

図表 3-2-1. RWC2015 公式視察ツアー訪問場所



[地図データ引用: Google マップ]

■ RWG2015 公式視察ツアーの日程表

日付		地名	内容
10月10日	土	東京	移動
		ロンドン市	
		グロスター市	【グロスター宿泊】
10月11日	日	グロスター市	○ハートプリーカレッジ視察 ○グロスター市視察 ○アメリカ対日本試合観戦  【グロスター宿泊】
10月12日	月	グロスター市	移動
		ロンドン市	○ロンドンアイリッシュ視察  【ロンドン宿泊】
10月13日	火	ロンドン市	移動
		ラグビー市	○ラグビー市視察
		ロンドン市	移動  【ロンドン宿泊】
10月14日	水	ロンドン市	○ロンドン市視察
			移動
10月15日	木	東京	移動

### 3.2.2 調査結果のまとめ

今回の視察ツアーの各訪問先での調査結果を下表に整理した。

No	視察対象	視察内容	主な調査結果
1	チームキャンプ地 「ハートプリーカ レッジ」 (チェルトナム市)	チームキャンプ地としてスコットランド、アメリカが利用した大学施設を視察した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RWC2015 の場合、チームキャンプ地の応募は、施設主体と自治体の割合が半数程度。結果として選ばれたのは施設主体が多い。</li> <li>• チームキャンプの期間は、スコットランド3日間、アメリカ1日間と非常に短かった。</li> <li>• 地域コミュニティはチームとの交流を要望するが、トレーニングが優先された。</li> <li>• 地域には地元のクラブチームがあり、施設利用に際し、キャンプ地の担当者が調整を行った。</li> </ul>
2	チームキャンプ地 「ロンドンアイリッシュ」 (ロンドン市)	チームキャンプ地としてウェールズとフィジーが利用したラグビーチーム(プレミアシップ所属)の練習施設を視察した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域コミュニティとの交流を行う「コミュニティエンゲージメント」が行われた。</li> <li>• ただし、練習を公開するプログラムはあまり好まれない。また、ラグビー以外のプログラムが好まれる傾向。</li> </ul>
3	開催都市 「ラグビー市」 (ファン・ゾーン視察含む)	試合開催はなかったが、ラグビー発祥の地として、RWC2015 の開催都市となり、地域活性化の取組みを行ったラグビー市を視察した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ラグビー発祥の地として、ラグビーにゆかりのある観光資源(博物館、銅像、美術館)をブラッシュアップするとともに、ファン・ゾーンに多額の資金を投入し、ビジターの誘客を行う。</li> <li>• ファン・ゾーンは7週間と長期開催するとともに、音楽、芸術、文化イベントを49個も日替わりで開催した。有料イベントも開催。</li> <li>• 市の年間予算の10分の1程度を投入し、開催都市として準備した。インバウンド効果や投資の呼び込みを狙うだけではなく、市民の市への愛着心を醸成すること等を目的とした。</li> <li>• あらゆる仕掛けを“ラグビー”に関連付けて展開していることが特徴的であった。</li> </ul>
4	開催都市 「グロスター市」 (ファン・ゾーン視察含む)	日本対アメリカ戦等が開催されたグロスター市で、ファン・ゾーンや試合開催の様子を視察した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファン・ゾーンは歴史ある埠頭付近に設置。試合直前から開催時は盛り上がりつつあったが、試合開催日当日でも昼ごろは人がまばらであった。また、音楽がかかっておらず、ファン・ゾーン周辺は非常に静かな様子だった。</li> <li>• ファン・ゾーンからスタジアムまでのメイン通りでは、装飾がなされ、ガイド等が配置され、イベントも行われて盛り上がりつつあった。</li> <li>• 一方で、有名な観光名所であるグロスター大聖堂の周辺は特にRWC2015開催に関する装飾や誘導もなく、ビジターがほとんどいなかった。</li> </ul>
5	「ジャパンパビリオン」 (ロンドン市)	RWC2019の日本開催をアピールするためにロンドンに設置されているパビリオンを視察した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ウェストミンスター寺院、ビックベンの近くの好立地にイベントスペースが設置されている。</li> <li>• 日本の伝統文化の体験スペースが人気であり、外国人ビジターが参加していた。</li> </ul>

今回の視察ツアーへの同行調査の結果により、RWC2015を通じた地域活性化の取組として、以下の2点を把握した。

### **① ファン・ゾーンを通じた地域活性化**

日本対アメリカ戦が開催されたグロスター市では、ファン・ゾーンとスタジアムを結ぶメイン通りで、RWC2015にゆかりのある装飾が施され、ガイドスタッフや無料の応援グッズを配布するスタッフが配置され、公式、非公式のイベントが行われる等、盛り上がりを見せていた。また、ファン・ゾーンにおいても、パブリックビューイングが行われたスペースにおいて、試合開始直前～開催時は満員となり、盛り上がりを見せていた。スタジアムは1万6千人収容と小さいものの、日本やアメリカを応援するビジターを中心にほぼ満員であり、人口11万人程度の都市に、1万人規模のビジターが訪れること自体が、まず、地域活性化の目に見える効果と言える。また、直接的な効果に加え、日本やアメリカのファン等、開催した試合のチームのファンをはじめとする世界中のラグビーファンがグロスター市に注目する効果も大きい。

しかし、試合開始時刻（20時）より数時間以上前の昼ごろは、ファン・ゾーン付近で特に音楽も流れておらず、非常に静かな様子であり、それほど盛り上がっていないようにも見えた。また、有名な観光名所が付近にあるものの、そこへの誘客のための仕掛けがされておらず、実際にビジターが訪れている様子が見られなかった。

一方で、同じ開催都市であるラグビー市では、ラグビー発祥の地というアドバンテージがあるとはいえ、市内にある観光資源を“ラグビー”というストーリーのもとで、効果的に発掘、活用している印象を受けた。ビジター誘客効果の測定はしていなかったが、自治体担当者の説明や、視察時のビジターの様子をみる限り、一定の誘客効果を出すことに成功しているように見えた。

これらの事例より、RWC開催においては、ビジターはRWCの試合等を目的に開催都市を訪れているため、都市の観光資源を単純にそのまま紹介・提供するのではなく、ラグビーやRWCに関連付け、一連のストーリーを通じた地域活性化の取組を行うことも有効な手法のひとつではないかと考えられる。ただし、ラグビー市の事例では、市の予算規模と比較して多額の資金が必要となっている。グロスター市の場合、試合観戦に訪れるビジターの誘致に最低限必要な取組に留めている印象があり、RWC開催のために準備が出来た資金に限りがあるため、目的を絞り込んで取り組んでいた可能性もある。

### **② チームキャンプ地について**

RWC2015において、チームキャンプ地の選定からチームキャンプ地の準備、運営において、ER2015会がチームキャンプ地に様々な支援を行っていた。チームキャンプ開催に必要なジム機器や、グラウンドを覆う目隠し、撮影用の建屋等は、既存の施設になればER2015が提供していた。また、ER2015がチームベースコーディネーターを雇用し、各チームキャンプ地を担当させ、チーム、ER2015、チームキャンプ地の間の連絡調整等を支援している。

今回訪問したチームキャンプ地では、チームキャンプの誘致により、キャンプ地としての評価の向上や自治体の知名度向上等を期待していた。ウォリックスクールが日本を誘致したよう

に、人気があったり、大会で活躍したりするチームの誘致に成功した場合、マスメディアの注目も集まる効果もあった。また、ラグビー市の場合、チームキャンプ地の誘致だけではなく、試合開催はないもののファン・ゾーンの設置等を通じたRWC2015開催都市として参加しており、チームキャンプ誘致を含めた総合的な効果の実現を狙っていた。

しかし、ER2015が様々な支援をしてくれる一方で、地域コミュニティとしては、直接RWC2015参加チームとの連絡や調整を希望しても、ER2015の担当者を通じて連絡や調整する必要があり、運営の難しさが窺えた。チームキャンプ地は受け入れる参加国を希望することができず、ER2015を通じて参加国側がチームキャンプ地を選択するため、必ずしも希望する国や地域を迎え入れることができない可能性がある。

また、チームキャンプ地の誘致に成功した場合でも、「ハートプリーカレッジ」の事例では、当初計画した期間よりもチームの滞在期間が短く、受入の準備等に膨大な手間がかかったにも関わらず、ほとんど施設が利用されない結果となっていた。地域コミュニティはチームとの交流を希望するが、ER2015が実施する「コミュニティエンゲージメント」のプログラムとして交流を行うにとどまるため、基本的にはチームがトレーニングに使う施設を貸すに留まっている印象であった。

これらの事例より、RWCのチームキャンプ地の誘致により、チームキャンプ地としての評価の向上や自治体の知名度の向上等が期待されるが、チームはあくまでもRWCの試合で勝つことを最優先に行動するため、トレーニングの期間や時間等が随時変動する可能性がある。また、ER2015の協力を得られる反面、チームキャンプ地は直接チームと連絡調整ができない制約もある。地域コミュニティとしてはチームとの交流を希望するが、限られた機会となる場合もある。今回、一部のチームキャンプ地のみを調査対象としたため、2019年日本大会の開催に向けて、チームキャンプ地の誘致により地域にどのような効果がもたらされるか、どのようにすればその効果が大きくなるかについて、更なる調査研究が期待される。

### 3.2.3 調査結果：チームキャンプ地「ハートプリーカレッジ」

- **日時**：2015年10月11日（日）11時～12時半
- **場所**：ハートプリーカレッジ（チュルトナム市）
- **対応者**：
  - ER2015 クレア・バーチモア
  - ER2015 チームベースコーディネーター サイモン・ハートランド
  - ハートプリーカレッジ チームベースマネージャー アラン・パウダーヒル
  - CSM（ER2015が委託した外部コンサルティング会社）スタッフ2名
- **議事**：
  - ER2015、ハートプリーカレッジ関係者による取組みの紹介
  - チームキャンプで使用したフィールドの視察
  - チームキャンプで使用した施設の視察
- **記録**：
  - RWC2015でチームキャンプ地（チームベース）として利用された「ハートプリーカレッジ」を訪問した。スコットランドが9月19日～21日（試合は9月23日）の3日間、アメリカが10月11日（試合当日の15時～17時）に利用した。
  - 当地は1940年代後半に設立され、現在3,500人の生徒が学ぶ学校で、ラグビーグラウンド5面、サッカーグラウンド4面の広大な敷地を誇る。
  - チームベースの選定においては、ER2015により2年間の選考プロセスが行われた。90か所の施設が応募し、書類の段階で60程度が残った。
  - ER2015はチームマネージャーとともに、全ては無理であるが、全国の施設を見学し、チームマネージャーがどの施設を希望するか、要望を出した。重複した場合は世界ランキングを考慮して調整した。
  - チームベースを芝生のメンテナンスの専門家が3回訪問して評価を行っている。従来サッカー用の施設をベースキャンプとしている箇所も多く、サッカーとラグビーでベースキャンプ地に求められる要件が異なるため、そのような対応をとっている。
  - 契約条件として、大会の4週間前及び大会期間中、グラウンド1面を契約チームだけが使用できるようすることが記載されている。
  - チームベースとして最低限必要な事項があり、屋内施設があり、貸切りできる使用時間が設定されることが必要。しかし、トレーニングのスケジュールは変更が多く、調整が必要となる。
  - チームベースとしては、学校の施設であるため、契約チームだけではなく、大学も使えるようにスケジュール調整が必要となる。トレーニングスケジュールは大会の3～4カ月前に情報を得た。その後はあまり変更がなく、むしろ予定よりも使われなかった。
  - 地元のクラブチームである「グロスターラグビークラブ」が大会期間中にグラウンドを利用できないことが問題であった。

- チームによりキャンプベースへの要望が異なる。街中を好むチームがあれば、プライベートを重視して落ち着いた場所を好むチームもあった。
- チームベースマネージャーとしては、チームキャンプの準備等の際し、スコットランドやアメリカのチームマネージャーと直接調整したかったが、ER2015 としては、どのチームも公平に扱うように、ER2015 が間に入って調整する方法とした。
- 8月にトレーニングの大きなイベントを開催し、チームベースコーディネーター等が参加した。チームベースコーディネーターの役割は、安全性を担保すること。ハートプリーカレッジは問題とならなかつたが、チームベースによっては、学校があり、メディアも訪れるため、子供のプライバシーを守る必要があつた。
- チームにより、試合会場の近さを重視するチーム、特定のベースキャンプ地に長く滞在することを好むチーム等、好みが異なつた。日本は、このベースキャンプではなく、長くブライトンカレッジやウォリックスクールに滞在することを選んだ。
- ハートプリーカレッジでは、ベースキャンプのために警備員を2名雇つた。
- RWC2015 参加国の中で、ER2015 に対して通訳の手配を希望したチームは1チームと少なく、チームベースでは語学ボランティア等の対応を取る必要がなかつた。
- ハートプリーカレッジの場合、自治体ではなく、施設が単独でベースキャンプ地として応募した。ベースキャンプ地の主体として、施設が主体の場合と自治体が主体の場合は半数程度。共同で応募する場合もある。そのうち選ばれる割合が高いのは施設が主体のケースだつたように思う。
- ベースキャンプとして施設を提供するうえで、グラウンドのサイズをキングスホルムスタジアムと同じサイズに変更する必要があつた。また、グラウンドの芝の状態を良好に保つ必要があり、そういったことに費用がかかつた。その費用はハートプリーカレッジが負担し、地元の自治体からの資金支援はなかつた。ただし、チームベースにより事情は異なる。
- ER2015 はベースキャンプ地に最低限求める要件を定めているが、不足している器具等は無償で提供する。また、ベースキャンプ地として応募する際、現在は満たしていなくても、計画を示して申請することは問題ない。ただし、実際には計画が間に合わず、別の施設を利用せざるを得ないキャンプ地もあつた。
- ハートプリーカレッジのグラウンドには夜間照明はないが、トレーニングが日中しか行われなかつたため、必要がなかつた。グラウンドの夜間照明は、ER2015 がベースキャンプ地に求める要件にもなつていなかつた。
- ER2015 としては、ベースキャンプの開催により、ベースキャンプ地に RWC2015 のレガシーが残ることを目指した。
- 屋内のトレーニングジムをチームに提供した。ハートプリーカレッジの場合、必要な器具がかなり揃つていたが、ER2015 がチームベースに求める器具の不足分を ER2015 が無料で貸し出した。それらは使用後、返却してもよいし、割引料金で買い取ることもできた。ハートプリーカレッジの場合、グロスターラグビークラブが買い取りを検討している。
- 屋外練習施設に対しては、スポンサー以外の露出を制限する処置が取られており、ベースキャンプ施設のもともとの広告看板や、チームのユニフォームのロゴ、練習器具のメーカ

ーロゴ等は、ビブスやシール等で隠す処置が必要であった。

- 屋内練習施設、メディカルルームや温浴施設があった。
- メディア等が立ち入れないプライベートなチームルームを提供することが求められており、ハートプリーカレッジでも用意したが、スコットランド、アメリカともに使用している様子はなかった。
- スコットランドのキャプテンを務めるグレイグ・レイドロー選手が地元のグロスターに所属していることは、ベースキャンプ地選定において影響があったかもしれない。同校の校長がスコットランド人なので、ぜひスコットランドに来てほしいと願っていた。ただし、ベースキャンプ地はチームを選ぶことができず、チームがベースキャンプ地を選ぶ。

### 3.2.4 調査結果：チームキャンプ地「ロンドンアイリッシュ RFC」

- 日時：2015年10月12日（月）13時～14時半
- 場所：ロンドンアイリッシュ RFC（ロンドン市）
- 対応者：



- ER2015 チームサービス担当 ビッキー・ダニエル
- ER2015 チームベースコーディネーター ビーバ・ニューナン
- チームベースのリードコンタクト（窓口責任者） リチャード・ウォットン
- CSM（RWC2015が委託した外部コンサルティング会社）スタッフ2名

#### ■ 議事：

- チームキャンプに使用されたグラウンドの視察
- チームキャンプに使用されたトレーニングジム（撮影不可）、温浴施設等の視察
- チームキャンプに使用されたミーティングスペースの視察

#### ■ 記録：

- イングランドのプレミアシップ（イングランドのトップリーグ）に所属するラグビーチーム「ロンドンアイリッシュ RFC」のチーム施設を訪問。当地をウェールズとフィジーがチームキャンプ地として利用した。ウェールズは、9月21日～9月26日、及び10月に入ってからまた使用（本日も午後使用予定）。フィジーは9月9日～9月19日に使用。
- 当地には6つのラグビー用グラウンドがある。ツアーではウェールズが利用しているグラウンドを見学した。RWC2015試合会場の一つであるトゥイッケナムスタジアムは車でここから40分程の距離にある。
- RWCでは2チームがチームベースとして利用したが、プレミアシップのチームが従来使用している施設であるため、調整が必要だった。
- チームベースには、グラウンド、ジム、プール、インドアトレーニング場が必要。グラウンドは1面が貸切りとなる。ジム等は共用となり、複数のチームが使用してよい。ただし、RWC2015参加国のチームが優先となるように調整した。
- 目隠し、テント、テレビチェック用の建屋はER2015が提供したもの。
- RWC2015参加チームには、連絡調整役のリエゾンが2名ずつ帯同する。リエゾンはER2015が雇用する。2014年中頃にリエゾン希望者を募集し、面接等の選考を行い、40人を採用した。各チーム2名を割り当てた。以前より特定のチームと実績のあるリエゾンもいた。
- チームベースコーディネーターはER2015が採用する。
- ジムにはフリー筋トレ用具、バランスボール、バイク等、チームベースに要求される器具があるが、ロンドンアイリッシュは既存の用具で全て揃っていた。
- 疲労回復のためのアイスバスはER2015が各チームに3つ提供し、アイスもER2015が必要な量を提供。
- RWC2015参加チームに提供される用具類としては、チームエクイップメントとチームベースエクイップメントがあり、前者はチームと帯同していくもの、後者はチームベースに設置

しておくもの。

- ER2015 は芝生の専門家と契約し、チームベースの芝の条件設定等を任せている。
- このチームベースではセキュリティは3人配置した。
- コミュニティエンゲージメントとして、チームと地域のコミュニティが交流をするプログラムをER2015が実施した。ER2015がチームにオプションを提示し、チームが選択した。
- ロンドンアイリッシュでは、3つのコミュニティエンゲージメントが実施された。1つ目は、スクールオープントレーニングで、地域の中学生が選手のトレーニングを見学した。2つ目は、ウォーキングフットボールで、控えの選手が参加し、歩いてフットボールを行うイベント。地域の高齢者が多く参加した。3つ目は、チームのコーチがロンドンアイリッシュのファンの質疑応答に対応するイベントを開催した。3～4人のコーチが参加した。
- コミュニティエンゲージメントでは、オープントレーニングがあまり好まれず、ラグビー以外の活動を好む傾向があった。例えば、選手が病院などを訪問するプログラムも存在した。
- チームエンゲージメントはチームベースを選考した後、6～7月に計画した。

### 3.2.5 調査結果：「ラグビー市」（ファン・ゾーン視察含む）

- 日時：2015年10月13日（火）10時半～16時
- 場所：ウォリックシャー州ラグビー市
- 対応者：
  - 名誉市長 リチャード・ドット
  - 市長 マイク・ストークス
  - 市の開催準備責任者 クレア・デービス
  - 市の開催準備担当者 マイケル・バーン
  - 市の開催準備担当者 アリソン（マーケティングスケジュール、トレーニングベース等）
- 議事：
  - ラグビー市名誉市長による歓迎挨拶及びRWC2015における取組の紹介
  - ラグビー市のファン・ゾーン視察
  - 関連施設（Webb Ellis 博物館及び銅像、アートギャラリー、ラグビー校等）視察



(装飾が施された同市の様子)



(同市のファン・ゾーンの外観)



(Webb Ellis 博物館)



(Webb Ellis 銅像)



(アートギャラリー)



(ラグビー校の様子)

■ 記 録 :

- ラグビー市は RWC2015 の試合会場ではなかったが、ラグビー発祥の地として RWC2015 開催都市となり、ファン・ゾーンの設置等、RWC2015 を契機とした地域活性化に取り組み、ビジターの誘客を行った。
- ラグビー市には、今回設置したファン・ゾーンに加え、以前より、ラグビーを初めて行ったと言われている Webb Ellis 少年にゆかりのある博物館が観光名所としてある。



- Webb Ellis 少年の銅像は、RWC2015 の開催に合わせ装飾を施した。また、1987 年の第 1 回大会から全大会の結果を紹介するパネルや、ファン・ゾーンの開催を案内するパネルを設置している。



- ラグビー市には、ラグビーに関連するアートギャラリーがあり、そこでは、地域のラグビークラブのユニフォーム等、ゆかりのある品々やラグビーにまつわるアート作品を展示したり、今回 RWC2015 に合わせて製作した映像を上映したりしている。



- ラグビー市は、市の年間予算の 10 分の 1 程度に相当する 100 万ポンド、日本円で 1 億 8,500 万円の予算をかけ、RWC2015 ビジターの誘客の取り組みを行った。資金のうち、半分程度はファン・ゾーンのハード整備に投じ、残りは都市装飾やコマーシャル等に使った。
- ラグビー市がこのような取り組みを行う価値は 3 つあると考えている。1 つ目は、ラグビー市を PR すること、2 つ目は、ラグビー市の市民にラグビー市へ誇りを抱いてもらうこと、3 つ目は、ラグビー市への投資を呼び込むこと。
- ラグビーに関連するアートイベントも開催した。街中のあちこちに、アート装飾として大きなラグビーボールを設置した。



- ウォリックシャー州において日本代表がベースキャンプを行った（9月23日～10月12日）。選手が出来るだけトレーニングに集中できるように、市民との関わりは極力控えるようにした。
- 日本チームの活躍もあり、チームキャンプはメディアの大きな注目を集めた。日本のメディア関係者だけで60人が集まった。
- ラグビー市のファン・ゾーンは2,000人を収容することが出来て、大会期間中、3週間に渡り開催している。一般の来場者に加え、イベントスペース等に、市内の3,000人の子供が順次訪れている。



- ファン・ゾーンでは、49個のプログラムが日替わりで開催されており、プロの演奏家が行うショー等は入場料が設定されている（下図の音楽イベントは入場料18ポンド）。



（フェスティバルガイドブック）

A-Z LISTING OF EVENTS	
EVENT	DATE
A Cartoon History of Here	Tuesday 13 October
Alice in Wonderland	Thursday 23 October
Amnesty	Sunday 11 October
Back to the Future	Sunday 1 November
Benn Hall Comedy Night	Wednesday 21 October
Blooming Homeless with James Wong	Thursday 27 September
Board Games Night	Thursday 25 October
Building Jerusalem	Tuesday 15 September
Catherine Spencer & Friends	Friday 23 October
Celebration Dinner with Gavin Hastings	Tuesday 22 September
Comedy Night & Auction	Friday 9 October
Dramatic Draw	Thursday 1 October
Eleatic Music	Thursday 2 November
Fashion Show	Thursday 12 October
Flying Balls with Paul Grayson	Monday 5 October
From Soldiers to Show the Sheep	Wednesday 22 September
Gala Proms Charity Concert	Thursday 23 October
Graham Ribbons Exhibition	12 September 2015 to 9 January 2016
Grav	Monday 5 October
Half Term Activities	Wednesday 21 to Saturday 31 October
Horvitz	Saturday 12 September
Light party	Thursday 28 October

（49個のイベントを掲載）



（イベントの紹介頁）

- ラグビー校では、広大な敷地に全面芝生のラグビーグラウンドを有し、子ども達が学校の授業の中でラグビー競技を行っている。学校内には、RWC2015に関する展示スペースもある。同校はラグビー発祥の場所として世界的に有名であり、専門のガイドが付いたツアーも定期的で開催されている。



<参考：ラグビー市のファン・ゾーンで開催される 49 個のイベントのリスト>

## A-Z LISTING OF EVENTS

EVENT	DATE
A Cartoon History of Here	Tuesday 13 October
Alice in Wonderland	Thursday 29 October
Arrietty	Sunday 11 October
Back to the Future	Sunday 1 November
Benn Hall Comedy Night	Wednesday 21 October
Blooming Marvellous with James Wong	Thursday 17 September
Board Games Night	Thursday 22 October
Building Jerusalem	Tuesday 15 September
Catherine Spencer & Friends	Friday 23 October
Celebration Dinner with Gavin Hastings	Tuesday 22 September
Comedy Night & Auction	Friday 9 October
Dramatic Draw	Thursday 1 October
Elevate Music	Thursday 5 November
Fashion Show	Thursday 15 October
Flying Balls with Paul Grayson	Monday 5 October
From Spiderman to Shaun the Sheep	Wednesday 23 September
Gala Proms Charity Concert	Thursday 29 October
Graham Ibbeson Exhibition	12 September 2015 to 9 January 2016
Grav	Monday 21 September
Half Term Activities	Wednesday 21 to Saturday 31 October
Invictus	Saturday 12 September
Light party	Thursday 29 October
Local Club History	12 September 2015 to 9 January 2016
Mallory Knox	Thursday 24 September
Multimedia Sports Quiz	Wednesday 16 September
Murderball	Monday 19 October
Parliamentary World Cup 2015	Sunday 13 September
Poets in Touch	Tuesday 29 September
Rotary Extravaganza	Monday 28 September
Rugby Drinks Festival	Friday 25 September
Rugby Football Open Exhibition	12 September 2015 to 9 January 2016
Rugby Fun Day	Monday 26 October
Rupert Brooke	Wednesday 14 October
Screening of The Gain Line with Ravi Deepres	Tuesday 20 October
Sewa Fare	Friday 2 October
Shaun The Sheep	Saturday 17 October
Songs of Praise & Family Fun Time	Sunday 13 September
Stringfever in Concert	Thursday 29 October
Swing Low Sweet Chariot	Sunday 1 November
Tackle the Big Draw	Saturday 10 October
The ACM Gospel Choir	Thursday 8 October
The Gain Line	12 September 2015 to 9 January 2016
The Ministry of Science	Wednesday 28 October
The Oval World	Wednesday 30 September
The Searchers	Friday 16 October
The Secret of Kells	Sunday 4 October
The Stories behind the Goalpost	Tuesday 6 October
Wild Tales	Monday 12 October
Wind in the Willows	Tuesday 27 October

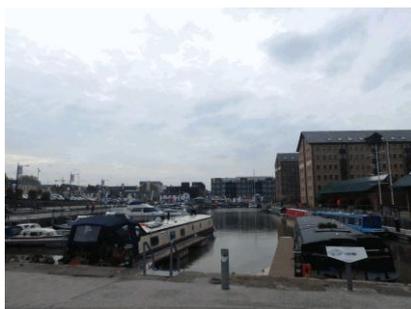
### 3.2.6 調査結果：「グロスター市」(ファン・ゾーン視察含む)

■ 日時：2015年10月11日(日) 11時～14時、17時～22時

■ 場所：グロスター市

■ 議事：

- ファン・ゾーン及び周辺施設の視察
- キングスホルムスタジアムでの日本対アメリカ戦の視察



(ファン・ゾーンが設置された埠頭)



(ファン・ゾーンの様子。ラグビー体験コーナー等を設置)



(パブリックビューイングが設置されたファン・ゾーンスペースは、入場時に荷物チェックを行う。観覧席も設置)



(ファン・ゾーン入口のゲート)



(試合開始直前のファン・ゾーン)



(試合会場までの通りの装飾の様子)



(非公式のイベントを行う人々)



(試合会場付近で太鼓のイベント)



(試合会場付近は大勢の人で混雑)

## ■ 記 録：

- グロスターのファン・ゾーンは、パブリックビューイングを設置した制限エリアが 5,000 人収容出来る大きさ。仮設の観客席が設置されている。
- ファン・ゾーンの周辺は柵で覆われ、設置されている 1 か所の出入口からのみ入退場が出来るようになっている。入場時に荷物チェックが行われる。
- 制限エリアとは別に、埠頭付近に、ラグビー体験等ができるファン・ゾーンスペースが設置されている。このゾーンは入退場の管理はされていない。
- パブリックビューイングがあるファン・ゾーンは、試合当日でも、お昼過ぎの時間帯では人もまばらな状態であり、ビジターは芝生のスペースに寝ころびながらスクリーンに投影されている映像を視聴していた。
- ファン・ゾーンのパブリックビューイングでは、映像を放映しているが、それ以外のスペースでは音楽が特に放送されておらず、埠頭付近一帯が静かな状態であった。
- ファン・ゾーンを試合時間の間近に再度訪問したところ、満員の状態となり、観客席以外は立ち見で映像を視聴していた。その際、他の会場で行われているフランス対アイルランドの試合が放映されており、アイルランド人等が応援をしていた。
- グロスターには、映画「ハリー・ポッター」の撮影にも使用され、観光地として有名な「グロスター大聖堂」があり、ファン・ゾーンと試合会場を結ぶルートとのすぐ近くであったが、訪問した際は、ビジターが集まっている様子はあまり見受けられなかった。



- ファン・ゾーンから試合会場までのメイン通りには、一定間隔ごとに、案内スタッフが配置されていた。また、試合会場付近では、日本とアメリカを応援する国旗や、ビジターが自由にメッセージを書いて掲げることができる応援グッズが配布されていた。



- 試合会場のキングスホルムスタジアムは1万6千人収容と規模の小さいスタジアムである。スタジアム脇には、公式グッズショップが設置されている。



- 試合会場付近は車の交通が制限されている。

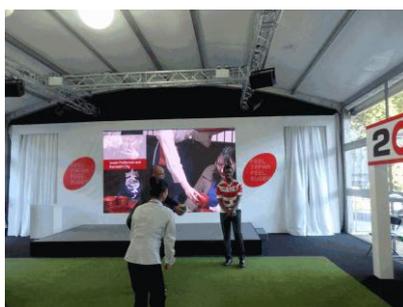


### 3.2.7 調査結果：「ジャパンパビリオン」

- 日時：2015年10月12日（月）15時～15時半
- 場所：クイーンエリザベス二世カンファレンスセンター（ロンドン市）
- 議事：
  - ジャパンパビリオン視察



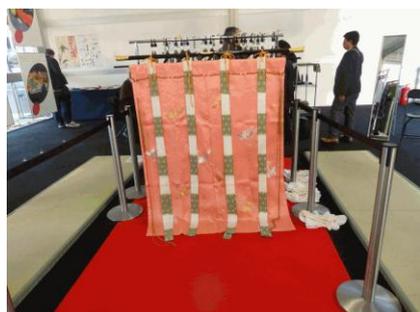
(センター外観)



(ラグビー体験のイベントスペース)



(RWC2019開催自治体の案内)



(着物、けん玉、習字等、日本の伝統文化を紹介するスペースが設置されている)

#### ■ 記録：

- RWC2019の日本開催をPRするジャパンパビリオンを視察した。有名な観光地であるウエストミンスター寺院の前で、ビックベンのすぐ近くであり、観光客へのアピールに適した場所に設置されている。
- 10月9日にオープンし、大会期間中の10月31日まで設置されている。10月21日までは視察した屋外施設で展示が行われ、10月24日からは、隣接する建物の2階に別途展示ルームが設置される予定。開館時間は11時～18時。屋外テントで、日本の省庁の展示も行った。
- 視察した際には、来場者（日本人以外）が習字等、日本の伝統文化を体験していた。

**3.3 RWC2015に関する調査：**

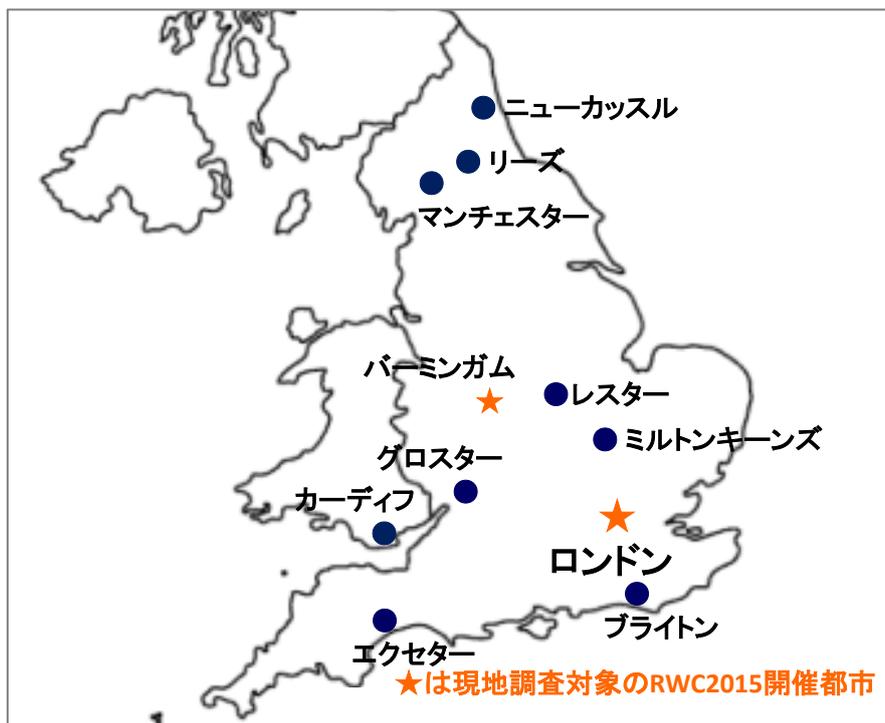
**ファン・ゾーン等の現地視察調査（大会期間中）**

### 3.3 RWC2015 に関する調査：ファン・ゾーン等の現地視察調査（大会期間中）

#### 3.3.1 調査概要

- 目的：RWC2015 の開催都市等におけるファン・ゾーンの様子を記録すること。
- 方法：現地調査
- 期間：2015 年 9 月 18 日（金）～10 月 24 日（土）
- 対象：下表の 7 都市及びニュージーランド政府
  - ・ ファン・ゾーン「ウェンブリー」（ロンドン市ブレント区）
  - ・ ファン・ゾーン「リッチモンド」（ロンドン市リッチモンド区）
  - ・ ファン・ゾーン「ニューハム」（ロンドン市ニューハム区）
  - ・ ファン・ゾーン「トラファルガースクエア」（ロンドン市）
  - ・ ファン・ゾーン「ブライトン」（ブライトン市）
  - ・ ファン・ゾーン「ミルトン・キーンズ」（ミルトン・キーンズ市）

図表 3-3-1. RWC2015 のファン・ゾーン（★印が現地調査対象とした RWC2015 開催都市）



### 3.3.2 調査結果のまとめ

今回の各視察先での調査結果を下表に整理した。

訪問先	主な調査結果
ウェンブリー(ロンドン市 ブレント区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収容人数：15,000人</li> <li>• 開催日：2日間（2015年9月20日（日）及び9月27日（日））</li> <li>• スタジアムから歩いて10分程度の距離に設置。</li> <li>• ファン・ゾーンの入場には、当日の試合のチケットが必要。</li> </ul>
リッチモンド(ロンドン市 リッチモンド区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収容人数：10,000人</li> <li>• 開催日：19日間（スタジアムで試合があった10日間を含む。主に週末に開催）</li> <li>• スタジアムからは歩いて35分ほどかかり、徒歩移動は困難であった。試合開催日はシャトルバスが利用できた。</li> <li>• ファン・ゾーンの入場は無料。</li> </ul>
ニューハム(ロンドン市 ニューハム区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収容人数：10,000人</li> <li>• 開催日：15日間（計画時）。ただし、2015年9月23日～10月31日のうち15日間開催する予定のところ、ER2015が10月24日に訪問し、閉鎖を決定したため、実際は15日間より短かった。</li> <li>• ファン・ゾーンの入場は無料だが、イングランドの試合がある際は有料だった。</li> </ul>
トラファルガースクエア (ロンドン市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収容人数：5,000人</li> <li>• 開催日：5日間（計画時）。ただし、実際は2015年10月23日（金）～31日（土）にかけて開催された。</li> <li>• 入口が2ヶ所あり、警備員が入場者をチェックしていた。</li> </ul>
ブライトン (ブライトン市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収容人数：10,000人</li> <li>• 開催日：2015年9月28日（月）～9月30日（水）の3日間</li> <li>• スタジアムから歩いて20分程度かかる海岸付近に設置された。</li> </ul>
ミルトン・キーンズ (ミルトン・キーンズ市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収容人数：5,000人（計画時）。実際は10,000人を上限として入場可。</li> <li>• 開催日：11日間（2015年10月1日（木）～10月11日（日））</li> </ul>

■ RWC2015 におけるファン・ゾーンの概要：

RWC2015 では、試合開催のあった 11 都市に加え、ファン・ゾーンのみ開催したラグビー市を含め、計 12 都市で 15 箇所のファン・ゾーンが開催された。開催日や収容人数（計画時）は下表のとおり。

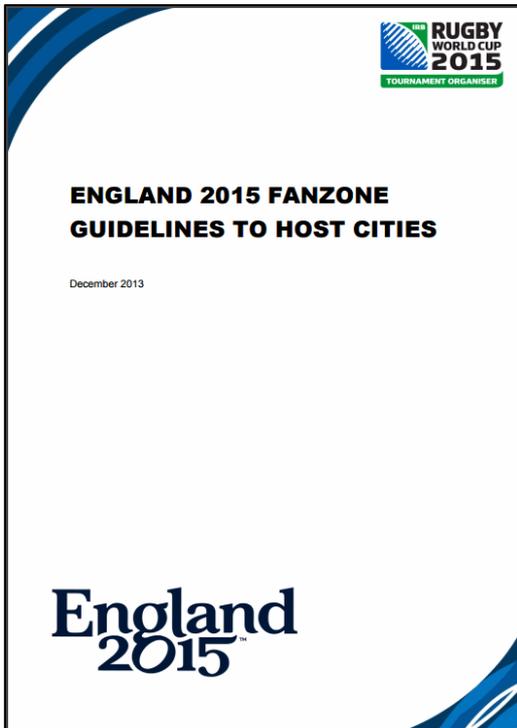


CITY	FANZONE NAME/LOCATION	DAYS OPEN	CAPACITY
Birmingham バーミンガム市	Eastside Park	8	8,000
Brighton & Hove ブライトン市	Madeira Drive	3	10,000
Cardiff カーディフ市	Cardiff Arms Park	11	5,000 +
Exeter エクセター市	Northernhay Gardens	13	5,000
Gloucester グロスター市	Gloucester Docks	11	5,000
Leeds リーズ市	Millennium Square	18	5,000
Leicester レスター市	Victoria Park	7	5,000 +
London: Brent ロンドン市ブレント区	Wembley Park	2	c.15,000
London: Newham ロンドン市ニューハム区	Queen Elizabeth Olympic Park	15	c.10,000
London: Richmond ロンドン市リッチモンド区	Old Deer Park	19	10,000
Manchester マンチェスター市	Albert Square	3	8,000
Milton Keynes ミルトン・キーンズ市	Campbell Park	7	5,000 +
Newcastle Upon Tyne ニューキャッスル市	Science Central	10	10,000
Rugby ラグビー市	Old Market Place	17	2,000
Central London ロンドン市中心部	Trafalgar Square*	5	5,000

\*No live screening

■ RWC2015 におけるファン・ゾーンのガイドライン：

RWC2015 開催自治体には、RWC Limited より、ファン・ゾーンに関するガイドラインが提示され、一定の基準を順守することが契約で義務付けられている。(概要は次頁以降)



**England 2015**

England 2015 Fanzone Guidelines to Host Cities

<b>CONTENTS</b>	<b>PAGE</b>
Glossary of Terms.....	5
Section One – Fanzones Overview & General Principles.....	7
1.1 Purpose of the Fanzone Guidelines.....	7
1.2 Rugby World Cup 2015 – Vision & Values.....	7
1.3 Delivering the Vision.....	7
1.4 Host Union Agreement Requirements.....	8
1.5 Official RWC Fanzone Status.....	8
1.6 Fanzone Approval Process.....	8
1.7 Basic Commercial Principles.....	8
1.8 Host City Fanzone Operational Plans.....	8
1.9 Purple Guide.....	9
Section Two – Core Elements.....	10
2.1 Location of Fanzone.....	10
2.2 Opening Days & Times.....	10
2.3 General Admission Policies.....	10
2.4 Big Screen(s) & PA Systems.....	10
2.5 Stage/Presentation Area.....	11
2.6 Rugby Activity.....	11
2.7 Kit of Parts.....	11
2.8 Fanzone Perimeter.....	12
2.9 Promotion of the Fanzone.....	12
2.10 Safety & Security.....	12
2.11 Tournament Look & Feel.....	12
2.12 Accessibility.....	12
2.13 Insurance & Public Liability.....	12
Section Three – Rugby World Cup Sponsors, Suppliers & Licensees.....	14
3.1 RWC Commercial Structure.....	14
3.2 RWC Sponsor Designations & Tiers.....	14
3.3 Commercial Partner Access to Fanzones.....	14
3.4 Permitted Commercial Partner Activity.....	15
3.5 RWC Merchandise.....	15
3.6 Host City Requirements in Terms of RWC Sponsor Activity.....	15
3.7 Communication with RWC Commercial Partners.....	15
4.1 Big Screen Content.....	16

Page 2 of 31

**England 2015**

4.2 Dig Screen Advertising.....	16
4.3 Non Screen Permitted Entertainment.....	16
4.4 Entertainment Running Order.....	17
4.5 Non RWC Event Days – Commercialisation of Event Space by Host Cities.....	17
Section Five – Catering.....	18
5.1 Catering Operator Guides.....	18
5.2 F&B Commercial Principles.....	18
5.3 Compulsory & Exclusive Product Lines.....	18
5.4 Further Potential Exclusive Product Categories.....	20
5.5 Non RWC Associated Product Lines Permitted.....	20
5.6 Hospitality Areas.....	20
5.7 F&B Standards.....	21
5.8 F&B Sustainability Standards.....	21
Section Six – Commercial Branding Rights.....	22
6.1 Definition of Commercially Clean.....	22
6.2 Branding Rights (for RWC Commercial Partners).....	22
6.3 Catering Concessions Branding Rights.....	22
6.4 Host City Branding Rights.....	22
6.6 Third Party Branding Rights.....	22
6.7 Official Fanzone Designation.....	23
6.8 Commercial Rights Protection.....	23
Section Seven – Host City Contractors & Vendors.....	24
7.1 Procedures for Third Party Contractors & Vendors.....	24
7.2 Exclusive Categories.....	24
7.3 Non Permitted Vendors.....	24
7.4 Policy on Giveaways.....	24
7.5 Vendor Trading.....	24
Section Eight - Additional Host City Rights, Requirements & Further Guidelines.....	25
8.1 Third Party Funding.....	25
8.2 Access for Press & Media.....	25
8.3 Technology Requirements.....	25
8.4 Wi-Fi.....	25
8.5 Charities.....	25
8.6 Smoking Policy.....	26
8.7 Host City Complimentary Service Obligations.....	26
8.8 Data Capture/Market Research.....	26
8.9 Relationship with HCA.....	26

Page 3 of 31

**England 2015**

Appendices.....	27
APPENDIX A – Fanzone Audit Checklist.....	27
APPENDIX B – RWC Commercial Partner Profiles.....	29

Page 4 of 31

[引用 : [http://gloucestershirerfu.co.uk/FCKfiles/File/20140131\\_1Appendix\\_1\\_-\\_England\\_2015\\_Fanzone\\_Guidelines.pdf](http://gloucestershirerfu.co.uk/FCKfiles/File/20140131_1Appendix_1_-_England_2015_Fanzone_Guidelines.pdf)]

<RWC2015におけるファン・ゾーンのガイドライン目次の日本語訳>

項目	内容	概要
用語解説		
1. ファン・ゾーン概要・原則	1.1 本ガイドライン作成の目的 1.2 RWC2015 の構想と大会意義 1.3 ファン・ゾーンの構想 1.4 ホストユニオンアグリーメント 1.5 RWC 公式ファン・ゾーン規程 1.6 ファン・ゾーンの承認プロセス 1.7 基本的宣伝規程 1.8 ファン・ゾーンにおけるプラン 提出 1.9 安全規程	RWC2015 の基本的な概要、運営にと もなるルール。どの様なモットー をもって、各地域のファン・ゾー ンを運営していくのかを明記。 RWC2015 と Rugby Football Union (RFU) のテーマを改めて明 記。安全規程は、国の安全規程 「Purple Guide (パープルガイド)」 に則するよう指示されている。
2. 重要項目 (開催に当たる)	2.1 ファン・ゾーンの開催場所 2.2 開催時期・時間 2.3 入場規程 2.4 スクリーンと音声 2.5 ステージ・パフォーマンスエリ ア 2.6 ラグビーに関するアクティビテ イ 2.7 パーツキット (施設の組立て) 2.8 ファン・ゾーンの周辺に関して 2.9 ファン・ゾーンのプロモーショ ン 2.10 ファン・ゾーンの安全体制 2.11 公式の外観・装飾 2.12 障がい者・高齢者対応 2.13 保険・公的義務	開催に伴って、ファン・ゾーンの 開催場所・規模・開催期間の規程 等が明記している。スクリーン設 置や放送コンテンツ、設置機器の 組立てに必要な機材の指定も本章 では説明している。

<p>3. スポンサー／供給者／ライセンス</p>	<p>3.1 広告規程  3.2 スポンサーの指定のその階級  3.3 提携相手のファン・ゾーン利用  3.4 提携相手によるファン・ゾーン内での活動  3.5 RWC の商品  3.6 ホストシティの必須要件;RWC のスポンサー活動に関して  3.7 提携相手との連絡方法</p>	<p>RWC Limited が RWC2015 に関わる一切の権利を有し、売り上げも管理している。  以上を踏まえ、本章では提供会社・協賛会社・放送権に関する記述をしている。  ホストシティは提供・協賛会社とどの様に付き合いながらファン・ゾーンを運営していくのかその指針を明記。</p>
<p>4. エンターテイメント</p>	<p>4.1 大型スクリーンの内容  4.2 大型スクリーンでの広告  4.3 スクリーンで放送しないエンターテイメント  4.4 エンターテイメントの公演順序  4.5 RWC のイベントが行われない日に関して：ホストシティによる PR イベント</p>	<p>大型スクリーンで放送する内容、そのスクリーンで放送できる放送会社の指定、及びスクリーンを利用しないで公演するエンターテイメントをいつまでに決定すべきか等を明記。</p>
<p>5. ケータリング（食品提供に関して）</p>	<p>5.1 食品提供者への指示  5.2 飲食の広告に関して  5.3 強制・独占権を持つ商品ライン  5.4 その他の独占権製品の 카테고리  5.5 RWC が認可していない団体の製品に関して  5.6 ホスピタリティーエリア  5.7 飲食の価格基準  5.8 飲食に関わる環境配慮</p>	<p>飲食に関わる全ての規程と協賛会社との関係性を明記。特に、ファン・ゾーンの飲食コーナーでは協賛・提供会社の商品を前面に売り出す必要がある。  また、VIP コーナーにいる人には過度なサービスを行わないようにとする指摘や、ファン・ゾーンでのラグビー以外の活動（オークションやエンターテイメントとみなされない公演など）の制約を明記。</p>

<p>6. 宣伝や商標権に関して</p>	<p>6.1 コマーシャリークリーンの定義          6.2 商標に関して（提携相手用）          6.3 食品に関する商標権          6.4 ホストシティに関する商標          6.5 *記載なし          6.6 外部関係者の商標          6.7 公式ファン・ゾーンの名称          6.8 商権の保護</p> <p>*6.5 の表記がないため、オリジナルの文章のまま作成</p>	<p>決められた文言や提供・協賛会社の広告を提示するよう明記している。また、ホストシティのみファン・ゾーンという名称の提示許可を得ている。</p> <p>ファン・ゾーン内では基本的に、協賛・提供会社の広告以外は一切行ってはならないが、例外として、ファン・ゾーンのテーマであるラグビーらしさを演出する為に、地元のラグビー団体の紹介をすることは許可されている。</p>
<p>7. ホストシティと提供会社との契約</p>	<p>7.1 第三者委託者と供給者のための手続き          7.2 独占品目に関して          7.3 不認可の供給者に関して          7.4 景品に関する規定          7.5 供給取引</p>	<p>第三者（公式パートナー以外）から商品を購入する際は事前の許可を ER2015 に取ること（つまり RFCL に許可を得ること）が求められている。</p>
<p>8. ホストシティへの権利、RWC2015 組織委員からの要望、追加ガイドライン</p>	<p>8.1 第三者の出資          8.2 報道関係者のアクセス          8.3 技術機器に関する条件          8.4 Wi-Fi          8.5 奉仕活動（地域）          8.6 喫煙に関して          8.7 ホストシティによる提供義務          8.8 データ収集・市場調査          8.9 ホストシティアグリーメントとの関連性</p>	<p>RWC2015 に関わる全ての出資は非営利団体のみ認可されており、それ以外の追加出資（ファンゾーンに携わる）は許可されていない。</p> <p>また、事前の申請によりファン・ゾーン内の撮影とコンテンツの使用が報道関係者に許可されている。</p> <p>ホストシティ自体で、飲料水の確保や障がい者・高齢者用の施設確保、そして観光客用の情報案内板の確保を行わなければならない。そして、ファン・ゾーン内で起こる全ての責任はホストシティが有するものとする。</p>

### 3.3.3 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市ブレント区」

■ 日時：2015年9月27日（日）

■ 場所：ファン・ゾーン「ロンドン市ブレント区」

#### ■ 概要：

ブレント区（ウェンブリー）はロンドン市内でファン・ゾーンを実施した4か所のうちの1か所である。特筆すべき点としては、同地区は世界で最も有名なスポーツスタジアム「ウェンブリー」がある場所で、過去にはUEFAチャンピオンズリーグやFIFAワールドカップ、イギリスで行われる国際試合やオリンピックでも使用された。約90,000人もの収容が可能であることも特徴である。

#### ■ ファン・ゾーン スケジュール：

ファン・ゾーンは2日間、2015年9月20日（日）の11時～16時15分と2015年9月27日（日）の11時～16時15分のみ開催された。また、ファン・ゾーンは20日か27日に行われる試合のチケットを持つものしか利用することができなかった。

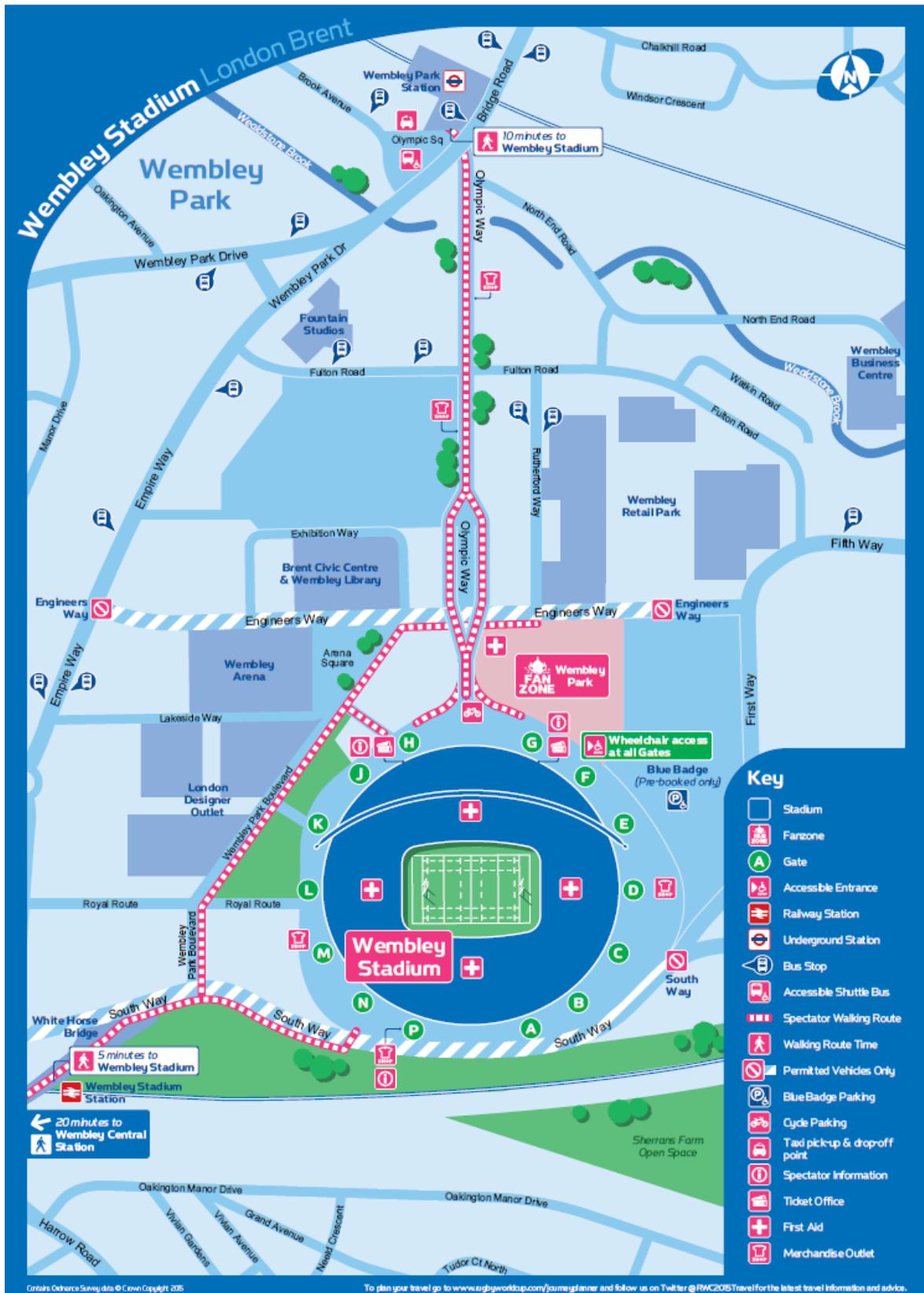
#### <イベント情報>

同地区におけるファン・ゾーンは、試合が行われたウェンブリースタジアムに隣接する場所で開催された。多くのサポーターは、このウェンブリーで試合がされること、そして試合前に行われるエンターテイメント等を楽しみにしていた。

ファン・ゾーンにおける設備（9月27日）

- カウンター付きのバー、そしてそこで提供される食事（Heinekenが提供し、お酒は大容量サイズから小さいものまで準備）
- ルーマニア対アイルランドの試合が行われた際、アイルランド音楽の演奏を実施
- ラグビーに特化したファンの為のアクティビティ（スクラムが体験できる器具、パスやタックルができるコーナーを設置）
- スポンサーによるエンターテイメント（マスターカードが特別塗装したバスの運行、DHL スクラムチャレンジ）

150名ものボランティアがスタジアム内とファン・ゾーンで採用され、試合会場とファン・ゾーンにおいて試合開催時のみ働いていた。



(ファン・ゾーンとウェンブリースタジアムの位置関係、及びその地図)

[引用 : ER2015\_Wembley\_Venue\_Travel\_Guide\_V2]

## ■ ファン・ゾーン内



(エミレーツ航空の広告兼ファンへのアクティビティ) (警備員がファン・ゾーンの前で、チケットと安全の確認をしている様子)



(試合前に、ファンの為に開放したアクティビティスペース)



(現場におけるトイレの状況)

(記念撮影場所／選手の看板と写真が撮れるエリア)



(スクラムチャレンジをしている子供)

(大人から子供が体験できるフェイスペイントのコーナー。  
自分の母国の色に合わせて、顔にペイントをすることができる)



(RWC オフィシャルパートナーの DHL が独自でスクラムチャレンジを開いている様子)



(DHL がデザインした “I love Rugby” の応援グッズを配っている様子／実際に配布された応援グッズ)



(マスターカードがオリジナルのデザインをしたバス。「ファンを世界へ旅立たせよう」(take fans on a journey around the world) がコンセプト)



(広い芝生にオーケストラが来て演奏している様子。この日はアイルランド対ルーマニアの試合があり、アイルランドの民族音楽が演奏された)



(ファン・ゾーンにあるケータリングのお店) (ファン・ゾーンが徐々に賑わいを見せている様子) (ファン・ゾーンの上空写真)



(試合状況を設置型スクリーンで上映している様子)



(スタジアム内のケータリング)

### 3.3.4 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市リッチモンド区」

■ 日 時：2015年10月2日（金）

■ 場 所：ファン・ゾーン「ロンドン市リッチモンド区」

■ 概要：

リッチモンドはロンドンの南西にある郊外の街で、王室にまつわる歴史などがある有名な地域である。トゥイッケナムスタジアムで試合を開催し、さらにこの地域はイギリスのラグビーの故郷でありラグビーに熱心な地域として有名。

■ ファン・ゾーンスケジュール：

ファン・ゾーンは、スタジアムで試合があった10日間を含めた19日間（主に週末）開催された。開催期間中は無料で出入りが可能であり、試合開催日にはシャトルバスを運行させた。また、交通整備のため、RWCと書かれているオレンジと緑の服を着た人が街中に配置されて、車などの交通の流れを止め、道にあふれているファン等の人の安全を確保したり、横断歩道を安全に渡らせたりしていた。

#### <イベント情報>

主なファン・アクティビティは『the Old Deer Park』にあるファン・ゾーンで行われた。このファン・ゾーンは地下鉄の駅から徒歩数分の距離に位置する。ファンイベントは地元自治体と提供会社（マスターカードやエミレーツ航空など）、そしてER2015及び地元のイベント運営会社によって運営されていた。

リッチモンドで行われたイベントや設置したものは下記のとおりである。

- Festival of Rugby（ラグビーをテーマにしたイベントを実施）
- ファン・ゾーン
- 室内で観戦できる大型スクリーン完備のテント
- 野外スクリーン
- 観覧車やメリーゴーランドの設置
- ピクニックエリアやラグビーのフィールド
- ラグビー以外のチケットで参加できるアクティビティ（コンサートやパフォーマンス等）
- マスターカードなどの提供会社による、広告やパビリオン

リッチモンド駅からファン・ゾーンへの行き方（ファンゾーンの地図を参照）：



(スタジアムからファン・ゾーンまで徒歩約 35 分)

[引用 : ER2015\_Twickenham\_Venue\_Travel\_Guide\_V1]



(ファン・ゾーンの地図)

[引用 : THE RUGBY WORLD CUP FANZONE SITE MAP]

■ ファン・ゾーン :



(ファン・ゾーン内の道)



(マスターカードによる大きなパビリオン)



(エミレーツ航空の PR パビリオン)



(ファン・ゾーンで行われるイベント案内版)



(観覧車やメリーゴーランド)



(ファン・ゾーンの風景)



(車で移動可能な銀行。引出のみ)



(Heineken によるバー)



(青いテントのなかでは来場者が座ってお酒を飲みながらスクリーンで試合を観戦できる)



(ファンの為に開放されたラグビーの運動場)



(試合を上映した大型スクリーン)



(落ち着いて座れるスペース)



(イベント用のチケットを売るブース)



(テント内では RWC のオフィシャルグッズが購入できる)



(エミレーツ航空のパビリオンのなか。来場者は 3D の写真を自分で撮ることができる)

■ ファン・ゾーン: インドアスペースのテント内 :



(テントの入り口付近)



(バー)



(来場者が座ってスクリーンを観られるスペース)



(座席からスクリーンを見た雰囲気)

■ マスターカードによるファン・ゾーン :

マスターカードが独自に持つパビリオンで、RWC のアンセム (テーマソング) を歌ったり、飲み物を売ったり、どの国の選手が一番良いプレーをしているかの選挙を行ったり、ファンへのフェイスペインティングなどを行った。



### 3.3.5 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市ニューハム区」

- 日 時：2015年10月24日（土）
- 場 所：ファン・ゾーン「ロンドン市ニューハム区」
- 概 要：

ニューハムは特別区の一つとして存在する都市であり、ロンドンの東側に位置する。オリンピックスタジアムを有するオリンピックパークの一部が Westfield Shopping Centre の隣にある。

#### ■ ファン・ゾーンスケジュール：

ファン・ゾーンは2015年9月23日（水）～2015年10月31日（土）まで開催される予定だったが、ER2015と協議し、10月11日（日）を最後とし、それ以降はファン・ゾーンを閉鎖した。ファン・ゾーンは無料で一般人に開放されたが、イングランドチームの試合があるときは有料だった。

#### <イベント情報>

ニューハムのファン・ゾーンには試合観戦用の大きなスクリーン、ファンが楽しめるラグビーのアクティビティ、スポンサーとパートナーによるゾーンの活性化、飲食の販売、エンターテイメント、そしてRWC2015を祝う地元による催しが行われた。エンターテイメントとしては、有名なラグビースターやRWCの優勝カップの登場、地元のミュージシャンによる演奏などが行われた。

ファン・ゾーンで行われた上記アクティビティ全ては、RFU、ニューハム自治体のレジャー担当、東ロンドンRFUによって運営された。

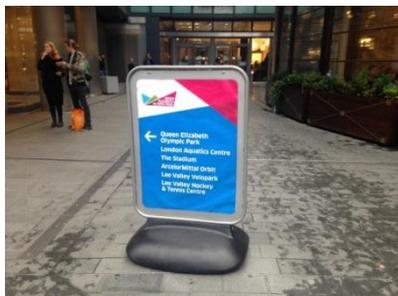
ニューハム自治体関係者の話では、このファン・ゾーンに多くの来場者が訪れていた（2015年10月の初めには、60,000人もの来場者が訪れていた）にも関わらず、運営期間の最終日を待たずにファン・ゾーンの開催を終了した。その理由として、ER2015の代表が10月24日にファン・ゾーンを訪れ、その際、チケット保有者のみが入場できる日の来場者管理が上手く行かず、混乱が生じたため、ファン・ゾーンを閉鎖すべきだとスタジアム運営責任者にコメントをしたためである。ちなみに、イングランドが当時試合に負けていた現状も一要因だとされている。これに応じファン・ゾーンを閉鎖した。



(ニューハムのファン・ゾーンの位置関係、及びその地図)

[引用 : ER2015\_Olympic\_Venue\_Travel\_Guide\_V1]

■ ファン・ゾーンまでの道のり :



(スタジアムまでの案内をしている看板)



(地下にある看板)



(ファン・ゾーンまでの道)



(ファン・ゾーンがあったとされる場所。既に閉鎖し屋台などは取り除かれていた)

### 3.3.6 調査結果：ファン・ゾーン「ロンドン市トラファルガースクエア」

- 日時：2015年10月24日（土）
- 場所：ファン・ゾーン「ロンドン市トラファルガースクエア」

#### ■ 概要：

トラファルガースクエアはロンドン市内の象徴的な広場であり、観光客にとっても有名な観光地である。

#### ■ ファン・ゾーンのスケジュール：

トラファルガースクエアのファン・ゾーンは、2015年10月23日（金）～2015年10月30日（金）の間に限定的に開かれた。準決勝・決勝戦の際も開催。

#### <イベント情報（場所・デザイナー・スポンサー・目的）>

トラファルガースクエアでは、ロンドン市関係当局と ER2015 が主催者となりイベントを開催した。

ファン・ゾーンのイベントは、以下のとおり。

- 特設ステージにおけるラグビーを感じるセッション：ラグビーをテーマにしたゲームや RWC の情報、過去の有名なラグビー選手の登壇、ラグビー選手 OB によるラグビースクールの開講や、1万人の女性をラグビーに興味を持ってもらう試みであるラグビーウーマンの開催など。
- RWC の生中継
- Webb Ellis Cup (RWC の優勝トロフィー) の公開展示
- エミレーツ航空による体験ブース
- マスターカードによる特別塗装のバス運行及びフェイスペインティング
- Heineken バー
- カンターベリー社によるラグビー関連の映像の上映、スピードのテスト、ダイビングトライのアトラクション
- コカ・コーラ社のサンプル商品配布
- ダヴ社の男性用肌化粧品によるイベント
- 公式 RWC グッズ販売ブース
- JR2019 による公式ブース



(左記 3D で作成されたイメージ図は、トラファルガースクエアで行われた違うイベントのイメージ図であるため、本画像はデモ目的のみ有効)



(ファン・ゾーンの外観)



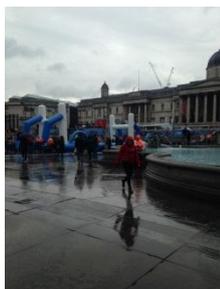
(食べ物の屋台)



(救護施設とトイレ)



(2つある入口のうちの1つ。警備員のチェックを通過してからでないと、入場できない)



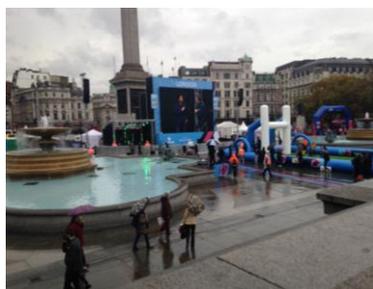
(スクラムチャレンジができる場所)



(コカ・コーラ社と Heineken の屋台)



(Heineken のバー)



(ファン用に設置している大きなスクリーン。試合やラグビーに関連した映像を上映する)



(RWC の優勝トロフィーを飾っている車。トロフィーツアーもこの車でまわる)



(Dove 社によるパビリオン)



(RWC 公式グッズ販売場所)



(ロンドン市の市長も参加しているという広告看板)

■ RWC2019 : ファン・ゾーン内に出店した日本のパビリオン :



(RWC2019 に向けた日本の PR スペース、及びその看板)

### 3.3.7 調査結果：ファン・ゾーン「ブライトン市」

■ 日 時：2015年10月12日（月）

■ 場 所：ファン・ゾーン「ブライトン市」

■ 概 要：

ブライトンはイギリスの南東に位置する都市で、ロンドン市内から1時間ほど離れた場所にある有名な海岸リゾート地である。

■ ブライトンでのスケジュール：

ブライトンのファン・ゾーンはスタジアムがある場所から離れた海岸線にある地域で開催された。

ファン・ゾーンは一般の人に開放され、2015年9月28日～9月30日の3日間において開催された。今回は、南アフリカ共和国対日本戦が行われた9月19日（土）、サモア共和国対アメリカ合衆国戦が行われた20日（日）に視察を行った。

## ■ イベント情報：

イベントやフェアは試合が行われたブライトンのスタジアムだけでなく、ファン・ゾーンでも行われ、それらは以下の異なる分野に分けることができる。

### 1) ファン・ゾーン

他のRWCのファン・ゾーンと同じように、友人・家族・ファンと試合の空気感を共有できるような場を提供している。大きなスクリーンを投入し、観戦チケットを購入できなかった人が観戦できるような環境を確保した。ブライトンで開催される試合には定員以上の応募があった。

ブライトンのファン・ゾーンは『マデイラ・ドライブ』のビーチに位置し、10,000人もの人を収容することが可能。このファン・ゾーンはRWCの開催が決まったのち、2013年5月に設置する認可を受けた。ファン・ゾーンで行われるイベントの最終プランは2014年11月に決定させた。

ファン・ゾーンは大きく2つに分けることができる。1つは、ファン・ゾーン入り口に多数あるファンのためのエリアになっており、ラグビーボールを的を当てるゲームや、実際にラグビーをプレーする場、ラグビー選手の写真が飾ってある場所で記念撮影できる場として開放された。このエリアは、地元のラグビークラブなどが運営に携わっている。

もう一つのエリアでは、バーでお酒の販売、多数のスクリーンで昔の試合や現在行われている試合を上映した。

ブライトンのファン・ゾーンは、地元自治体と地元のラグビークラブ、防犯関連の組織、NHS (National Health Service: 国民医療保険サービス)、大人数のボランティアが現場でファンを誘導したり、パンフレットを配ったり、アクティビティに参加できるように促していたりしていた。



(ブライトンのファン・ゾーンの位置関係、及びその地図)

[引用：ER2015\_Brighton\_Venue\_Travel\_Guide\_V1]

## **2) コスチュームゲーム**

コスチュームゲームは5日間に渡って行われ、主に地元の日本食レストラン、飲料販売株式会社や地元の自治体によって運営された。目的として、地元民とRWCに訪れた来場者との交流であり、煌びやかな衣装に包まれてRWCを共に祝福した。また、『Elvis Night』と呼ばれる日には、エルビスプレスリーの仮装を行い一番似ている人を表彰するイベントも行った。

## **3) 音楽祭 Pitch Perfect**

地元自治体主催の音楽とダンスのフェスティバルが2日間に渡り行われた。地元のバンド、音楽家、ダンサーが野外ステージでパフォーマンスを行った。

## **4) Fiery Foods UK (イギリスの辛いもの祭り)**

The Chilli Festival がブライトンで定期的に行われており、ヴィクトリアガーデンにある株式会社によって運営がされている。この祭りには、チリを食べるコンテスト、(辛い食べ物を売る)屋台、音楽バンドによる演奏、カクテルやクラフトビールの販売を行った。この祭りには、チケット購入が必要である。

## **5) The People's Festival (ピープル祭り)**

無料で行われるお祭りであり、目的はブライトンとホープの異なる人々のコミュニティが一つになるために開催するもの。芸術、音楽ライブ、屋台、ワークショップ、児童と若者のブース、フォーラム、食などのテーマによって開催する。

## **6) ラグビーフェスティバル (地元ラグビークラブ主催による)**

最後に、ファン・ゾーンの入り口付近で実施されたラグビーに関わるアクティビティである。2つの地元ラグビークラブにより運営され、試合開始前に行われる一連のドリンキングパーティーやランチパーティ、ビール祭り、ワインの試飲会や子供向けのラグビー体験教室の運営も行った。

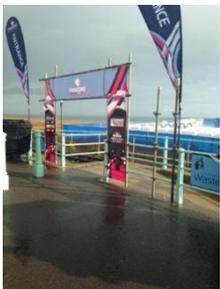
■ ファン・ゾーンへの入り口とラグビーフェスティバルでのアクティビティ：

老若男女誰でも楽しめるようなアクティビティを用意。それぞれのアクティビティでは他人と競い合えるようなつくりになっていたり、ラグビーを実際にプレーしてみたり、記念撮影をしてみたり、公式グッズを買ったりと思い思いの楽しみ方ができる。



(ラグビーフットボールユニオン (RFU) のパビリオン。因みに RWC のメイン運営団体)

■ ファン・ゾーン：



(ファン・ゾーンの入り口) (ファン・ゾーンへの来場者を安全に誘導する役割の人) (開園すぐの誰もいない状態のファン・ゾーン)



(ファン・ゾーンにある大きな視聴用スクリーン)

(飲食関連を購入できる屋台)

(トイレの外観)

(Heineken によるバーの外観。企業のカラーで広告看板を出している)



(ファン・ゾーンの入り口で来場者のカバンの中などをチェックする場所)



■ コスチュームゲーム時の Brighton 市 :



(座って飲食ができるテント内の様子)



(日本をテーマにしたテント)



(キリン株式会社によるテント)



(Brightonにある日本のパビリオン)



### 3.3.8 調査結果：ファン・ゾーン「ミルトン・キーンズ市」

■ 日 時：2015年9月18日（金）

■ 場 所：ファン・ゾーン「ミルトン・キーンズ市」

#### ■ 概 要：

ロンドンから電車で1時間以内にあるミルトン・キーンズは、多岐にわたる文化的・音楽的イベントが1年を通じて行われる場所である。訪れる人々はミルトン・キーンズで有名な公園や湖、商業施設、レストラン、そしてエンターテインメントを楽しむことができる。また、地元の人だけでなく観光客もミルトン・キーンズのファン・ゾーンに無料で入場し、大きなスクリーンでRWCの観戦をしながら食事やお酒を楽しんだり、ファン・ゾーンにある娯楽施設を使用したりすることが可能なのも特徴的である。RWC開催中は、ラグビーに関する文化的音楽イベントを来場者へ提供した。

#### ■ ファン・ゾーンのスケジュール：

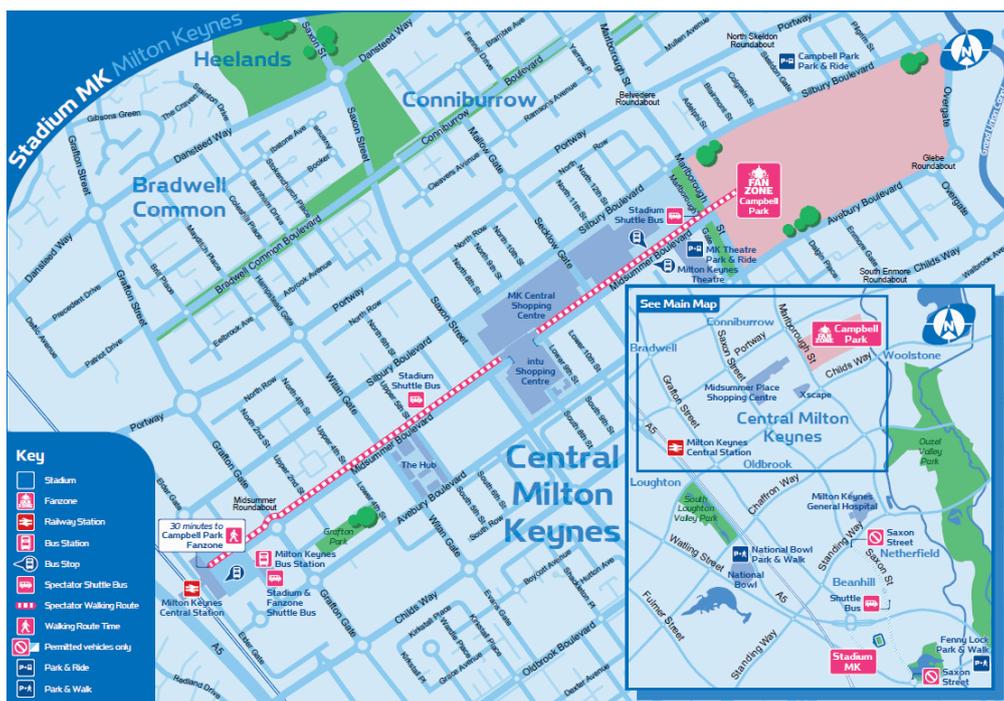
開催日時： 2015年10月1日（木）～11日（日） 合計11日間の開催

#### <イベント情報>

ミルトン・キーンズのファン・ゾーンはキャンベル・パークに設置されている。尚、キャンベル・パークはセントラル・ステーションから徒歩で20分かかる場所にある。ロンドン市内のスタジアムで試合が行われる際は、セントラル・ステーションからスタジアムとミルトン・キーンズのファン・ゾーンへシャトルバスを運行する。キャンベル・パークは独立慈善団体によって経営されており、今回のRWCのためにボランティアを採用しファン・ゾーン内のイベントを運営している。約100人のボランティアが半日のシフトにてファン・ゾーン内で勤務するよう採用されている。また、ファン・ゾーン外では『the Pack Programme』から出向しているボランティアが来場者へ他のファン・ゾーンへの誘導を行っている。

ファン・ゾーンには、下記施設が整っていた（2015年10月2日（金）の視察現在）。

- 2つの大きなテント：バー・観戦用スクリーンが併設。片方にはパフォーマンス用の大ステージを完備
- 多数の子供から大人向けエンターテインメント施設：ラグビーがテーマのシミュレーションゲームも完備
- 種類豊富な屋外型フードコート



(ミルトン・キーンズ市のファン・ゾーンの位置)

[引用 : ER2015\_Milton\_Keynes\_Venue\_Travel\_Guide\_V1]

## ■ ファン・ゾーン：



(ファン・ゾーンの入口。入口には警備員を設置し入場者数の制限を行っていた。ミルトン・キーンズにおける警備員は多数の警備会社から派遣されたスタッフであった。ファン・ゾーンには10,000人を上限として入場が可能である)



(ミルトン・キーンズは広大な土地と美しい景観の条件の下、キャンベル・パークに設置された。キャンベル・パークは the Park Trust という独立した慈善団体によって運営されている)



■ ファン・ゾーン内で活動するボランティア :

ボランティアの人々が来場者を歓迎している様子。およそ、100 人ものボランティアが半日シフトでファン・ゾーンで勤務している。The Park Trust によって直接採用されているボランティアは The Park Trust に代わって、ファン・ゾーン内やイベントを運営している。



(ボランティアが来場者用に様々なチラシやパンフレットを分配している姿)



(来場者用に販売している1ポンドの折り畳み式椅子。これにより、巨大スクリーンで座って観戦することが可能。)

■ ファン・ゾーン (テント1-スポーツバー完備) :

来場者は観戦時2つのテントから選ぶことができる。テント1は来場者同士の親密さを感じられる作りになっており、なかではお酒をバーから購入し、机のある椅子に座りスクリーンで観戦を楽しむことができる。また、各国のラグビーの歴史を学ぶことができる展示スペースもある。



(スポーツバー入口)



(スポーツバーがある、落ち着いたエリア)



(試合を上映しているスクリーン)

■ ファン・ゾーン (テント2-マーキー・エリア) :

テント2は、テント1よりもさらに大きく、約5,000人を収容できる。2つの大きな観戦用のスクリーンを完備し、音楽ライブや試合観戦を楽しむことができる。



(テント外観)



(舞台の両袖にある2つのスクリーン)



(来場者はテント内で飲み物を購入できる)



(Coca-Cola の広告があるバー) (椅子によって観戦できるスペースがあり、優先的に身体の不自由がある来場者が利用できる)

■ ラグビーがテーマのアクティビティがあるファン・ゾーン：



(ラグビーボールを投げるアクティビティ/ラグビーボールを蹴るアクティビティ) (ラグビーボールのロデオマシン)



(スクラムチャレンジ) (ラグビークラブが来場者にラグビーを体験させる場所)

■ 子供用に設置されたアクティビティ：



(メリーゴーランド)

(巨大な滑り台)

(キャンディスタンド (駄菓子屋))

(トランポリン)



(バンパーカー)

## ■ ファン・ゾーンで行われたイベント：

ファン・ゾーン内で行われるショーなどは、ミルトン・キーンズを紹介する絶好の機会であり、ミルトン・キーンズが文化・観光をビジネスと結び付けて成功している市であることをPRした。

メインテントでは、イギリスのコメディアン・音楽バンドの Rayguns Look Real Enough らによるコンサートが行われた。



(Rayguns Look Real Enough の演奏風景)



(コンサート観覧者が楽しんでいる様子)



(A soul band がテント内で演奏している様子)



## ■ ファン・ゾーン内でのイベント：



(メインテントの巨大スクリーン2つでRWCの観戦ができる)

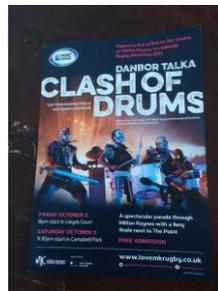
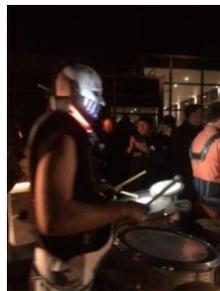
■ 屋外の飲食ブース等：

来場者は各国料理が提供できるファストフードやコーヒー、デザートなどの屋台を楽しむことができる。



■ その他のイベント：

10月2日の夜（金）には、来場者はフランスとスペインのドラムバンド2グループによる演奏パレードに招待された。Hakaを参考にしたダンスとドラムがパフォーマンスされ、ミルトン・キンズ街中を練り歩くパレードになっていた。



(衣装を着た演奏者が街をパレードで歩いている様子) (ファン・ゾーンの入り口に張られたチラシ) (パレード閉幕時の花火)



(ミルトン・キンズのストリートで演奏しているパフォーマーを見ようとして集まっている一般の人々)

**3.4 RWC2015に関する調査：**

**RWC2015 ビジターの動向調査（大会期間中）**

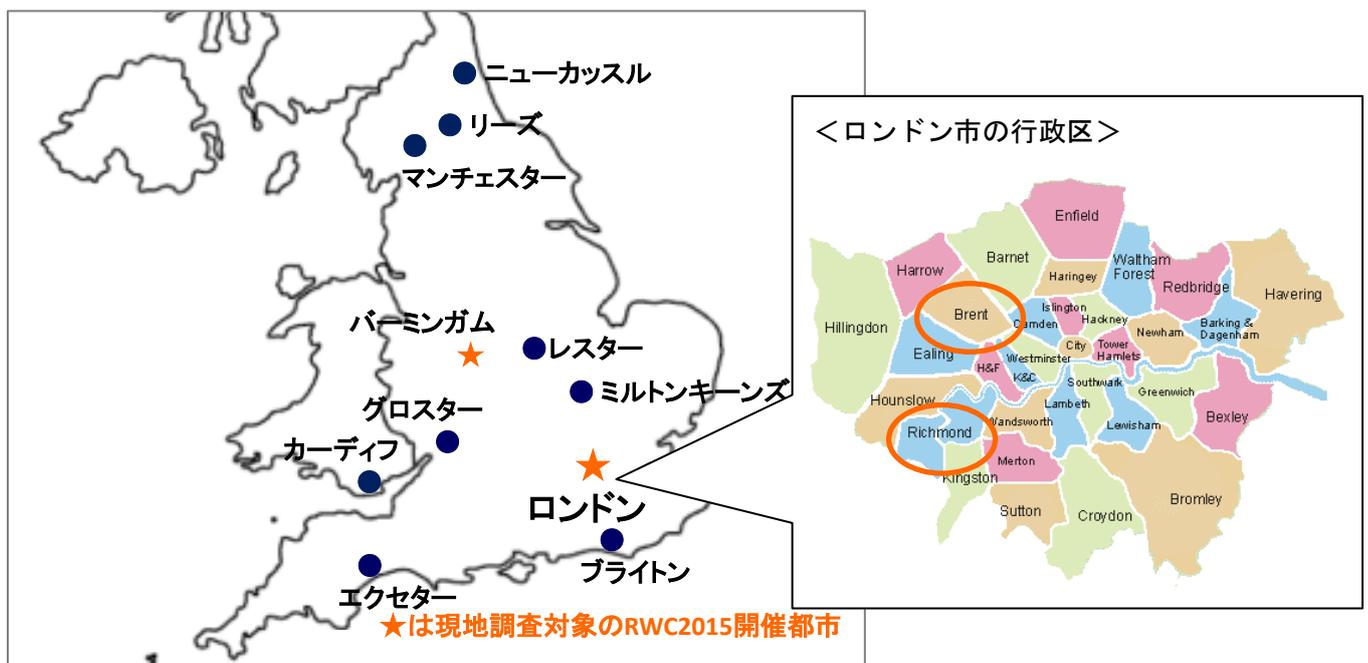
### 3.4 RWC2015 に関する調査：RWC2015 ビジターの動向調査

#### 3.4.1 調査概要

- 目的：RWC2015 の開催都市等におけるビジターの動向を把握すること。
- 方法：RWC2015 開催都市現地でのアンケート調査
- 実施者：株式会社ジェイティービー  
(再委託により、同社が実施した調査結果のデータを本報告書に二次利用した)
- 標本数：389 人

開催自治体 (スタジアム)	月日	開催試合	標本数
ロンドン市リッチモンド区 (トウィッケナム)	9月18日(金)	イングランド対フィジー	91人
	10月17日(土)	南アフリカ対ウェールズ	61人
	10月18日(日)	オーストラリア対スコットランド	89人
ロンドン市ブレント区 (ウェンブリー)	9月20日(日)	ニュージーランド対アルゼンチン	52人
バーミンガム市 (ヴィラ・パーク)	9月26日(土)	南アフリカ対サモア	52人
	9月27日(日)	オーストラリア対ウルグアイ	44人
合 計			389人

図表 3-4-1. RWC2015 の開催都市と調査対象



### 3.4.2 調査結果のまとめ

今回の調査結果を以下のとおり整理した。

No	項目	主な調査結果
1	ビジターの属性分布 (性別・年代・国籍・職業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジターの性別は、男性が 66.6%、女性が 33.4%と、男女比がおおよそ 2 対 1 であった。</li> <li>• ビジターの年代は、31 歳～50 歳を中心に分布している。</li> <li>• ビジターの国籍は、イギリスが 69.2%と最も高く、次いで南アフリカ (8.2%)、オーストラリア (7.2%) の順であった。</li> <li>• ビジターの職業は、4 割強が会社員、2 割弱が自営業・経営者であった。</li> </ul>
2	ファン・ゾーンの訪問有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジターのファン・ゾーン訪問の有無は、約 4 割が訪問し、約 6 割が訪問していない。</li> <li>• 性別で見ると、全体と比べ、大きな差はみられなかった。年代別で見ると、僅かであるが、全体と比べ、30 歳以下において訪問者が高い。</li> </ul>
3	RWC2019 を目的とした 訪日意向	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジターの RWC2019 を目的とした訪日意向は、約 9 割が行きたいと回答した。</li> <li>• ビジターの RWC2019 を目的とした訪日を妨げる要因を聞いたところ、費用がかかりすぎる (5.23) が最も高く、次いで言語に不安がある (3.31)、日本語が話せない (2.58) の順であった。</li> </ul>
4	RWC2019 を目的とした 訪日滞在	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジターの RWC2019 を目的とした希望する滞在日数は、約 15 日で、観戦したい試合数は 3.5 試合と回答した。</li> <li>• ビジターの日本で行ってみたい場所は、観光が 74.3%と最も高く、次いで温泉 (38.6%)、ショッピング (35.7%) の順であった。</li> <li>• ビジターの予算合計の平均額は、約 47 万円。うち、航空は約 16 万円、オプションツアーは約 6 万円、お土産は約 2 万 5 千円、宿泊 1 泊は 1 万 7 千円、食事 1 日は約 9 千円と回答した。</li> <li>• ビジターの日本での移動手段は、鉄道が 54.5%と最も高く、次いでバス (15.4%)、レンタカー (9.3%) の順であった。</li> <li>• ビジターの日本での必要設備およびサービスは、英語の情報が 58.6%と最も高く、次いでレストラン (57.1%)、Wi-fi (50.9%) の順であった。</li> <li>• ビジターの観戦旅行に関する情報ソースは、Web が 62.2%と最も高く、次いでツアーガイド資料 (26.0%)、友人 (15.7%) の順であった。</li> </ul>

### 3.4.3 主な調査結果

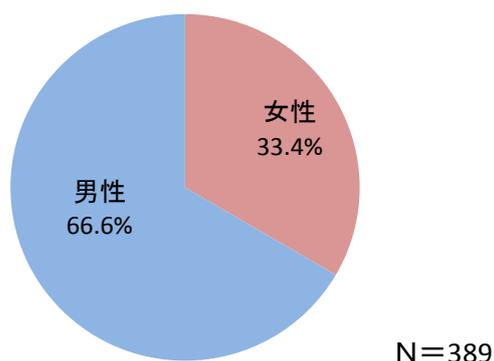
主な調査結果は以下のとおり。

#### ① 性別・年代

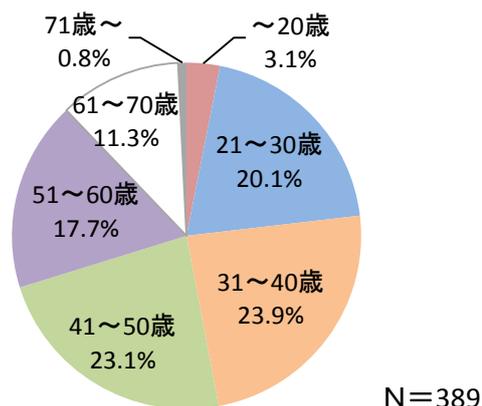
ビジターの性別は、男性が66.6%、女性が33.4%と、男女比がおよそ2対1であった。

ビジターの年代は、31歳～50歳を中心に分布している。

図表 3-4-1. ビジターの性別（単一）



図表 3-4-2. ビジターの年代（単一）

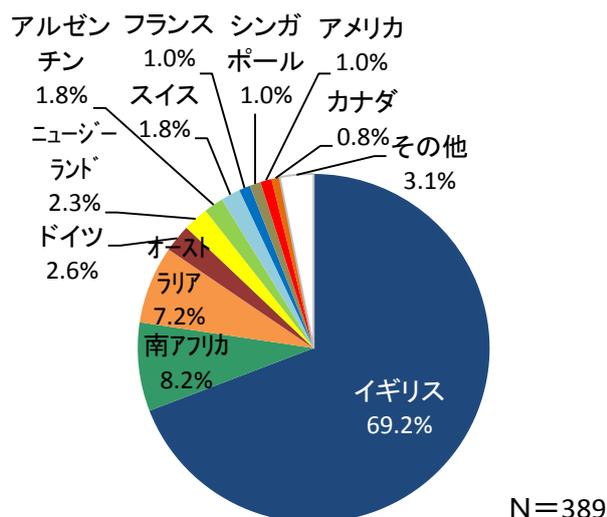


#### ② 国籍・職業

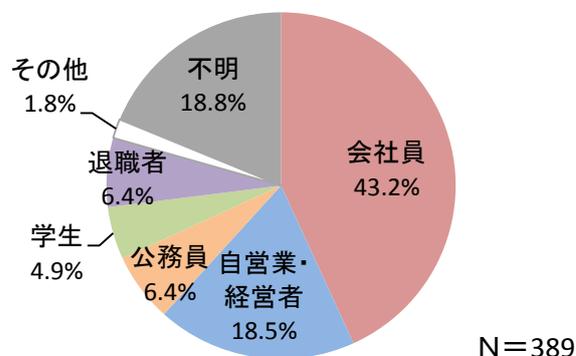
ビジターの国籍は、イギリスが69.2%と最も高く、次いで南アフリカ(8.2%)、オーストラリア(7.2%)の順であった。

ビジターの職業は、4割強が会社員、2割弱が自営業・経営者であった。

図表 3-4-3. ビジターの国籍（単一）



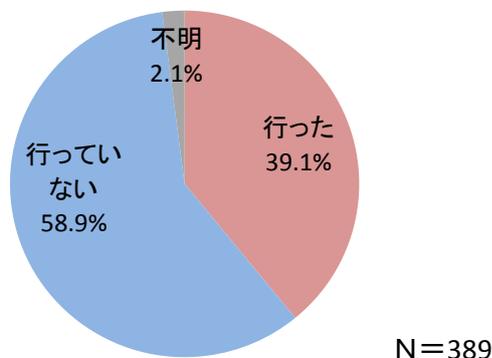
図表 3-4-4. ビジターの職業（単一）



### ③ ファン・ゾーンの訪問有無

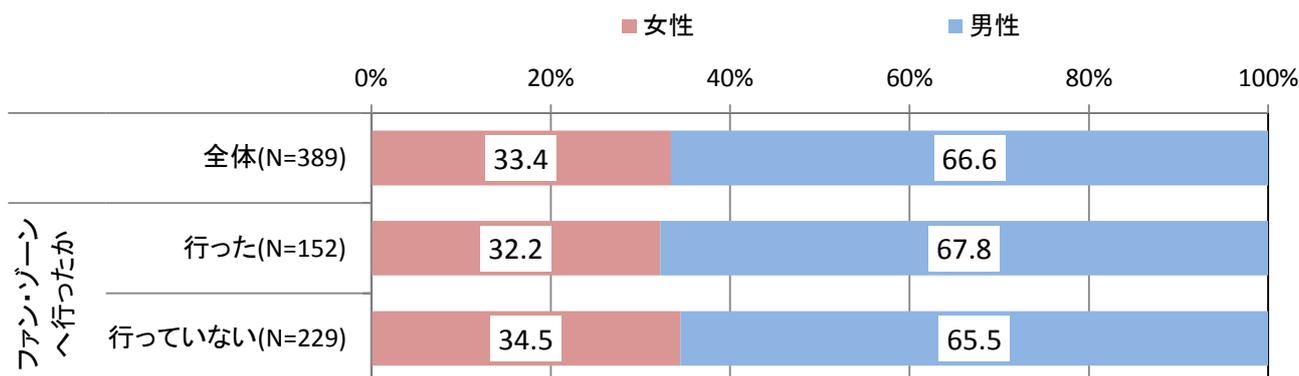
ビジターのファン・ゾーン訪問の有無は、約4割が訪問し、約6割が訪問していない。

図表 3-4-5. ファン・ゾーン訪問有無（単一）



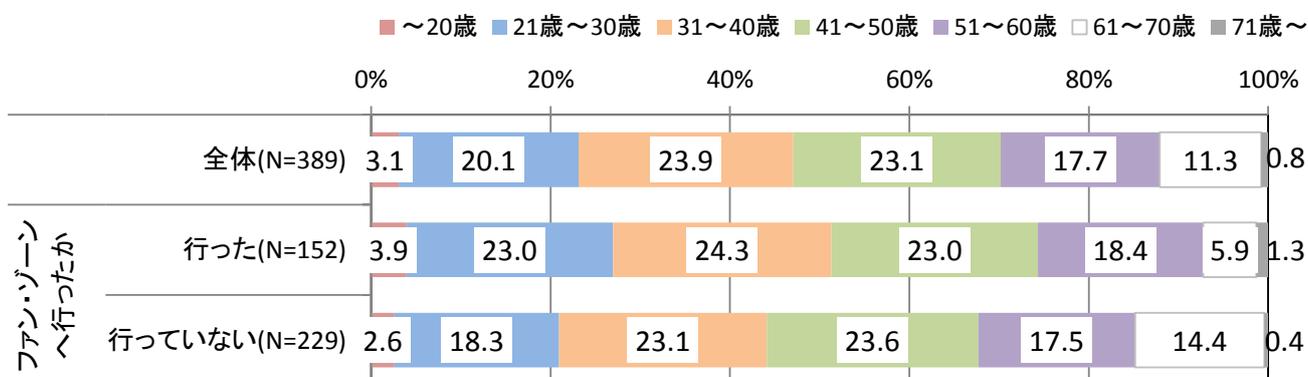
性別でみると、全体と比べ、大きな差はみられなかった。

図表 3-4-6. ビジターの性別（ファン・ゾーン訪問有無別）（単一）



年代別でみると、僅かであるが、全体と比べ、30歳以下において訪問者が高い。

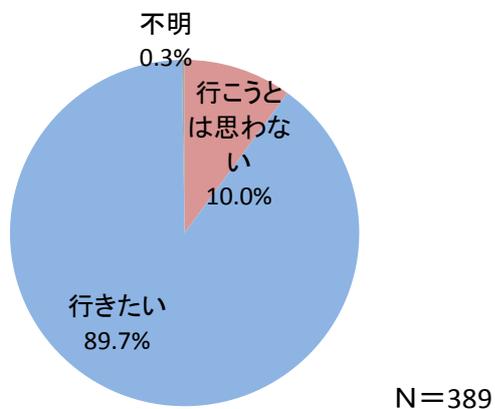
図表 3-4-7. ビジターの年代（ファン・ゾーン訪問有無別）（単一）



#### ④ RWC2019 を目的とした訪日意向

ビジターの RWC2019 を目的とした訪日意向は、約 9 割が行きたいと回答した。

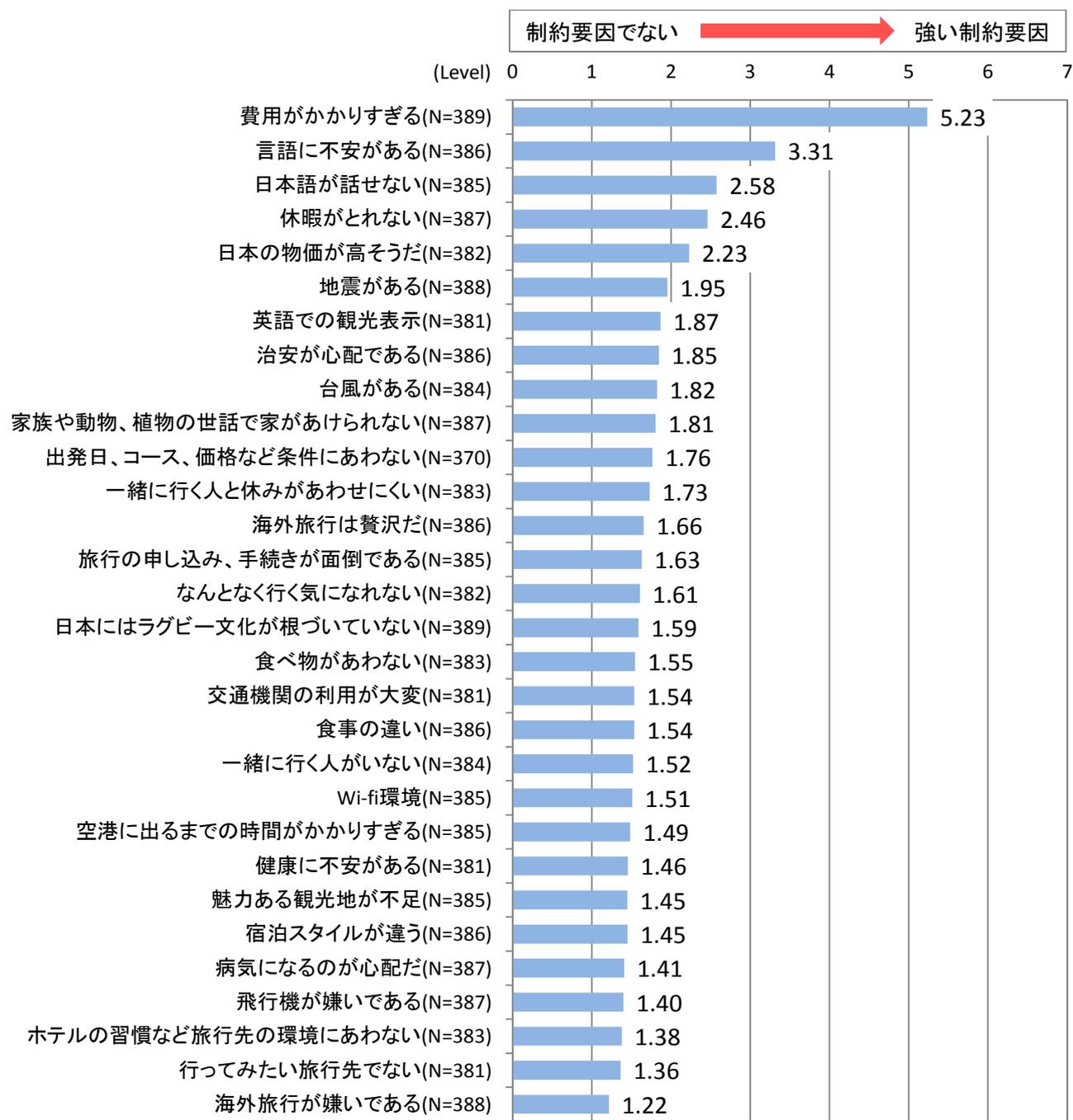
図表 3-4-8. 訪日意向（単一）



### ⑤ RWC2019 を目的とした訪日を妨げる要因

ビジターの RWC2019 を目的とした訪日を妨げる要因を、1～7 段階のレベル別で聞いたところ、費用がかかりすぎる (5.23) が最も高く、次いで言語に不安がある (3.31)、日本語が話せない (2.58) の順であった。

図表 3-4-9. 訪日を妨げる要因 (数量)



### ⑥ 希望する滞在日数・観戦したいRWC2019の試合数

ビジターのRWC2019を目的とした希望する滞在日数は、約15日で、観戦したい試合数は3.5試合と回答した。

図表 3-4-10. 希望する滞在日数（数量） 図表 3-4-11. 観戦したい試合数（数量）

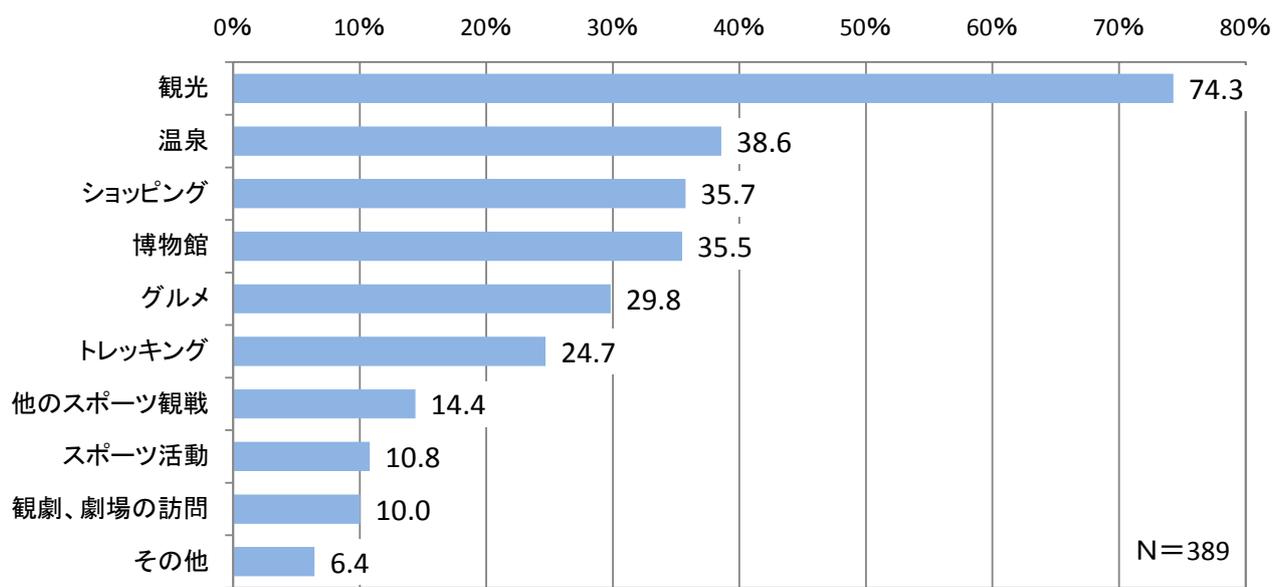
希望する滞在日数	
回答者数	226
合計	3,410
平均日数	15.09

観戦したいRWC2019の試合数	
回答者数	187
合計	660
平均試合数	3.53

### ⑦ 日本で行ってみたい場所

ビジターの日本で行ってみたい場所は、観光が74.3%と最も高く、次いで温泉（38.6%）、ショッピング（35.7%）の順であった。

図表 3-4-12. 日本で行ってみたい場所（複数）



### ⑧ 訪日した場合の予算

ビジターの予算合計の平均額は、約 47 万円。うち、航空は約 16 万円、オプションツアーは約 6 万円、お土産は約 2 万 5 千円、宿泊 1 泊は 1 万 7 千円、食事 1 日は約 9 千円と回答した。

図表 3-4-13. 予算 (数量)

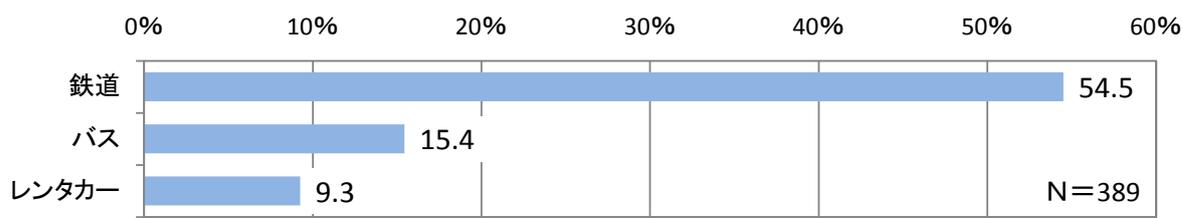
内 訳	回答者数	合 計 (ポンド)	平均額 (ポンド)	合 計 (円)	平均額 (円)
予算合計	194	569,810	2,937	91,169,600	469,946
航空費	83	83,835	1,010	13,413,600	161,610
宿泊費(1泊あたり)	69	7,470	108	1,195,200	17,322
食事代(1日あたり)	73	4,030	55	644,800	8,833
お土産代合計	41	6,310	154	1,009,600	24,624
オプションツアー代合計	27	10,430	386	1,668,800	61,807

※1 ポンド=160 円で換算

### ⑨ 日本での移動手段

ビジターの日本での移動手段は、鉄道が 54.5%と最も高く、次いでバス(15.4%)、レンタカー(9.3%)の順であった。

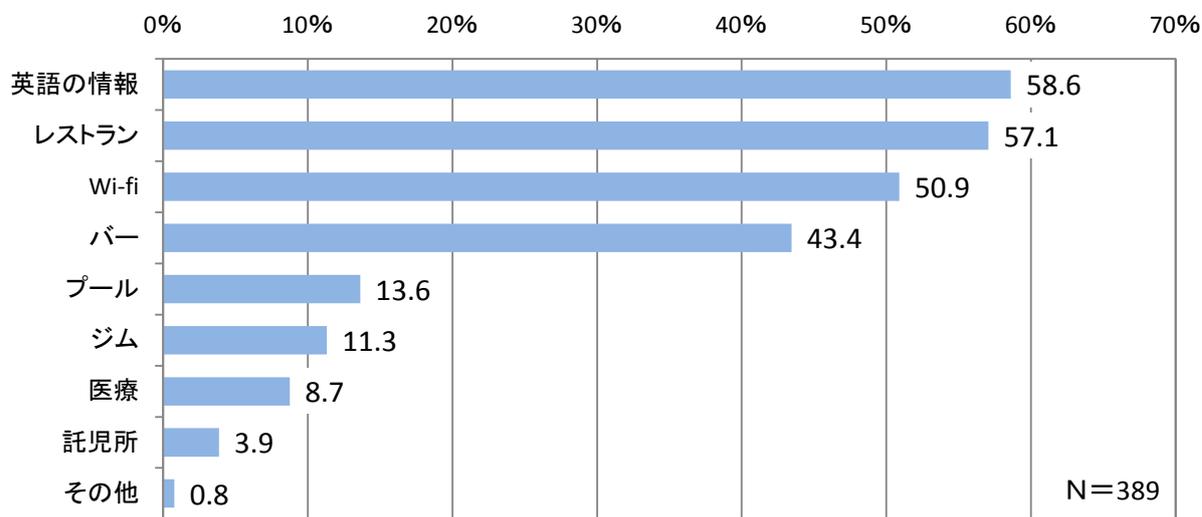
図表 3-4-14. 日本での移動手段 (複数)



### ⑩ 日本での必要設備およびサービス

ビジターの日本での必要設備およびサービスは、英語の情報が 58.6%と最も高く、次いでレストラン（57.1%）、Wi-fi（50.9%）の順であった。

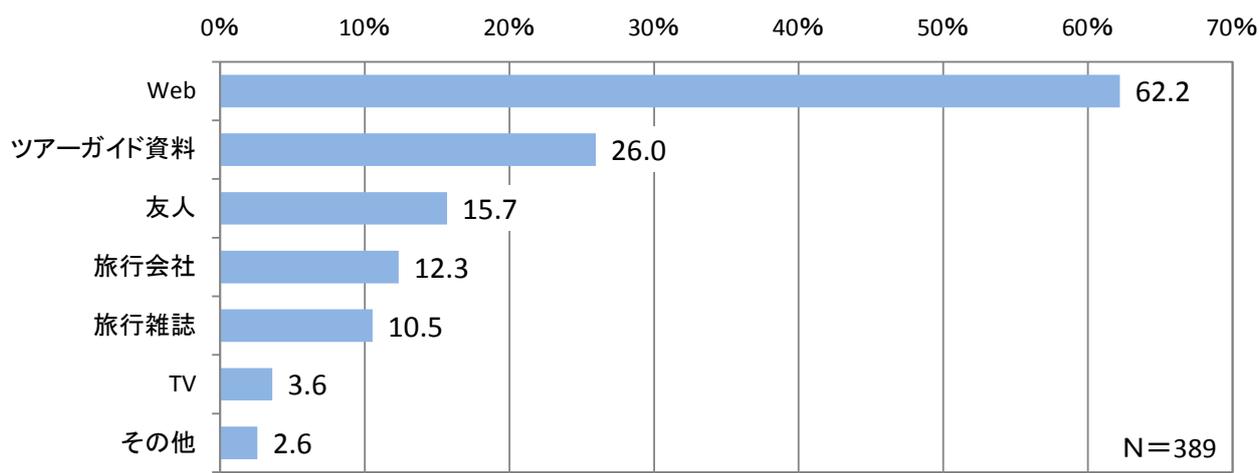
図表 3-4-15. 日本での必要設備およびサービス（複数）



### ⑪ 観戦旅行に関する情報ソース

ビジターの観戦旅行に関する情報ソースは、Web が 62.2%と最も高く、次いでツアーガイド資料（26.0%）、友人（15.7%）の順であった。

図表 3-4-16. 観戦旅行に関する情報ソース（複数）

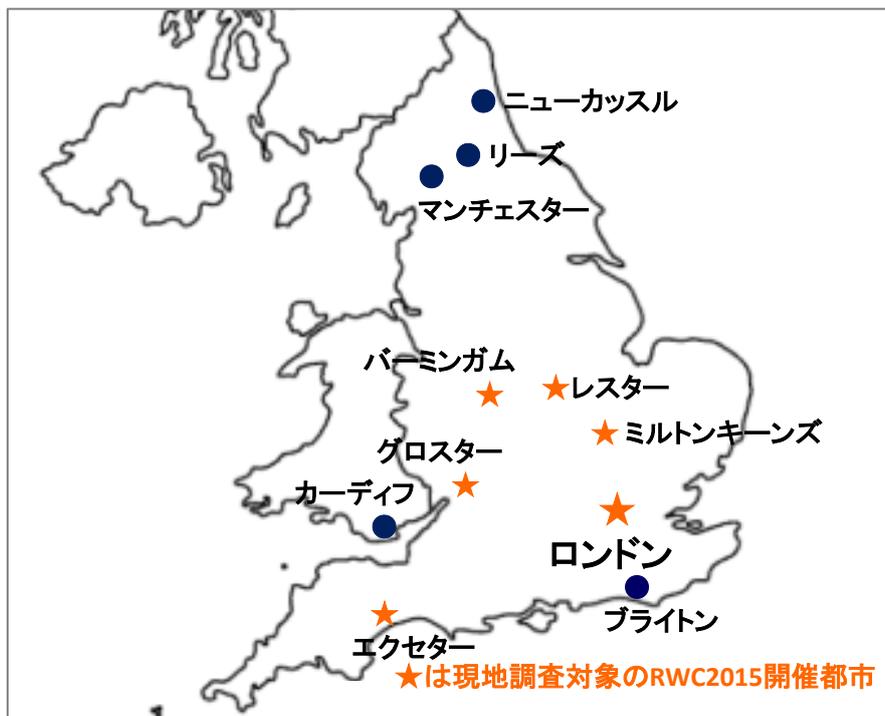


**3.5 RWC2015に関する調査：**

**RWC2015 開催自治体等へのヒアリング（大会終了後）**

### 3.5.1 調査概要

- 目的：RWC2015 の開催都市等における地域活性化の取組みの実施状況を把握すること
- 方法：現地調査
- 日時：2016年1月25日（月）～2月4日（木） ※詳細な日程は次頁に掲載
- 訪問場所：
  - ロンドン市ブレント区、ニューハム区、リッチモンド区
  - ブライトン市
  - ミルトン・キーンズ市
  - レスター市
  - グロスター市
  - ニューキャッスル市、ニューキャッスルフットボールクラブ
  - カーディフ市



■ 日程：

日付		地名	時間	訪問先
1月23日	土			11:40 東京発 15:20 ロンドン 【ロンドン宿泊】
1月24日	日			【ロンドン宿泊】
1月25日	月	レスター市	午前	■11:00～13:00 レスター市役所 レスター市 復興・文化課 スポーツサービス担当 マーク・レイウッド氏／レスター市役所 フェスティバル及びイベント担当 ローラ・ヘイルストーン氏
			午後	【ロンドン宿泊】
1月26日	火	グロスター市	午前	■10:00～11:00 グロスター市役所 グロスター市 RWC2015 責任者ロス・クック氏／グロスター市 マーケティング部 イベントディレクター ミハイリ・スミス 氏
			午後	【ロンドン宿泊】
1月27日	水	ミルトン・キーンズ市	午前	■11:00～13:00 ミルトン・キーンズ市役所 ミルトン・キーンズ市 戦略課長 ジェフ・スネルソン氏／ミルトン・キーンズ ドンズ ディレクター ジョン・コーブ氏／プログラムマネージャー ジェームズ・スローン氏
			午後	【ロンドン宿泊】
1月28日	木	ブライトン市	午前	■10:00～11:00 ブライトン市役所 ブライトン市 イベント マネージャー イアン・テイラー氏
			午後	【ロンドン宿泊】
1月29日	金	ロンドン市 ブレント区	午前	■11:00～12:00 ロンドン市ブレント区 ロンドン市ブレント区 アート・ヘリテイジ課 ゼリッサ・ブラウン氏
			午後	【ロンドン宿泊】
1月30日	土		午前	
			午後	

1月31日	日		午前	移動
			午後	【ニューキャッスル宿泊】
2月1日	月	ニューキャッスル市	午前	■10:00～12:00 ニューキャッスル市役所 ニューキャッスル市 ビジネスマネージメント課 キャサリン・プレストン氏／アシスタント スティーブン・サヴェージ氏
			午後	■12:00～14:00 ニューキャッスルユナイテッドクラブ ニューキャッスルユナイテッド スタジアムマネージャー エディー・ルザーフォード氏
		ロンドン市 リッチモンド区		移動
				【ロンドン宿泊】
2月2日	火		午前	
			午後	■15:00～16:30 ロンドン市リッチモンド区 ロンドン市リッチモンド区 環境課課長 イシュベル・マーレー氏 【ロンドン宿泊】
2月3日	水	カーディフ市 (ウェールズ)	午前	■14:30～15:30 カーディフ市役所 カーディフ市 広告開発課 マネージャー ルイーズ・ハリントン氏／ヘルス・イベント安全課 マネージャー スチュワート・ヒギンズ氏／イベント ロジスティックス マネージャー ヤニス・キリヤコーリス氏／シニアプロダクションマネージャー マシュー・フォルクナー氏／危機安全マネージャー フー・ウィリアムス氏
			午後	(【ロンドン宿泊】)
2月4日	木	ロンドン市 ニューハム区	午前	■10:00～11:30 ロンドン市ニューハム区 ニューハム区 コミュニケーション課 課長代理 スー・メイナー氏／ニューハム区 コミュニケーション課 イベント管理 ジョアンナ・ロルフィー氏
			午後	【ロンドン宿泊】
2月5日	金		午前	
			午後	19:00 ロンドン発 【機中泊】
2月6日	土			15:55 東京着

■ 訪問先一覧：

No	面談日	訪問場所	訪問者	概要
1	1月25日 (月) 11:00～ 13:00	レスター市役所	レスター市 復興・文化課 スポーツサービス担当 マーク・レイウッド氏/ レスター市 フェスティバル及びイベント担当 ローラ・ヘイルストーン氏	人口 329,839 人、開催試合数 4 試合。イギリス中央部、ロンドン市内より約 2 時間の場所に位置する。市にはレスター・タイガースというラグビークラブや、レスターシティ F.C. を有する。
2	1月26日 (火) 10:00～ 11:00	グロスター市役所	グロスター市 RWC2015 責任者ロス・クック氏/ グロスター市 マーケティング部 イベントディレクター ミハイリ・スミス 氏	人口 125,649 人、開催試合数 4 試合。イギリス南西部に位置する。市にはキングスホルムスタジアムを有し、グロスターラグビーのホームとなっている。
3	1月27日 (水) 11:00～ 13:00	ミルトン・キーンズ市役所	ミルトン・キーンズ市 戦略課長 ジェフ・スネルソン氏/ ミルトン・キーンズ ドンズディレクター ジョン・コープ氏/ プログラムマネージャー ジェームズ・スローン氏	人口 255,700 人、開催試合 3 試合。ロンドン市内より北西に 1 時間半ほど離れている距離に位置する。ミルトン・キーンズ ドンズ F.C. のホームであり、約 3 万人収容できるスタジアムを有する。
4	1月28日 (木) 10:00～ 11:00	ブライトン市役所	ブライトン市 イベント マネージャー イアン・テイラー氏	人口 247,817 人、開催試合数 2 試合。ロンドン市内から 1 時間半のイギリス南部に位置する。3 万人を収容できるブライトン コミュニティ スタジアムを持つ。
5	1月29日 (金) 11:00～ 12:00	ロンドン市ブレント区役所	ロンドン市ブレント区 アート・ヘリテイジ課 ゼリッサ・ブラウン氏	人口 311,215 人、開催試合 2 試合。ロンドン中心部から北西に 1 時間弱の場所に位置する。ロンドン市外でも有数の多国籍の人が住む町である。
6	2月1日 (月) 10:00～ 12:00	ニューキャッスル市役所	ニューキャッスル市 ビジネスマネージメント課 キャサリン・プレストン氏/ アシスタント スティーブ・ン・サヴェージ氏	人口 292,200 人、開催試合数 2 試合。ロンドン中心部より北へ 4 時間弱の場所に位置する。正式名称 New Castle upon Tyne。ニューキャッスルユナイテッドがフットボールチームとして市は有する。

7	2月1日 (月) 12:00～ 14:00	ニューキャッスルユナイテッドクラブ	ニューキャッスルユナイテッド スタジアムマネージャー	1892年よりセントジェームスパークという名のスタジアムとともに、F.C.クラブを運営。イワモト ジュンイチらの日本人が活躍。
8	2月2日 (火) 15:00～ 16:30	ロンドン市リッチモンド区役所	ロンドン市リッチモンド区環境課課長 イシュベル・マーレー氏	人口193,585人、開催試合数10試合。ロンドン市外南西に位置し中心部より30分。ラグビーリーグとしてTwickenham Stadiumを1995年より利用している。
9	2月3日 (水) 14:30～ 15:30	カーディフ市役所	カーディフ市 広告開発課マネージャー ルイズ・ハリントン氏/ カーディフ市 ヘルス・イベント安全課 マネージャー スチュワート・ヒギンズ氏 カーディフ市 イベント ロジスティックス マネージャー ヤニス・キリヤコーリス/ カーディフ市 シニアプロダクションマネージャー マシュー・フォルクナー氏/ カーディフ市 危機安全マネージャー フー・ウィリアムス氏	人口341,000人、開催試合数8試合。ウェールズの首都。カーディフ・アームズ・パークが会場。ウェールズ内では政策の一つとしてスポーツ振興が発展している。
10	2月4日 (木) 10:00～ 11:30	ロンドン市ニューハム区役所	ロンドン市ニューハム区 コミュニケーション課 課長代理 スー・メイナー氏/ ニューハム区 コミュニケーション課 イベント管理 ジョアンナ・ロルフィー氏	人口241,200人、開催試合数5試合。ロンドン中心部から北東30分に位置する。2012年に開催され夏季オリンピック メイン会場でRWC2015の試合が行われた。

### 3.5.2 調査結果のまとめ

今回の調査結果を踏まえて、ファン・ゾーンの設置・運営にあたっては、次のような点に留意すべきであると考えられる。

#### ① ファン・ゾーンガイドライン等、ファン・ゾーンの設置・運営に必要な要件の確認

RWC2015においては、5,000人以上が集まることのできる場所等の最低収容人員、大型のスクリーンの設置の義務付けといった要件がファン・ゾーンに設定されており、RWC2019においても、今後、組織委員会によって内容を検討のうえ、必要なガイドラインが策定されることが予定されている。また、多くの人が集まるため、ファン・ゾーンにはセキュリティ体制の確保が求められる。こうしたファン・ゾーンの設置・運営にあたって必要とされる要件をまずはしっかりと確認することが重要であると考えられる。

#### ② ファン・ゾーンと周辺のエリア一体での地域活性化

RWC2015の現地ヒアリングを踏まえると、ファン・ゾーン内では、販売する飲食物等に関して厳しいブランディングルールが適用される可能性があり、ファン・ゾーン内で様々な物品を取り扱うことが困難な可能性がある。したがって、ファン・ゾーン単体ではなく、ファン・ゾーンの集客力を活かし、周辺の商業施設や観光スポット等の都市の主要エリアへの誘引を狙う等、ファン・ゾーンと周囲のエリアを一体として地域活性化の効果を最大化する計画を立てることが重要であると考えられる。例えば、ファン・ゾーンの設置場所は、(i) ファン・ゾーン、(ii) 電車の主要駅、(iii) スタジアム、(iv) 都市の主要なエリア等の配置を考慮して決定することが望ましいと考えられる。

一方で、大勢の人が集まるため、騒音等、周辺住民の生活環境にも配慮する必要がある。

#### ③ ファン・ゾーンの設置・運営に向けた取組体制の構築

ファン・ゾーンは大きなイベントとなるため、RWC2015開催自治体の中には、スポーツイベント等の外部専門家を活用した例やそうした外部専門家を活用すればよかった、という意見があった。また、ファン・ゾーンの設置・運営には、施設の利用、飲食物の提供、アクティビティの提供、人の輸送や道路の封鎖等の交通管理、衛生、安全、危機管理の対応など、様々な分野の主体との連携・協力が必要とされる。

したがって、ファン・ゾーンの設置・運営にあたっては、外部専門家を活用することも検討に値するほか、施設管理者、民間事業者、警察、消防、ボランティア団体等の関係機関との連携体制を早期に構築することが重要であると考えられる。

#### ④ 制約条件に応じたファン・ゾーンの形態の選択

RWC2015の開催自治体によっては、集客に影響する天候のリスクを避けるため、屋内型のファン・ゾーンを選択した自治体もあった。また、セキュリティのコントロールを行いやすいよう、クローズド型のファン・ゾーンを設置した自治体も多かった。

一方で、多くの試合観戦客をファン・ゾーンに呼び込むために、屋外型を選択した自治体もあり、目的、予算、設置場所の候補等の制約条件に応じて、屋内型／屋外型、クローズド型／オープン型

といったファン・ゾーンの形態を選択する必要があると考えられる。

#### **⑤ ファン・ゾーンを最大限に活用する開催計画**

ファン・ゾーンの開催日については、RWCの試合開催日とそれ以外の日（ダークデイ）では大きく集客力が異なるため、試合開催日以外は集客しづらい傾向にあり、また週末と比べて平日の集客は難しい。また、試合開始時間の前が一番賑わうため、一日の中での開催時間をどのように設定するかも重要な視点だといえる。

したがって、こうした傾向を踏まえ、ファン・ゾーンを最大限に活用するためにダークデイにどのような催しを実施するか、あるいは、⑥で述べるとおり、財政負担も踏まえて、そもそも設置期間をどの程度に設定するかといった点についても考慮し、ファン・ゾーンを最大限に活用する開催計画を検討すべきであると考えられる。

#### **⑥ ファン・ゾーンを効率的に設置する工夫**

①で述べたとおり、ファン・ゾーンの設置に必要な要件を満たすためには、一定の人員を収容できる規模を有していることや専門のセキュリティ会社への委託についても考慮しなければならないことなど、ある程度の財政支出が見込まれることが想定される。また、ファン・ゾーンを設置する期間に応じて、機材のレンタル費用や警備の費用などが多額になっていくこととなる。RWC2015開催自治体の中には、開催自治体が保有する土地を利用したり、ファン・ゾーンの設置による効果をPRし、好条件でファン・ゾーンを設置する用地を他から借り受けたりする、あるいは、期間を限定したり、クローズド型の形態にしたりするなど、ファン・ゾーンの財政支出を抑える工夫を行っており、日本の開催自治体においてもファン・ゾーンを効率的に設置・運営する工夫が求められると考えられる。

### 3.5.3 調査結果：RWC2015 開催都市「レスター市」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <レスター市概要>

- 人口：約 28 万人 □面積：73.32km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 10月4日(日) 16:45～「アルゼンチン×トンガ」(プールC)
- 10月6日(火) 16:45～「カナダ×ルーマニア」(プールD)
- 10月11日(日) 12:00～「アルゼンチン×ナミビア」(プールC)

##### <スタジアム>

- 名称：レスターシティスタジアム (キングパワースタジアム)
- 収容人数：32,262人



##### <ファン・ゾーン>

- 収容人数：5,000人以上
- 開催日数：7日間



##### <ファン・ゾーン開催日>

- 10月3日(土) 12:00-22:00
- 10月4日(日) 11:00-20:00
- 10月6日(火) 15:30-22:00
- 10月7日(水) 15:30-22:00
- 10月9日(金) 15:30-22:00
- 10月10日(土) 11:00-22:00
- 10月11日(日) 11:00-22:00

■ RWG2015 開催時のレスター市の地図



[地図データ引用：Google マップ]

■ 平常時、及びRWC2015開催時のファン・ゾーン用地の様子

＜平常時のファン・ゾーン用地の様子＞



(従来は公園として一般に開放)



＜開催中のファン・ゾーン用地の様子＞



(ファン・ゾーンにはゲート状の入り口が設置され、セキュリティチェックが行われた)



(ビックスクリーンとステージを設置し、音楽やエンターテイメントプログラムを実施)

※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015開催後に撮影した。

■ 日 時 : 2016年1月25日(月) 11時~13時

■ 場 所 : レスター市役所内会議室

■ 対応者 :

- 復興・文化課 スポーツサービス担当  
マーク・レイウッド氏
- フェスティバル及びイベント担当  
ローラ・ヘイルストーン氏



(左からヘイルストーン氏、レイウッド氏)

■ 議事 :

#### <担当者について>

- レイウッド氏は、レスター市の職員で、RWC2015の際はプロジェクトマネージャーであった。レイウッド氏の上にプロジェクトディレクターがいて、全般管理や資金管理のサポートをしていた。ヘイルストーン氏もレスター市の職員で、RWC2015の際はフェスティバルイベントの担当者であった。
- 一部の業務が残っていたものの、レスター市の RWC2015 のプロジェクトチームは今年のクリスマス前に解散した。
- レスター市の「ファン・ゾーン建設プラン見取り図」、「設置スケジュール」、及び「ファン・ゾーンスクリーンの放映スケジュール」を提供いただいた。

#### <組織体制について>

- ER2015 との連絡調整はレイウッド氏が担当したが、レスター市にはヘイルストーン氏をはじめとするフェスティバルイベントチームがいたため、ファン・ゾーンに関する事項については、そのチームが直接 ER2015 と調整して進めた。
- レスター市で開催した3試合は全てチケットが売り切れた。

#### <ファン・ゾーンについて>

- ファン・ゾーンを、オープニングデイと試合開催日等に開催した。何日かは天候が悪く、客足の悪い日があったが、週末開催の際は非常に多くの観客が集まった。ファン・ゾーンにはスクリーンとともにステージを設置し、音楽やエンターテインメントのプログラムを開催した。
- ファン・ゾーンでは、飲食物を販売するスタッフを4~5名配置し、バーやコーヒースタンド、RWC2015のグッズを販売する店舗を設置した。また人が多く集まることが見込まれた週末には、ケーキ販売の店舗を追加で設置した。店舗に対しては、ファン・ゾーン内で販売物等に関する厳しいブランドルールがあることを周知徹底した。
- ファン・ゾーンのビッグスクリーンは、60平方メートルの大きさであった。
- ファン・ゾーンの来場者は日によって変動があり、週末は比較的人が多く、試合を開催した日はとても多くの来場者があった。10月11日(日)のアルゼンチン対ナミビアの試合後が最も混雑していた。また、天候も集客に影響があった。

- レスター市はアルゼンチン戦が日程間隔を空けて複数行われた。その期間、居住しているアルゼンチン人だけではなく、海外から多くのアルゼンチン人がレスター市を訪れ、レスター市に興味をもってくれた。これはレスター市にとって大変素晴らしいことであった。
- スペイン語やポルトガル語を話せるスタッフがいたが、それ以外に特に多言語対応はしていなかった。ただ、多くのボランティアが複数の言語を話せたので非常に助かった。
- ファン・ゾーンは郊外に位置するヴィクトリアパークで開催されたため、特に騒音のトラブルはなかった。
- ヴィクトリアパークはレスター市の所有であるため、費用がかからず自由に使用することができた。
- ファン・ゾーンは、10月3日（土）の開催に向け、9月30日（水）～10月2日（金）の3日間で設置した。また、10月11日（日）のクローズ後、2～3日かけて撤去した。
- 市でファン・ゾーンを企画ののち、運営に関し、様々な事業者に委託を行った。具体的には、周囲のフェンスの設置、スクリーンの設置などである。主に国内の会社であるが、レスター市外の会社にも委託を行った。

#### <セキュリティについて>

- ファン・ゾーンにはゲート状の入り口を設置し、ファン・ゾーンの入り口では、セキュリティが目視とともに荷物チェックを行った。セキュリティスタッフは、基本は4～5人程度だが、ファン・ゾーンの混雑具合に応じて人数を調整した。ファン・ゾーンの管理に関しては、大型イベント等の運営管理の経験豊富なセキュリティ会社からアドバイスを受けて運営した。

#### <アクティビティについて>

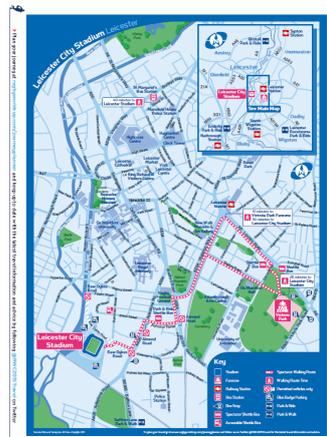
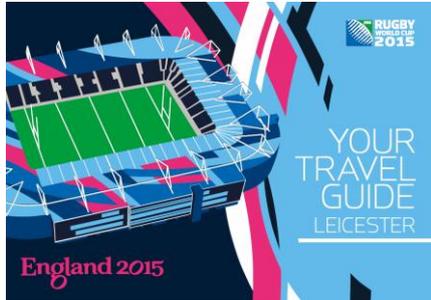
- 試合開催のない日（ダークデイ）に、「スクールデイ」と称し、子供達を1日ファン・ゾーンに招待して、スクリーンで映像を見ていくつかアクティビティを行った。例えば、ラグビーボールを穴にめがけて投げたり、ラグビーグラウンドを利用して、ラグビーのやり方を少し学んだりなどした。

#### <予算について>

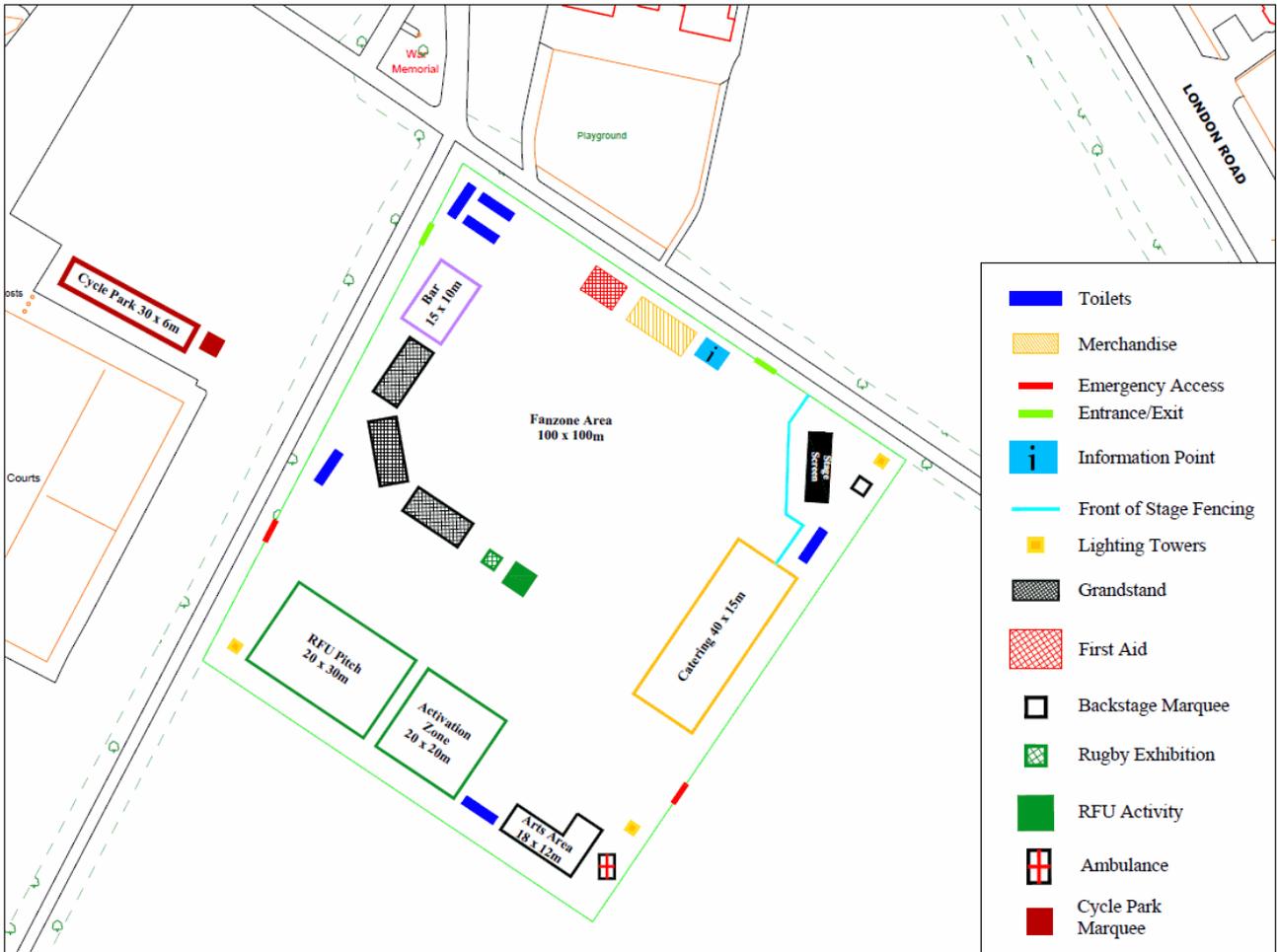
- レスター市はファン・ゾーンの運営について 150,000 ポンド（約 2,400 万円）の予算内で実施した。そこに人件費や建築費、イベント全ての費用が含まれている。レスター市は多くのボランティアの協力を得たため、その分は費用がかかっていない。RWC2015 開催の全体のコストは 500,000 ポンド（約 8,000 万円）以内であった。ファン・ゾーンのコストが最も大きな割合を占めた。

■ 入手資料等：

- ・ レスター市「YOUR TRAVEL GUIDE (ER2015 発行)」(以下は抜粋)



- ・ ファン・ゾーンの建設プラン見取り図 (下図がすべて)



• ファン・ゾーンの設置スケジュール（下表がすべて）

Rugby World Cup Fanzone 2015																
Build schedule																
Item	Date	Weds 30/09/15	Thurs 01/10/15	Fri 02/10/15	Sat 03/10/15	Sun 04/10/15	Mon 05/10/15	Tues 06/10/15	Weds 07/10/15	Thurs 08/10/15	Fri 09/10/15	Sat 10/10/15	Sun 11/10/15	Mon 12/10/15	Tues 13/10/15	Weds 14/10/15
Security		2000-0000	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-2359	0000-1000
Event base			0800-1000													0800-1000
Site surround fencing		0600-2000														0800-2000
Entrance arches			0800-1200													0800-1100
Giant # / Walk of Champions			TBC													
Lighting towers			0800-1100											0800-1100	0800-1100	
RFU Pitch surround																
Scott Hudson: 07534 038146			0800-1300													AM - TBC
RFU Club Zone (parasol)																AM - TBC
Scott Hudson: 07534 038146			0800-1300													
Arts marquee (Funky Tents)			0900-1600											0800-1700		
ER2015 activations																
Global Games: Ben Harwood, 07502 228687		0900-1100														
Site dressing		0900-1200												0800-1700		
Wi-fi install				TBC												
Sound & Lighting				1100-1700									2030-2230			
Stage / Screen			0800-1100										2030-2230	0800-1100		
Sound check				1700												
Aerial				0:00										9:00		
Caterers				0800-1700									2030-2230	2030-2230		
Bars			0800-1700										2030-2230	0800-1200		
FOH fencing			0900-1700											0800-1200		
Toilets				0800-1200										0800-1200		
Soft Touch arrival (tables & chairs in marquees)				1200												
Rugby exhibition				1200-1700												
Arts area				1200-1700										0800-1200		
Pravin tables								0900- set up tables								
Haka Dancers							1130 load in performance									
Info point			1200-1700													
Night of Festivals 5m platform				1600	9:00											
First aid				0800-1100									2030-2230			
Cycle Park				1100-1200	1000-1100			1400-1500	1400-1500		1400-1500	1000-1100	1000-1100			
Sportfolio																
Coca Cola																
Alex Dixon																
Luton Van		9:00					17:00				9:00					17:00
Transit Van		9:00														
Heaters - TO BE COLLECTED			9:00													17:30
Please note that this schedule is a living document and subject to change up to and during the event dates																

• ファン・ゾーンのスクリーンの放映スケジュール（以下は提供された資料の抜粋）

Date	Fixture	Kick off times	Opening Times	Additional planned activities
Fri Oct 2	N/A	N/A	N/A	NA
	Samoa v Japan	1430		Busking, musical entertainment
	South Africa v Scotland	1700		Story telling
Sat Oct 3	England v Australia	2000	1200- 30 mins after match	
	Argentina v Tonga	1430		
Sun Oct 4	Ireland v Italy	1700	1100- 2000	
Tue Oct 6	Canada v Romania	1700		
	Fiji v Uruguay	2000	1530- 30 mins after match	
Wed Oct 7	South Africa v USA	1700		
	Namibia v Georgia	2000	1530- 30 mins after match	
Fri Oct 9	New Zealand v Tonga	2000	1530- 30 mins after match	
	Samoa v Scotland	1430		
	Australia v Wales	1700		
Sat Oct 10	England v Uruguay	2000	1100- 30 mins after match	
	Argentina v Namibia	1200		
	Italy v Romania	1430		
	France v Ireland	1700		
Sun Oct 11	USA v Japan	2000	1100 - 30 mins after match	

Times	Screen	Stage	Performance	Arts & Crafts	Sports
10					
10:30					
11					
11:30					
12				Freedom Wall workshops 12-2	
12:15				TBC	
12:30					
13					
13:15					
13:30					
14	Pre Match				
14:30	Samoa v Japan			Freedom Wall workshops 3-5 (TBC)	
15:30					
16					
16:30	Pre/Post Match				
17					
17:30	South Africa v Scotland				
18					
18:30					
18:45					
19	Screen off	Night of Festivals performance	Night of Festivals performance (grassed area in front of stage)		
19:15					
19:30	Pre/Post Match				
20					
20:30	England v Australia				
21					
21:30	Post Match				
22					
22:30	Screen fill slides				

### 3.5.4 調査結果：RWC2015 開催都市「グロスター市」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <グロスター市概要>

- 人口：約 12 万人
- 面積：39.91km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 9月19日（土）20:00～「トンガ×ジョージア」（プールC）
- 9月23日（水）14:30～「スコットランド×日本」（プールB）
- 9月25日（金）16:45～「アルゼンチン×ジョージア」（プールC）
- 10月11日（日）20:00～「アメリカ×日本」（プールB）

##### <スタジアム>

- 名称：キングホルム・スタジアム
- 収容人数：16,500人



##### <ファン・ゾーン>

- 収容人数：5,000人
- 開催日数：11日間



##### <ファン・ゾーン開催日>

- 9月18日（金）17:00-22:30
- 9月19日（土）11:00-22:30
- 9月20日（日）11:00-20:00
- 9月23日（水）11:00-22:30
- 9月25日（金）16:00-21:00
- 9月26日（土）12:00-22:30
- 9月27日（日）11:00-20:00
- 10月4日（日）13:00-19:00
- 10月10日（土）13:00-22:30
- 10月11日（日）11:00-22:30

■ 開催時のグロスター市の地図



[地図データ引用：Google マップ]

■ 平常時、及び RWC2015 開催時のファン・ゾーン用地の様子

<平常時のファン・ゾーン用地の様子>



<開催中のファン・ゾーン用地の様子>



※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015 開催後に撮影した。

■ 日 時 : 2016年1月26日(火) 10時~13時

■ 場 所 : グロスター市役所内会議室

■ 対応者 :

- RWC2015 責任者  
ロス・クック氏
- マーケティング部 イベントディレクター  
ミハイリ・スミス氏



(左からスミス氏、クック氏)

■ 議事 :

#### <担当者について>

- クック氏はグロスター市職員で、RWC2015の際はプロジェクトマネージャーとしてRWC2015を総括する立場であった。スミス氏もグロスター市の職員でイベントチームに所属し、RWC2015の際はファン・ゾーン等を担当していた。

#### <ファン・ゾーンについて>

- グロスター市では、ファン・ゾーンをショッピングセンターに隣接した場所に収容人員4,700人規模で計画していたが、最低でも5,000人規模とするよう、ER2015から計画変更の要請を受けた。そこで、予定していた場所(スクリーンゾーンエリア)と隣接してオープン型のファミリーゾーンエリアを設置し、2つのファン・ゾーンを設置することでER2015の了承を得ることができた。収容人員は5,000人として発表している。
- ファミリーゾーンエリアではアルコールの販売を行わないこととした。また、キャンディバーを設置した。
- ファン・ゾーンに関しては、出店店舗等をグロスター市で企画した後、ER2015に報告し、必要に応じて変更を行った。
- グロスター市のファン・ゾーンはラグビーグラウンドをイメージしてデザインした。設置されたスタンドには400席があり、その前に広がる芝生エリアは座ることができた。
- ファン・ゾーンを開催した場所は、隣接するショッピングモールの運営会社が保有する土地であったが、ショッピングモールへの誘客等のメリットが見込まれるため、ファン・ゾーンの設置期間中、グロスター市は無償でその土地を借り受けた。
- ファン・ゾーンは、9月18日(金)の開催に向け、9月12日(土)から建設を開始した。また、10月11日(日)にクローズした後、10月12日(月)~10月14日(水)にファン・ゾーンの撤去作業を行った。
- ファン・ゾーンは、イングランドが試合を行う際は必ず開催した。
- ファン・ゾーンは、11日間開催し、そのうち7日間はグロスター市で試合開催のない日(「ダークデイ」)であった。
- ダークデイは、ファン・ゾーンガイドラインにもとづき、RWC2015に関わる広告・商品を原則撤去しなくてはならなかったため、9月18日(金)がダークデイ、9月19日(土)が試合開催日であったグロスター市は最初の2日間の対応が非常に難しかった。実際は、ファ

ン・ゾーン内の装飾は外さないものの、スクリーンで流す映像でCMを流さないよう注意した。

- ダークデイでは地域のコミュニティ映画祭を行う等、小さなイベントを行うこととした。
- 仮に、全ての広告等の装飾を外して運営していたら予算が不足してしまうところであった。その分、浮かせた費用をセキュリティの予算として使った。
- グロスター市には有名なグロスター大聖堂（映画「ハリーポッター」の撮影でも使用された）があり、スタジアムに行く際の観光スポットとして活用した。
- ER2015はグロスター市に対し、公共交通エリア（駅・バスターミナル）から最短でファン・ゾーンに行けるよう指示を行ったため、大聖堂の近くでファン・ゾーンを開くことはしなかった。
- ファン・ゾーンのスクリーンで上映する内容はER2015により規制がある。放送内容は2カ月前にER2015に報告する義務があり、RWC2015に関係ない内容を上映する際は、RWC2015のスポンサーのCMを放送することが出来なかった。

#### <予算について>

- ファン・ゾーンに関わる費用は、当初予算額が50,000ポンド（約800万円）で、実際の額は200,000ポンド（約3,200万円）であった。スタンドの設営費は9,000～10,000ポンド（約144～160万円）。
- RWC2015に関わる費用は、当初予算額が350,000ポンド（約5,600万円）で、実際の額は450,000ポンド（約7,200万円）であった。参考として、グロスター市の2年間の予算額が18,000,000ポンド（約28億8,000万円）程度。
- ER2015が追加の業務として、シティブランディングを行うように指示をしてきたため、当初見込んでいた予算よりも支出が増えた。

#### <経済効果について>

- グロスター市では、RWC2015による経済効果を独自には測定していない。ER2015が、ホテルの宿泊数、商業施設における購買率の前年比較、駅の利用人数、飲食施設の使用率等から経済効果を測定しており、今後レポートを出す予定である。
- グロスター市では、RWC2015におけるビジターの訪問者数等の統計を取っていない。

#### <セキュリティについて>

- ファン・ゾーンの周囲にアパートがあったため、防音対策を行った。また、周辺住民とファン・ゾーンの開催前に話し合いの機会を設け、書面等による事前通知も行ったため、周辺住民からのクレームはなかった。
- 防犯対策としてファン・ゾーンに関して24時間体制のセキュリティを行うことを周辺住民に伝えた。また、ファミリーゾーンエリアは18時まで、スクリーンゾーンエリアは22時までの開催とすることを周辺住民と約束した。この時間は、グロスター市の環境対策に関するルールに基づいて作成した。

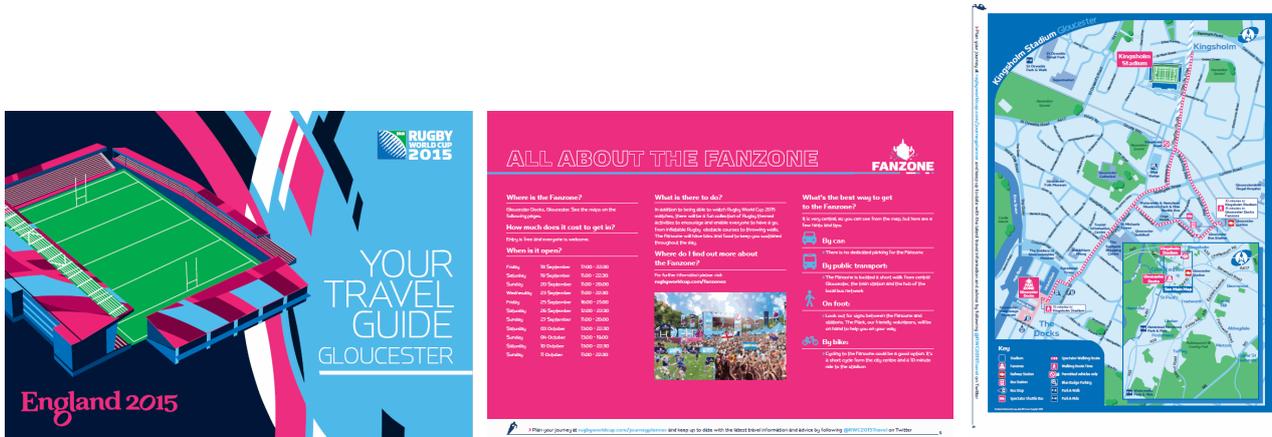
- 防音に関しては、ER2015 は関与しなかった。

#### <日本へのコメント>

- ER2015 のルールは厳密であったものの、ER2015 に相談することができて、必要に応じて変更してもらえたため、自由度があった。
- RWC2019 開催自治体へのアドバイスとしては、まず、計画が変更することが多いため、予算等は臨機応変に使えるようにしておいたほうがよい。また、New Zealand の RWC2011 や England の RWC2015 のプランを応用するにしても、各開催地域の実情を踏まえながら参考とするのがよい。さらに、地域の人と多くの話し合いの機会を持ち、交渉し、最善の策を出すことが重要である。

■ 入手資料等：

- グロスター市「YOUR TRAVEL GUIDE (ER2015 発行)」(以下は抜粋)



- グロスター市のファン・ゾーンの計画書 (89 頁。以下は抜粋)



(実際にグロスター市がファン・ゾーンの設置・運営の際に作成した計画書)

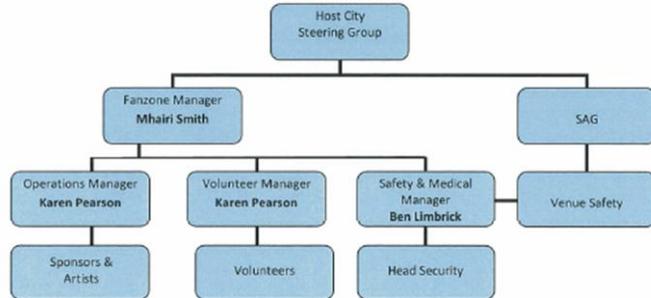
## 2. EVENT COMPOSITION

Friday 18 <sup>th</sup> Sept	Opening ceremony for RWC	England vs Fiji game – 8 pm	5.00pm	10.30pm
Saturday 19 <sup>th</sup> Sept	<b>KINGSHOLM MATCH</b>	Tonga vs Georgia – 12 noon Ireland vs Canada – 2.30 pm South Africa vs Japan – 4.45 pm France vs Italy – 8pm	11.00am	10.30pm
Sunday 20 <sup>th</sup> Sept		Samoa vs USA – 12noon Wales vs Uruguay – 2.30 pm New Zealand vs Argentina – 4.45pm	11.00am	8.00pm
Wednesday 23 <sup>rd</sup> Sept	<b>KINGSHOLM MATCH</b>	Scotland vs Japan – 2.30 pm Australia vs Fiji – 4.45pm France vs Romania – 8pm	11.00am	10.30pm
Friday 25 <sup>th</sup> Sept	Trophy on show Community / Uni Film project <b>KINGSHOLM MATCH</b>	Argentina vs Georgia – 4.45pm	11.00 am 1.00 pm 2.45 pm 9.00pm	1.00pm 2.45pm 9.00pm
Saturday 26 <sup>th</sup> Sept		Italy vs Canada – 2.30 pm South Africa vs Samoa – 4.45 pm England vs Wales – 8pm	12.00pm	10.30pm
Sunday 27 <sup>th</sup> Sept		Australia vs Uruguay – 12 noon Scotland vs USA – 2.30 pm Ireland vs Romania – 4.45 pm	11.00am	8.00pm
Saturday 3 <sup>rd</sup> Oct		Samoa vs Japan – 2.30pm South Africa vs Scotland – 4.45 pm England vs Australia – 8pm	1.00pm	10.30pm
Sunday 4 <sup>th</sup> Oct		Argentina vs Tonga – 2.30pm Ireland vs Italy – 4.45 pm	1.00pm	7.00pm
Saturday 10 <sup>th</sup> Oct		Scotland vs Samoa – 2.30 pm Australia vs Wales – 4.45 pm England vs Uruguay – 8 pm	1.00pm	10.30pm
Sunday 11 <sup>th</sup> Oct		Argentina vs Namibia – 12 noon Italy vs Romania – 2.30 pm France vs Ireland – 4.45pm USA vs Japan – 8 pm	11.00am	10.30pm
Monday 12 <sup>th</sup> – Wednesday 14 <sup>th</sup> Oct	<b>KINGSHOLM MATCH</b> FANZONE	DE-CONSTRUCTION		

(ファン・ゾーンの予定を掲載)

## 3. MANAGEMENT STRUCTURE AND PROCEDURES

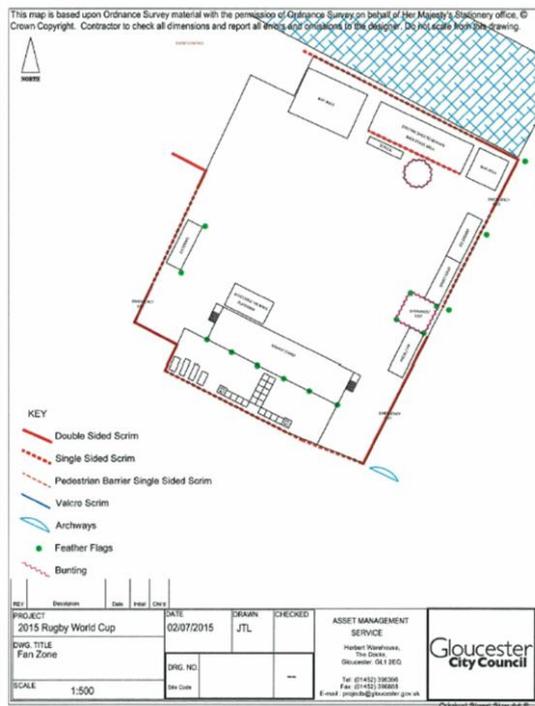
### 3.1 Event Management Structure



(ファン・ゾーンに関連するイベントマネジメント体制)

## 4. INFRASTRUCTURE & SITE DESIGN

### 4.1 Site Plans



(ファン・ゾーンの設計図)

### 4.2 Production Schedule Plan

#### FANZONE PRODUCTION SCHEDULE

DATE	TIME	TASK	SUPPLIER
Sat 12 <sup>th</sup> Sept	08:00	Staff on site	GCC/ MGL
	08:00	Security on site 2 on site 2/4/7 from now on	R S Security
	09:00	Delivery – office cabin	
	09:00	Delivery of forks / plant	
	09:30	Delivery fencing and barrier	Show Services Group
	09:30	Fencing and barriers erected	GCC/MGL Crew
	10:00	Delivery and build of Truss for goal post structure	
	10:00	Delivery of toilets	Prestige Toilet Hire
	12 noon	Delivery of generators	Peak Hire
	15:00	Branding of perimeter fencing	GCC/ MGL Crew
Sunday 13 <sup>th</sup> Sept	18:00	Work finishes on site	
	19:34	Sunset	
	08:00	Staff on site	MGL /GCC Crew
	09:00	Work on Truss rugby post structure continues	
	10:00	Grandstand structure arrives and is start to be built	Wernick
11:00	Marquees arrive for far part of site and erected	Mobenn	
13:00	Rugby post truss complete		

(ファン・ゾーン設営の行程表の抜粋)

- グロスター市の RWC2015 運営に関するプレゼン資料（20 頁。以下は抜粋）

## Welcome to Gloucester



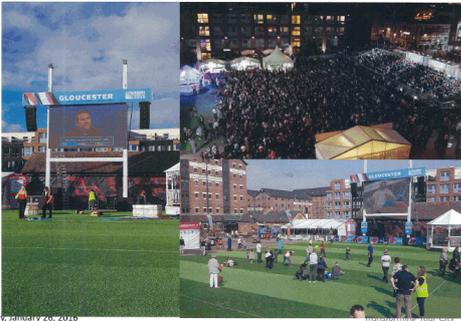
Tuesday, January 26, 2016

## Project Board Structure (1)

- City Council
  - Overall Lead
  - Fanzone / City Dressing
  - Community Engagement / Involvement / Volunteers / Cultural Programme
  - Rights Protection
  - Communications
  - Legacy – Facilities and Participation
- County Council
  - Transportation

Gloucester  
City Council  
Transforming Your City

## Fanzone Images



Tuesday, January 26, 2016

## Benefits of being a Host City

- Financial Benefits - £48m and growing
- Pride in the City
- Closing Links to other Nations
  - As Host Cities / Business Opportunities
- Tourism
- Health and Well Being
- The Eyes of the World are on us....

Gloucester  
City Council  
Transforming Your City

### 3.5.5 調査結果：RWC2015 開催都市「ミルトン・キーンズ市」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <ミルトン・キーンズ市概要>

- 人口：約 19.5 万人
- 面積：89km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 10月1日（木）20:00～「フランス×カナダ」（プールD）
- 10月3日（土）14:30～「サモア×日本」（プールB）
- 10月6日（木）20:00～「フィジー×ウルグアイ」（プールA）

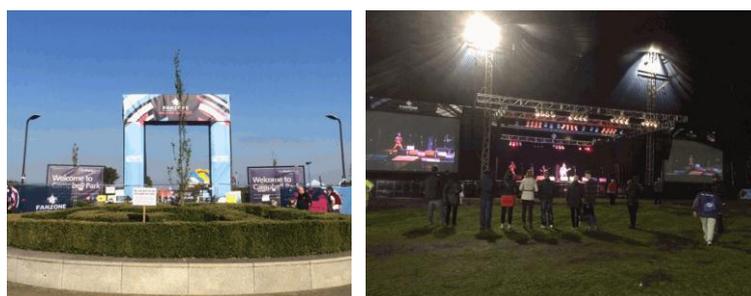
##### <スタジアム>

- 名称：スタジアム MK
- 収容人数：30,500 人



##### <ファン・ゾーン>

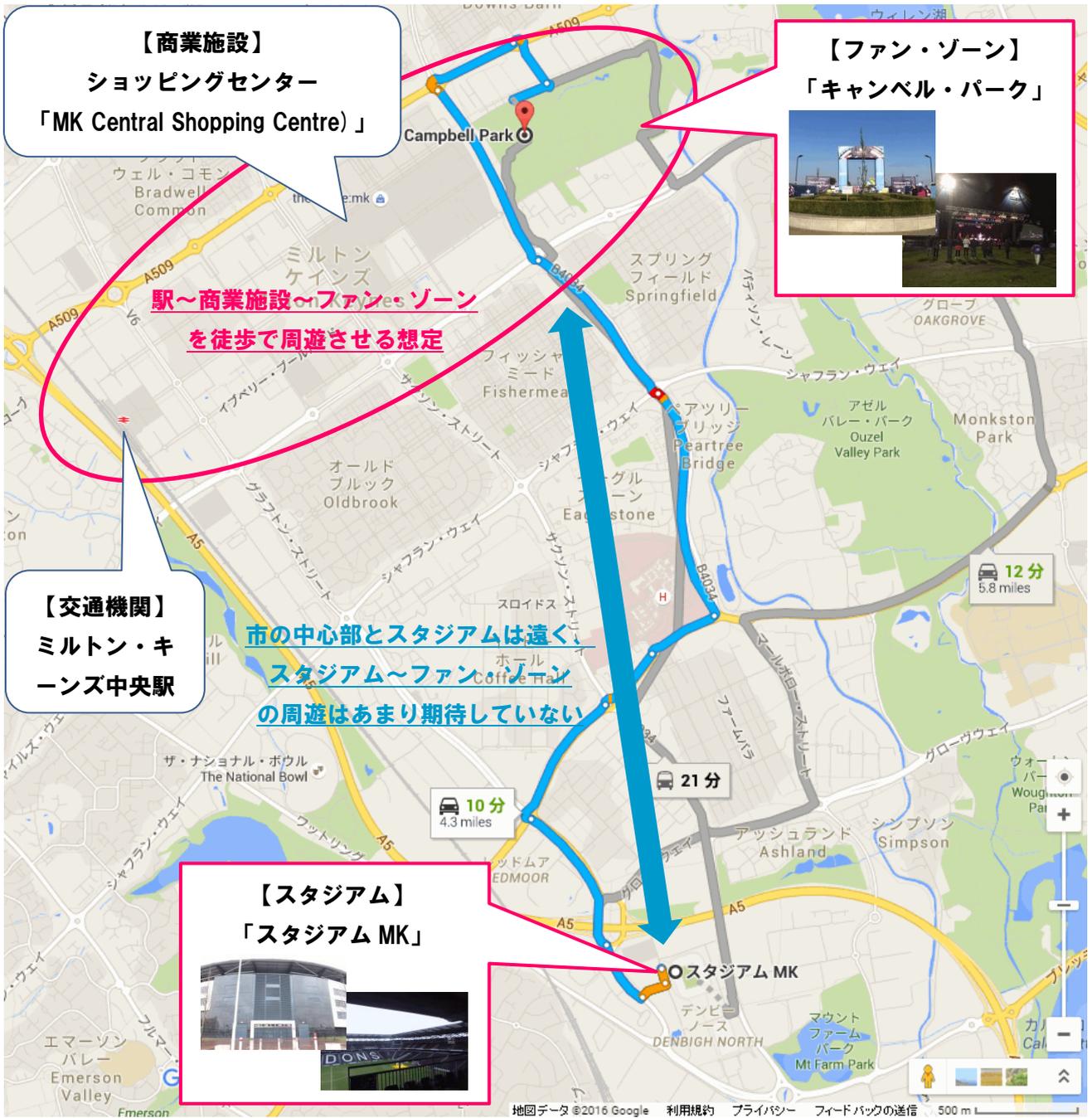
- 収容人数：5,000 人
- 開催日数：7 日間



##### <ファン・ゾーン開催日>

- 10月1日（木）12:00-23:00
- 10月2日（金）18:00-22:30
- 10月3日（土）12:00-22:30
- 10月4日（日）12:00-22:30
- 10月6日（火）12:00-22:30
- 10月7日（水）12:00-22:30
- 10月9日（金）12:00-22:30
- 10月10日（土）12:00-22:30
- 10月11日（日）12:00-22:30

<開催時のミルトン・キーンズ市の地図>



[地図データ引用 : Google マップ]

■ 平常時、及び RWC2015 開催時のファン・ゾーン用地の様子

＜平常時のファン・ゾーン用地の様子＞



(ミルトン・キーンズ市が管轄するパークトラストが所有するキャンベル・パーク)



＜開催中のファン・ゾーン用地の様子＞



(広大な敷地に、雨天も運営しやすいよう大型のテントを設置)

※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015 開催後に撮影した。

- 日時：2016年1月27日（水）11時～12時半
- 場所：ミルトン・キーンズ スタジアム MK VIP ルーム
- 対応者：

- ミルトン・キーンズ市 戦略課長  
ジェフ・スネルソン氏
- ミルトン・キーンズ市 プログラムマネージャー  
ジェームズ・スローン氏
- ミルトン・キーンズ ドンズ ディレクター  
ジョン・コーブ氏



（右からコーブ氏、スネルソン氏、スローン氏）

## ■ 議事：

### <担当者について>

- スネルソン氏はミルトン・キーンズ市の職員で、RWC2015 開催時はミルトン・キーンズ市の代表者であり、市で行うイベントに関連する一切の業務に携わった。スローン氏もミルトン・キーンズ市の職員で、RWC2015 開催時はプロジェクトマネージャーを担当していた。コーブ氏はスタジアムを運営するフットボールクラブ「ミルトン・キーンズ・ドンズ」の役員であり、非営利団体のスポーツ教育の普及プロジェクトにも従事している。

### <市の取組みについて>

- RWC2015 の際、レガシープログラムとして、市内の子供を中心にラグビーの普及活動を行った。RWC2015 の開催 18 カ月前から実施し、地域のグラウンドを使って身近な施設でラグビーができることを教えた。ミルトン・キーンズ市はスポーツイングランド（スポーツ事業支援団体）と連携してこのプロジェクトを行った。また、市の学校において、ハカ（ニュージーランドマオリ族の民族舞踊）やラグビー体験等、ラグビー普及活動のプログラムを展開した。

### <ファン・ゾーンについて>

- ファン・ゾーンは、ミルトン・キーンズ市の中心駅近くにある、トラストパークが保有するキャンベル・パークで開催した。スタジアムからは遠く離れているが、駅からショッピングセンターを通過してファン・ゾーンに行くルートが組めるために開催場所として選んだ。
- ファン・ゾーンは、試合開催が 3 日間だけで、それ以外は試合開催がない日（「ダークデイ」）であったため、スタジアムの近くよりも、地域に近い場所を選び、ファン・ゾーンだけではなく、地域の飲食店等を利用してもらうよう、この場所を選んだ。駅、地域、ファン・ゾーン及びスタジアムの 4 点の距離のバランスと地域の活性化を考えた上で、このファン・ゾーンを選択した。
- ファン・ゾーンに向かう一本道をミルトン・キーンズ市の裁量で、いかに地域の店舗に人が流れるかを考えてルートを決めた。20,000 台の車が市内で収容できる駐車場を完備するよう、車用のルートも設定した。

- ファン・ゾーンは試合開催の前日より開き、合計で 10 日間開催した。そのうち 3 日間は試合開催日に開き、残りの 7 日間はラグビーに関するイベントやアクティビティを行った。具体的には、音楽フェスティバルやコミュニティイベント、レガシープログラムの一環としてのラグビーの普及活動が主な内容。
- ファン・ゾーン内には大きなテントを設置し、その中には大型上映スクリーン、舞台を設置した。また、大きなスポーツバー、小さな飲食屋台（5～6 店舗）、RWC2015 公認ショップ、地べたに座れるエリアを設置した。さらに、地元のラグビークラブが運営するラグビーのアクティビティエリア（スクラムの体験コーナー等）も設置した。
- 店舗はオフィシャルパートナー（Heineken 等）だけではなく、地元の飲食店舗等を誘致したが、販売商品に関してはライセンスに基づいているか等、適宜確認をした。
- 巨大なテントに上映スクリーンを 2 つ設置し、5,000 人が立って観戦できるようにした。テント建設には 1 週間かかった。
- ファン・ゾーンを設置したキャンベル・パークは、パークトラストが所有している場所で、この団体はミルトン・キーンズ市が管轄している。パークトラストはミルトン・キーンズ市にあるグリーンスペース、芝生、公園等の運営・管理を行っている。
- 大型のテントを設置したのは、天候が不安定な 10 月のイギリスの天候を考慮したため。
- ファン・ゾーンでは、2 種類のミュージカル、18 もの音楽バンドを 10 月 1 日に実施した。ミルトン・キーンズ市では RWC2015 の開催 8 カ月前にイベント内容を決定した。
- ファン・ゾーンに関する契約をミルトン・キーンズ市とパークトラストが結び、ファン・ゾーンを開催した 10 日間はほぼ無償でキャンベル・パークの土地を借りた。
- ファン・ゾーンが住宅地から離れた公園にあったので、ファン・ゾーンの周辺住民からのクレームはあまりなかった。また、住民に事前アンケートを行っており、ファン・ゾーン開催に対して 94%の住民が肯定的な意見であった。

#### <予算について>

- 資金に関しては、RWC Limited からの要望を聞くことが困難な場合が多々あった。
- ミルトン・キーンズ市においては、ファン・ゾーンに関する市の方針を定めた後、RWC Limited から正式にファン・ゾーンガイドラインが発表された。
- RWC2015 の支出としては、街頭の装飾、交通整備をするための建設・フェンスの設置等、インフラに 60,000 ポンド（約 960 万円）がかかった。

#### <交通アクセスについて>

- 試合会場からファン・ゾーンまでは車で 15 分弱の距離があり、徒歩での移動が難しいため、無料のシャトルバスを手配して運行したが、その費用がかかった。最も多い時で 2 分に 1 本のペースでバスを運行し、1 日 60 本を運行し、およそ 10,000 人を輸送した。

#### <経済効果について>

- ホテルの宿泊率、地域店舗での利益を分析し、RWC2015 の経済効果を算出した。ミルトン・

キーンズ市のRWC2015の経済効果は、6,000,000ポンド（約9億6,000万円）であった。最も利益が多かったのは外国人観光客におけるホテルの宿泊に関わる利益である。料金設定が通常の10倍ぐらいに設定されていた。また、正確な統計ではないが、フランス人の観光客が多かったように思われた。

#### <改善できる点について>

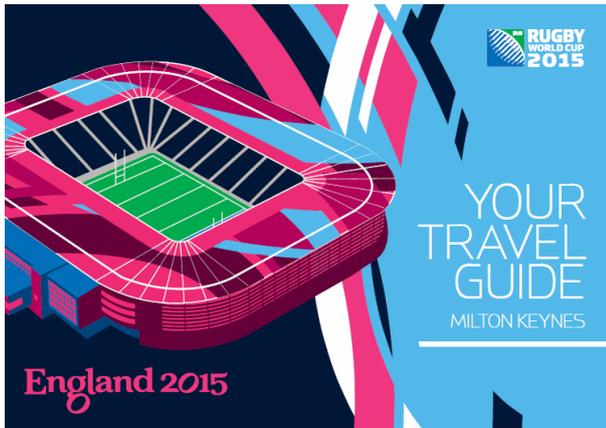
- もう一度RWCを開催するならば、交通インフラに関しては改善の余地があった。もう少しコストを抑えることができたと思う。また、ファン・ゾーンのイベントに関しても、もう少し規模を小さくし、イベントの数を減らして支出を抑えるか、もっと魅力的なイベントを考えて地域や国内の人にも立ち寄りやすいイベントを考えれば良かった。試合のある日は賑わうが、試合のない日には普段通り仕事に行く人が立ち寄らない。
- コンサートをチケット制にし、人数を数えてコントロールやニーズの把握をしたり、着座席（椅子の完備）により、もっと長時間いられるような取組を行えば良かった。
- 大きなイベントを行うよりも小さい規模のイベントを複数回行うほうがいい。
- ファン・ゾーンを開催する日のある程度割り切るのもいいかもしれない。今回ミルトン・キーンズ市は10日間開催したが、試合が行われた3日間の開催だけでも良かったかもしれない。無意味に閑散としたファン・ゾーンを開催しているよりも、盛り上がった良い雰囲気のまま短期間で行うのが、支出が少なく効率が良い。ファン・ゾーンとして何を目的とし、どう地域活性化に活かし、いかに費用を使うのかを考えて行うべきである。

#### <その他>

- ER2015やRWC Limitedとは直接的な連絡は取り合っていたが、他の開催都市とは特に連携をしていない。フィジー戦に関してER2015から他の開催都市との連携を公式に行うように提案があったが、実施はされなかった。
- ファン・ゾーンの開催日に関してはRWC Limitedと自由に相談することができた。もしイギリスが決勝トーナメントに進んだら更に開催しようとしたが、敗退したので実現しなかった。この件に関してRWC Limitedは相談に乗ってくれた。
- 現在、ミルトン・キーンズ市ではRWC2015に関する報告書を取りまとめており、3月末にER2015に提出する予定である。

■ 入手資料等：

- ミルトン・キーンズ市「YOUR TRAVEL GUIDE (ER2015 発行)」(以下は抜粋)



## ALL ABOUT THE FANZONE

**Where is the Fanzone?**

Completed last, Milton Keynes. See the maps on the information page.

**How much does it cost to get in?**

Entry is free and everyone is welcome.

**When is it open?**

Thursday	October 1	12:00 – 23:00
Friday	October 2	18:00 – 23:00
Saturday	October 3	12:00 – 23:00
Sunday	October 4	12:00 – 23:00
Monday	October 5	12:00 – 23:00
Tuesday	October 6	12:00 – 23:00
Wednesday	October 7	12:00 – 23:00
Friday	October 9	12:00 – 23:00
Saturday	October 10	12:00 – 23:00
Sunday	October 11	12:00 – 23:00

**What is there to do?**

Spectators will be able to watch Rugby World Cup 2015 matches here (subject to a big screen) as well as a large marquee, or to enjoy all sports for sale. As well as a bar area, there will be a selection of fan Rugby-themed activities to encourage and enable everyone to have a go! From Rugby huggies to testing your ball-kicking skills. There will be live and an interesting mix of cultural food offerings available.

**Where do I find out more about the Fanzone?**

For further information please visit: [rugbyworldcup.com/fanzone](http://rugbyworldcup.com/fanzone)

**What's the best way to get to the Fanzone?**

It's very central so you can use the map, but here are a few hints and tips:

**By car:**

- There is no dedicated parking for the Fanzone.

**By public transport:**

- The Fanzone is located a short walk from Milton Keynes Central Station and you can use the free spectator shuttle bus to get there and to the stadium.

**On foot:**

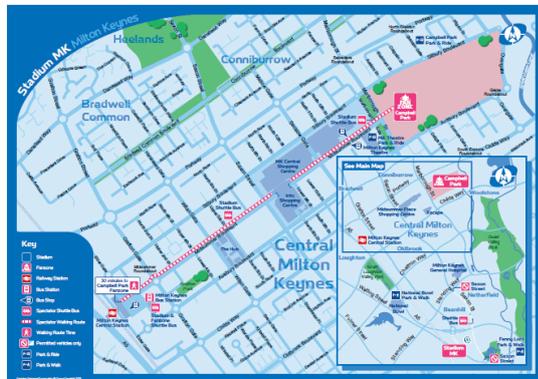
- Look out for signs between the Fanzone and the stadium. The track and friendly pedestrians will be on hand to help you on your way!

**By bikes:**

- Cycling to the Fanzone could be a good option. It is a short cycle from the city centre and a 25 minute ride to the stadium!

Plan your journey here at: [www.rugbyworldcup.com/fanzone](http://www.rugbyworldcup.com/fanzone)

Plan your journey at [rugbyworldcup.com/fanzone](http://rugbyworldcup.com/fanzone) and keep up to date with the latest travel information and advice by following @RWC2015Travel on Twitter



Plan your journey at [rugbyworldcup.com/fanzone](http://rugbyworldcup.com/fanzone) and keep up to date with the latest travel information and advice by following @RWC2015Travel on Twitter

### 3.5.6 調査結果：RWC2015 開催都市「ブライトン市」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <ブライトン市概要>

- 人口：約 27 万人
- 面積：89.46km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 9月19日（土）16:45～「南アフリカ×日本」（プールB）
- 9月20日（日）12:00～「サモア×アメリカ」（プールB）

##### <スタジアム>

- 名称：ブライトン・コミュニティ・スタジアム
- 収容人数：30,750 人



##### <ファン・ゾーン>

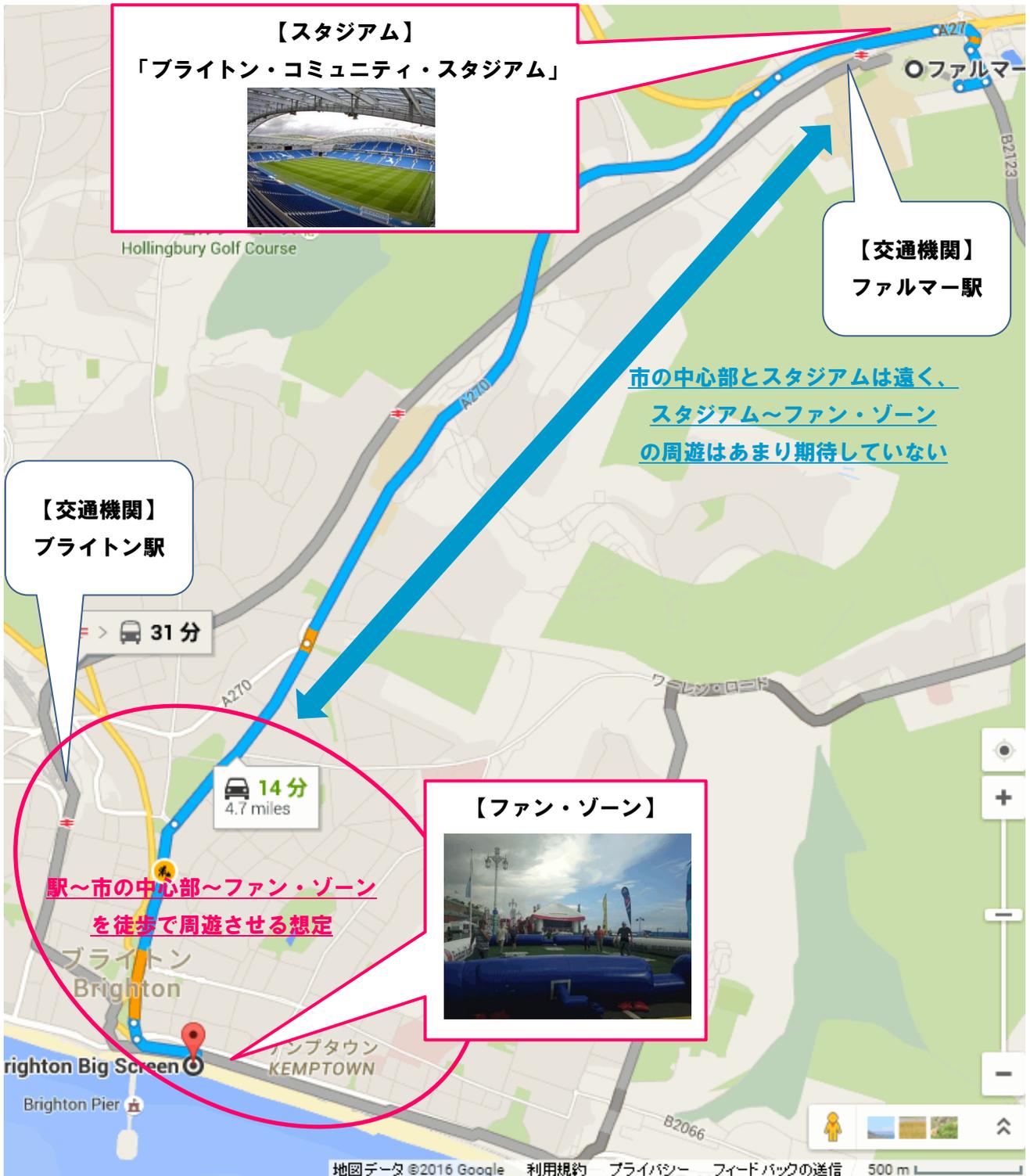
- 収容人数：10,000 人
- 開催日数：3 日間



##### <ファン・ゾーン開催日>

- 9月18日（金）15:00-23:00
- 9月19日（土）10:00-23:00
- 9月20日（日）10:00-21:00

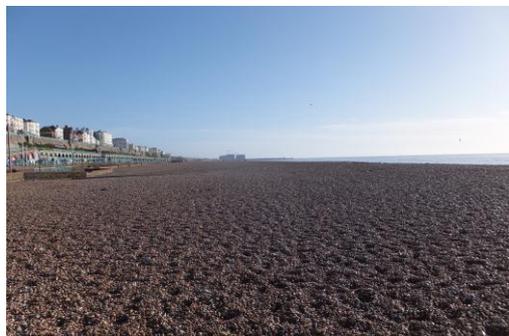
■ RWC2015 開催時のブライトン市の地図



[地図データ引用：Google マップ]

■ 平常時、及び RWC2015 開催時のファン・ゾーン用地の様子

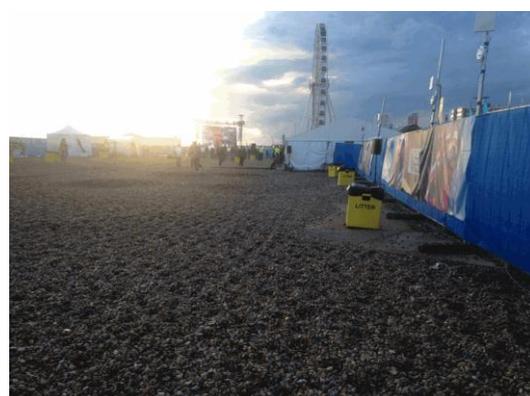
＜平常時のファン・ゾーン用地の様子＞



(ブライトン市が保有するビーチ)



＜開催中のファン・ゾーン用地の様子＞



(ビーチサイドに設置されたファン・ゾーン)

※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015 開催後に撮影した。

- 日時：2016年1月28日（木）10時～11時半
- 場所：ブライトンセンター
- 対応者：ブライトン市 イベントマネージャー  
イアン・テイラー氏



（右：テイラー氏）

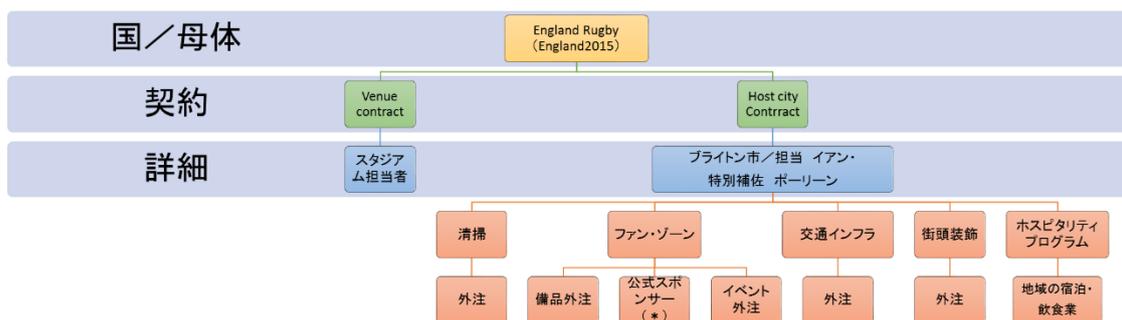
■ 議事：

<担当者について>

- テイラー氏は、ブライトン市のイベントマネージャーで、日頃、市が運営するすべてのイベントに関する業務を行っている。RWC2015の際は、別のイベントマネージャー、ポーリーン・フリーストーン氏とともに業務を行った。警察・消防・町中清掃業などと連携を取り、RWC2015の誘致とそれにかかわる一切の業務を担当した。
- ポーリーン氏はオリンピック等の国際的な文化・スポーツイベントの専門家で、ファン・ゾーンの運営に関わる業務の全て（外注管理・おもてなし業務のプラン構築・町中の装飾・交通整備などのインフラ整備）をテイラー氏と共に担当した。ポーリーン氏は、RWC2015の2年前～開催後3週間の期間、RWC2015のために臨時に雇用された。

<組織体制について>

- ホストシティアグリーメントを市がRWC Limitedと締結し、その契約内容に基づきRWC2015中ホストシティとしての務めを果たした。
- ブライトン市のRWC2015に関する体制図は下図のとおり。清掃、街頭装飾、公共交通に関しては、市の担当課に加え、外部委託も利用した。ファン・ゾーンに関しては、プロダクションマネージャーを設置し、ファン・ゾーンに関わるレポートの作成、ステージのレンタル手配、インフラ整備など、ファン・ゾーンを運営する上で必要な業務を行った。



- イアン、ポーリーンをはじめとする担当者、警備会社スタッフ等のスタッフ200人、ナショナルボランティアスタッフ、地元のボランティア各100名の総勢400人が運営に参加した。

<ファン・ゾーンについて>

- ファン・ゾーンは市が保有するビーチに設置したため、敷地のレンタル費用はかからな

った。RWC2015開催の約2年前に市議会で土地使用許可の了承を得てから使用した。

- この場所を選んだ理由は、駅やブライトン市を代表する場所を通るルート上で重要な場所だったから。また、ブライトン市は市内を徒歩で歩き回れる構造になっており、ファン・ゾーンの設置場所は徒歩で歩けることを前提に決定した。
- ファン・ゾーンの開催が3日間のみであった理由は、コストが一番の理由だった。日数を恐れずに短くしたことで予算や経費を大幅に下げることができた。
- ファン・ゾーンの開催時期が9月末で、ビーチサイドに設置したため、大雨・風等、天候が心配であった。結果的には天候が良かった。
- 3日間のセキュリティ、ケータリング会社への支払い、スクリーンなどのレンタル、事前に把握していた予算を踏まえ、ブライトン市においては3日間の開催が限界であった。
- ファン・ゾーンにはケータリング会社1社管轄の6店（飲食）、公式グッズの販売店1店舗を展開。他にはイベントなどのアクティビティを行った。
- 街中でもテレビ中継が可能なパブや店が多くあり、ファン・ゾーンに人が来るかどうか心配だったが、3日間で約4万人が訪れた。来場者数はセキュリティーゲートにて直接計測器を用いて測定した。多くの南アフリカや日本のサポーターがブライトンを訪れ、土曜日が一番賑やかであった。

#### <予算について>

- RWC2015に関する予算全体は約200,000ポンド(約3,200万円)。市の特別予算として支出。
- 予算の分配は、ファン・ゾーンの運営資金が3日間で約60,000ポンド(約960万円)、チーム誘致に関わる予算70,000ポンド(1,120万円)、そして30,000ポンド(約480万円)が街頭装飾に使った。チーム誘致費用は具体的には、ホテルの部屋の確保・日本文化フェスティバルなど各国の異国イベントに関わる費用など。
- セキュリティに関しては、3日間の警備で26,000~27,000ポンド(約416~432万円)かかった。
- 交通機関のバス会社に60,000ポンド~70,000ポンド(約960~1,120万円)に支払った。

#### <経済効果について>

- ショッピングセンターやレストランでの利益等として、昨年度の同月と比べて2,000,000ポンド(約3億2千万円)程度の経済効果が見込まれている。
- ビジターがブライトンを訪れる主な目的は試合観戦やブライトン観光等であった。宿泊を伴う滞在も多く見込まれたため、宿泊場所の整備にも注力した。
- 地域の活性化とファン・ゾーンの活性化のバランスを取るために、地域のパブをファン・ゾーンで営業できるように地元店の出店を誘致した。この誘致に関しては、地元企業に声をかけて、1日1,000人以上の客に対応できるキャパシティを持てるよう相談をし、入札を実行した。
- 出店店舗に関しては、公式パートナー製品を販売するとともに、イベント用のケータリング会社の協力のもと、複数パブをファン・ゾーン内で出店した。このケータリング会社に

は 40,000 ポンド (約 640 万円) がかった。

- 経済効果の測定方法は特に定めてはいないが、日本対南アフリカ戦があったことで、国際紙の一面でブライトンが取り上げられたことだけでも大きな PR になった。これは市がお金を払っても到底できないこと。また、この期間におけるホテル (一部の大型ホテル) の予約・利用率が 95%とその予約率も劇的に大きな数字だった。

#### <アクティビティについて>

- 期間中、ジャパンフェスティバルを行った。このフェスティバルは毎年ブライトンで行っているフェスティバルだが、RWC 開催中に時期を調整して開催した。3~4 日間開催し、同時に多文化フェスティバルも実施した。メインストリートで仮装をしたりパレードをしたりと、一般の方々が参加できるようにプログラムを構築した。
- 多文化プログラムに関しては、地元のプログラムなので当時スポンサーとして KIRIN の商品を販売しても問題ないとの判断となった (RWC の公式スポンサーは Heineken)。ただし、RWC 開催中に行うイベント等の内容を事前に RWC Limited に報告して了承を得た。

#### <交通アクセスについて>

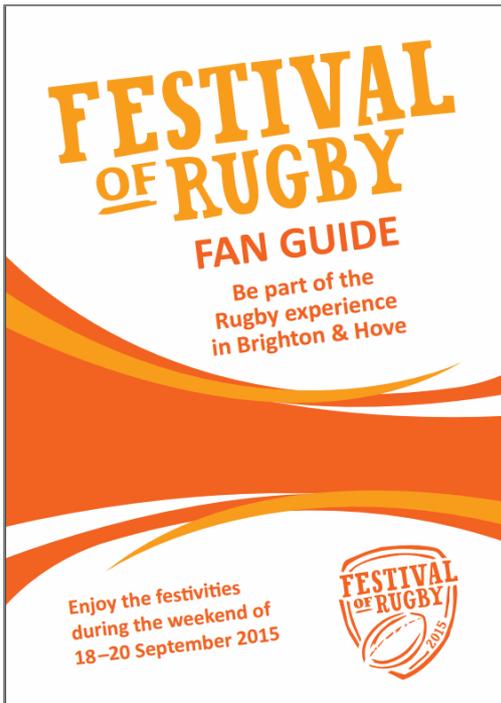
- ファン・ゾーンを開催する際には、公共交通整備は行わなかった。ブライトンは徒歩で主要市内の観光エリアを回れるようになっており、あえて徒歩でのルート開発を行った。
- 事前にブライトン市外からの訪問客がどのようなルートを通してやってくるのかを想定してファン・ゾーン開催場所を選び、関連する観光施設を整理した。
- ファン・ゾーンからスタジアムまでは 4 マイル (約 7km) と離れているため、その間の誘導はあまり考慮せず、ファン・ゾーンから徒歩で周遊するルートを検討し、歴史的に有名な地区、ショッピングモール等のスポットを通してファン・ゾーンに着くよう調整した。
- 試合開催中はファン・ゾーン~スタジアム間のバスを 1 日 100 本運行した。バスは地元の運行会社に依頼し、ブライトン市内の運行状況を見て運行した。このバス会社はサッカーの試合があるときも特別運行を実施した経験もあったので採用した。

#### <ファン・ゾーンの設置について>

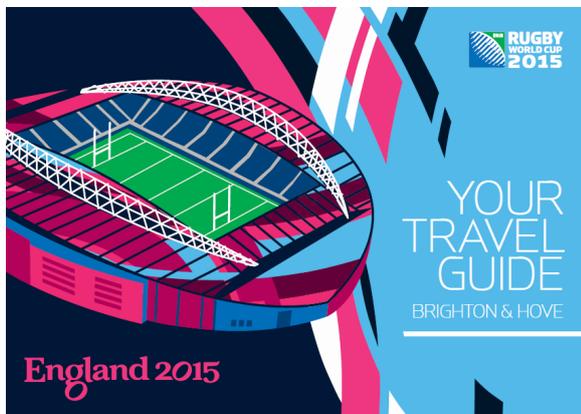
- スクリーンのレンタルや実際の設置、およびそこを警備するセキュリティの費用を考慮して開催 5 日前に設置を開始した。ファン・ゾーンは 3 日間のみだったので (9 月 18 日~20 日)、箱物を建ててから装飾を一気に行った。
- ビッグスクリーンの設置に関して市民からの苦情は出なかった、音量を小さくする取り組みのほか、スピーカーは海に向かって流すように取り組んだし、市で決められている環境ルールにのっとり厳正に設置したため、問題は特に起きなかった。さらに、住宅街から遠い点も成功点。
- ビッグスクリーンでの上映に関して、RWC Limited が指定したプログラムはすべて上映する義務があった。それ以外のプログラムを放送する際は RWC の CM を消して上映する必要があった。

■ 入手資料等：

- ブライトン市フェスティバルガイド（以下は抜粋）



- ブライトン市「YOUR TRAVEL GUIDE (ER2015 発行)」(以下は抜粋)



### 3.5.7 調査結果：RWC2015 開催都市「ロンドン市ブレント区」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <ロンドン市ブレント区概要>

- 人口：約 31.1 万人
- 面積：43.24km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 9月20日(日) 16:45～「ニュージーランド×アルゼンチン」(プールC)
- 9月27日(日) 16:45～「アイルランド×ルーマニア」(プールD)

##### <スタジアム>

- 名称：ウェンブリースタジアム
- 収容人数：90,000人



##### <ファン・ゾーン>

- 収容人数：15,000人
- 開催日数：2日間
- チケット保有者のみ入場可



##### <ファン・ゾーン開催日>

- 9月20日(日) 11:00-16:15
- 9月27日(日) 11:00-16:15

＜開催時のロンドン市ブレント区の地図＞



[地図データ引用：Google マップ]

■ 平常時、及び RWC2015 開催時のファン・ゾーン用地の様子

＜平常時のファン・ゾーン用地の様子＞



(ウェンブリースタジアムに隣接する広場・駐車場のスペース)



＜開催中のファン・ゾーン用地の様子＞



(ウェンブリースタジアムに隣接する上記スペースにチケット保有者限定で設置)

※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015 開催後に撮影した。

■ 日 時 : 2016年1月29日(月) 11時~12時

■ 場 所 : ロンドン市ブレント区役所内 会議室

■ 対応者 :

- ロンドン市ブレント区 アート・ヘリテイジ課  
ゼリッサ・ブラウン氏



(左 : ブラウン氏)

■ 議 事 :

#### <担当者について>

- ブラウン氏は芸術・ヘリテイジ課のマネージャーで、文化やスポーツ等に関わる業務を担当している。ブラウン氏が RWC2015 を担当することになったのは、「アート 2012」(美術イベント) や 2012 年ロンドンオリンピックのブレント区の責任者の実績があったから。
- ブラウン氏はブレント区における RWC の責任者。主な業務は区の RWC 関連のプロジェクトと ER2015 の連携役、RWC2015 関連事業関係者とブレント区と連携するための調整役などであった。また、リッチモンド区、ニューハム区での会議や、開催都市が参加する全国レベルの会議に代表者として参加し、ブレント区の運営の方向性を定めてきた。

#### <組織体制について>

- ロンドン市では、前回のオリンピック時と同じように各区共通の運営委員を作り、ロンドン市で共通に関わるサービスにとともに取り組んだ。ER2015 や外部委託業者も参加し、四半期に1回程度、2015年は1カ月に1回程度集まり、話し合った。
- 主なグループ共通取組項目は、①取引基準やライセンスといった規制の根本的なルール策定②コミュニケーション：本来は各開催都市が組織委員と直接行う業務をロンドン市にある3つの区(ブレント・リッチモンド・ニューハム)で共通に行うための連絡調整③ロンドン市内の交通網の整備④緊急時の連携体制構築：火事・テロ攻撃などに関わる緊急時の対応策⑤ごみ回収やリサイクル方法であった。
- ブレント区は、試合を開催したスタジアム(ウェンブリースタジアム)を所有している。

#### <ファン・ゾーンについて>

- ブレント区のファン・ゾーンは、RWC2015 開催自治体の中では珍しく、区が運営を行わなかった。ファン・ゾーンを運営しなかった主な理由は、財政的な問題であった。近年、区の予算が市から多く削られている中で、ファン・ゾーンを開催することは多大な支出があることは明確で、資金を回すことができなかった。
- 区も同意の上で、ファン・ゾーンを開催しない計画としたが、ER2015 が却下し、ホストシティは必ずファン・ゾーンを開催しなければならないというホストシティアグリーメントを守るよう指摘を受けた。しかし、ER2015 は、ブレント区の現状を把握したのち、ER2015 がウェンブリーのファン・ゾーンを運営するという異例の措置をとった。
- ファン・ゾーン開催場所に関しても、多くの課題があった。当初、区が保有している公園

を使って開催しようと考えたが、スタジアムから遠く、公園を傷つけてしまうため、断念した。そこで、ウェンブリースタジアムの駐車場で行うこととし、土地はクインティン地所が保有していたため、ER2015 がクインティンと交渉した。

- 収容人数は 10,000 人だったが、ニュージーランド戦が行われた 1 日目は入場制限を行わなければならない状態に陥った。
- ファン・ゾーンには、ステージ付きの大きなスクリーンが 1 つあった。ステージでハカやアイリッシュダンスを地元の人が演技した。ファン・ゾーン内にはブレントに関する広告は一切行わないようにした。
- ER2015 は、イベント運営会社に外注し、運営に関連するすべての責任をその会社が受け持つこととなった。
- 2 日間でファン・ゾーンを建設し、2 日間で撤去した。数店の飲食屋台のほか公式パートナーの屋台やアクティビティブースだったので、設営も撤去も簡単にできた。

#### <予算について>

- ファン・ゾーンは 2 日間開催し、2 日間で 60,000 ポンド（約 960 万円）かかった。このコストの詳細に関しては、ER2015 と外注会社のみ把握し、ブレントは把握していない。また、地域住民のイベントには 15,000 ポンド（約 240 万円）支払い、イギリス芸術会（The Arts Council of England）からは一定の融資を受けた。
- 地域ラグビーチームや地元チアリーディングのパフォーマンスは、無償で実施してもらい、区はお金を支払わなかった。
- オリンピック時はオリンピック基金団体から 700,000 ポンド（約 1 億 1,200 万円）をもらい、道路清掃やライセンス費用に充てた。RWC はそのような基金はなかったのだが、オリンピックの団体のように権利に関して厳しい制約と取引基準等を設けていた。
- ER2015 がブレントに資金面で支援したのは、ファン・ゾーン 2 日間の最低費用 30,000 ポンド（約 480 万円）、権利保護（rights protection）費用 4,000 ポンド（約 64 万円）、そしてブレント区役所の窓の装飾にかかる費用 10,000～15,000 ポンド（約 160～240 万円）であった。一方で、区が支払った費用は、スタジアムにおけるイベントの清掃・ライセンス・取引基準にかかわる費用などであった。

#### <資金難について>

- スタジアムの周りの地域は、確かに比較的開発が進んでいる地域であり、そしてスタジアムに訪れるビジターが消費をしてくれる。しかし、ブレント区の他の地域は比較的貧しい地区であり、十分な消費行動があるとはいえない。
- 仕事がない人も多く、区は国際的なスポーツイベントよりも、生活に困窮している人々に対して充実したサービスを提供するほうが大切だという認識であり、ファン・ゾーンに今回資金（予算）を使うことができなかった。

### <経済効果に関して>

- この 2 日間だけで劇的な経済効果があったとは考えにくい。今回ファン・ゾーンは運営を外注で行っているため、実質ブレントに入ってきているお金などはあまりない。統計などもとっていないので、具体的にどれくらい赤字になったのかもわからない。

### <トラブルに関して>

- 騒音や暴力といった大きな問題は起きなかったが、唯一困ったことは自動車等で道路が混雑したことである。そこで、ファン・ゾーンは午前 11 時～15 時までの開催が良いと考える。14 時にスタジアムが入場を許可すると 13 時には多くの人ファン・ゾーンに入り始める。15 時には空き始めるので、そのあたりには閉じるのがいい。大型のテーマパークが管理している人の列の管理システムのようなことを参考にしなければ、公共道路が封鎖するほど人・車でごった返してしまう。

### <ロンドン市共通の運営委員会（パン・ロンドン・スティーリング グループ）について>

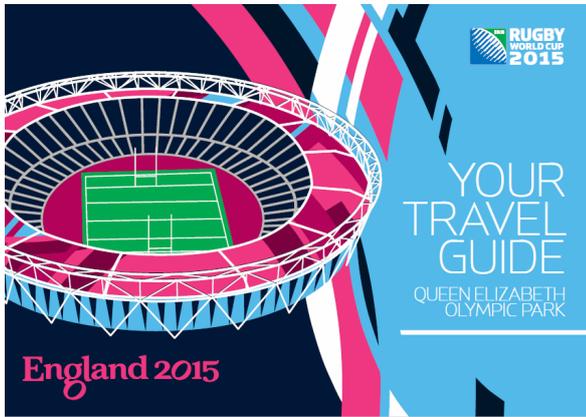
- 2013 年の設立当初はあまり考えていなかったが、設立 18 カ月後、グループ内で話し合った結果、いかにロンドン市内で RWC に関わる地域が一つとなるか考えた。
- まず、重要だったのは交通網であった。ウェンブリーパーク駅（ブレント）と、ストラットフォード駅（ニューハム）は電車につながっているため、両方で試合があるもしくは片方で試合がある時は、どのように安全にビジターを移動させるかが課題であった。
- この委員会は各区に指示を出す機関ではなく、各区がどう協力体制を築くかの話し合いの機会であった。また、ER2015 が積極的に参加したことによって、ER2015 と区が合意のうえでこの仕組みを作ることができた。

### <日本へのコメント>

- ブレントのような区では、同じ市で RWC のホストシティとなった区同士で連携するのは必然的だった。この連携がなければ、市内の交通、安全管理などは複雑かつうまくいかなかったと思う。何かしらの共通点のある場所では、こういった連携が必要であると考えている。
- コミュニケーションを多くとることが大切。ホストシティ同士、ER2015、という大きな枠組みだけでなく、区内にある関係各所での現状把握は重要である。重要な情報が後になって出てきて、そのタイミングでどう考えても準備するには時間がないことが多かった。
- 市や区は、RWC などの国際的スポーツイベントにおいて、そのようなイベント運営に関するノウハウを有し、状況に適した対応が取れる人を担当者とするべきである。区が事実上 18 カ月で準備したこのイベントで何とかなった理由は、ブラウン氏のように、このようなイベント運営の経験があり、その役職に適した人物を担当者としたからである。問題は必ず起こるので、それを落ち着いて対応することがスポーツをはじめとした大きなイベントでは必要なスキルだろう。

■ 入手資料等：

- ブレント区（ウェンブリー）「YOUR TRAVEL GUIDE（ER2015 発行）」（以下は抜粋）



### 3.5.8 調査結果：RWC2015 開催都市「ニューキャッスル市及びニューキャッスルユナイテッド」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <ニューキャッスル市概要>

- 人口：約 28 万人
- 面積：約 113km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 10月3日(土) 16:45～「南アフリカ×スコットランド」(プールB)
- 10月9日(金) 20:00～「ニュージーランド×トンガ」(プールC)
- 10月10日(土) 14:30～「サモア×スコットランド」(プールB)

##### <スタジアム>

- 名称：セントジェームスパーク
- 収容人数：52,387人



##### <ファン・ゾーン>

- 収容人数：10,000人
- 開催日数：10日間



##### <ファン・ゾーン開催日>

- 9月26日(土) 13:00-22:35
- 10月1日(木) 15:00-22:30
- 10月2日(金) 15:30-22:30
- 10月3日(土) 10:00-22:30
- 10月4日(日) 12:30-22:30
- 10月6日(火) 15:30-22:30
- 10月7日(水) 15:30-22:30
- 10月9日(金) 11:30-22:30
- 10月10日(土) 10:00-22:30
- 10月11日(日) 12:30-22:30

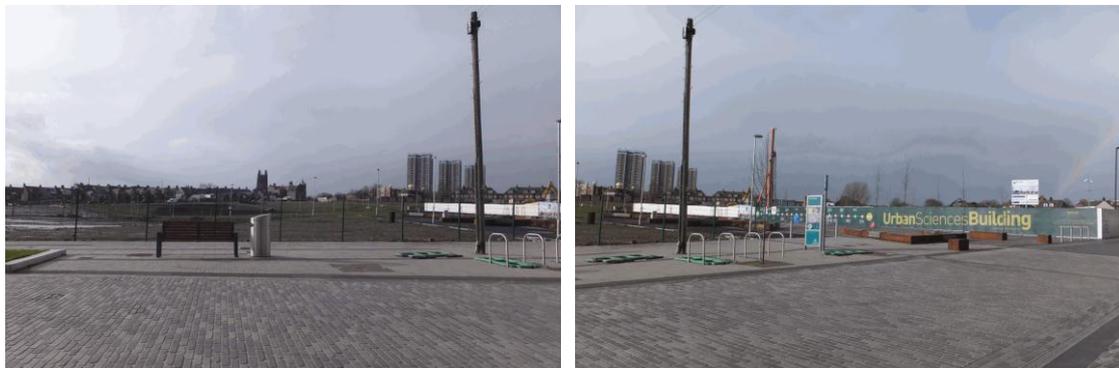
＜開催時のニューキャッスル市の地図＞



[地図データ引用：Google マップ]

■ 平常時、及びRWC2015開催時のファン・ゾーン用地の様子

＜平常時のファン・ゾーン用地の様子＞



(スタジアムから徒歩で数分の距離にある広大な空きスペース)



＜開催中のファン・ゾーン用地の様子＞



(ゲートを設置。ファン・ゾーン内には観覧車等も設置された)

※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015開催後に撮影した。

- 日 時：2016年2月1日（月）10時～14時
- 場 所：ニューキャッスル市役所  
及びニューキャッスルスタジアム



#### <ニューキャッスル市>

- ニューキャッスル市  
ビジネスマネージメント課 スティーブン・サヴェージ氏
- アシスタント キャサリン・プレストン氏

(左からプレストン氏、サヴェージ氏)

(左：ルザーフォード氏)

#### <ニューキャッスルユナイテッド>

- ニューキャッスルユナイテッド スタジアムマネージャー  
エディー・ルザーフォード氏

### ■ 議 事：

#### <担当者について>

- サヴェージ氏は、執行理事補佐で、同市の法律、権利、エンターテイメント、ギャンブル、税、駐車や公共安全に関する業務を担当している。RWCの際は、市の代表窓口、および司令塔として業務にあっていた。ファン・ゾーンの組織、運営にかかわる全ての権限を持った。また、プレストン氏はサヴェージ氏のサポートを行った。

#### <組織体制について>

- 市の体制は、マーケティング、コミュニケーション、フェスティバルやファン・ゾーンを行うイベントチームに分かれていた。
- 関係者が一体となって運営することできるように、市の担当者、警察、高速道路、空港、電車などの交通機関やER2015の関係者が参加し、市の方針を決定する会議を設けた。

#### <契約について>

- ER2015 と結んだホストシティアグリーメントの中にファン・ゾーンの開催が盛り込まれており、大きなスクリーンの設置や収容人数10,000人以上とすること、公式パートナーとの権利承諾など、多様な事項が盛り込まれていた。
- ベニューアグリーメントはスタジアム所有者が行ったが、スタジアム前の道の封鎖や、ファンをスタジアムに入れるまでの導線の検討などはスタジアム関係者と話し合った。当初、ベニューアグリーメントも市が行うことを考えていたが、サッカーの開催時期でもあり、試合開催の3日間スタジアムを市がレンタルする費用が100万～200万ポンド（約1億6千万円～3億2千万円）かかるので実現しなかった。

#### <準備期間から開催までのスケジュール>

- 2013年から諸々の話し合いを行い、体制も整えたが、実際ボランティアを雇ったり、市が

活動的になったりしたのは開催の 6 カ月前であった。外注するにしてもそれ以上長期間は費用がかかりすぎるからであった。

- 建設やレンタルに関しても、長期間は現実的ではなく、スクリーンの搬入は 1 日前にした。それでもスクリーンのレンタルに 1 日 2,000 ポンド（約 32 万円）かかった。スクリーンテストは搬入日に行ったので、今振り返るとリスクがあった。

#### <ファン・ゾーンについて>

- ER2015 が市に対して、10,000 人規模のファン・ゾーンを開催するように命じた。これは、市に何も相談せずに行い、我々はひどく驚いた。
- ファン・ゾーンの開催は 3 日間だが、試合が毎週末に行われるため、維持管理は合計 3 週間となった。その間、スクリーンのレンタル、セキュリティ等に費用がかかった。また、ファン・ゾーンの開放前後の道の封鎖、入場整備等に労力と費用がかかった。
- 天候もファン・ゾーンの運営を大きく左右する。3 日間のファン・ゾーンは天候に恵まれ平均して 10,000 人～15,000 人ものビジターが訪れた。最も混雑した日は 160,000 ポンド（約 2,560 万円）の売り上げがあった。市に入る利益は 70,000～75,000 ポンド（約 1,120～1,200 万円）で、3 日間合計 210,000 ポンド（約 3,360 万円）。初期費用で 100,000 ポンド（約 1,600 万円）かかったので差額は 110,000 ポンド（約 1,760 万円）となる。
- ファン・ゾーンでは建築未着手の土地を利用することとなり、諸々を撤去するのに 11,000 ポンド（約 176 万円）、土地をならすために 34,000 ポンド（約 544 万円）、ファン・ゾーン建築用に土地を整備するのに 40,000～50,000 ポンド（約 640～800 万円）かかった。
- ファン・ゾーンは 9 月 16 日から建築を開始し、試合開催前の 10 月 1 日もファンゾーンエリアを開放した。ファン・ゾーンの建築は市が管轄するのではなく、ファン・ゾーンの運営子会社（短期契約）によって進められ、10 月 11 日には撤去した。

#### <予算について>

- ファン・ゾーンの設置・運営に係る費用を 200,000 ポンド（約 3,200 万円）と想定し、その予算を工面しようとしたが、議会等の決定により、最終的に 100,000 ポンド（約 1,600 万円）以上の費用工面はできないこととなった。この予算のなかから、ファン・ゾーンを芝生付きのグラウンドのように建設することとなり、合計で 3 年間で 650,000 ポンド（約 1 億 400 万円）かかった。
- 当初ファン・ゾーンには 200,000 ポンド（約 3,200 万円）、町中の装飾に 150,000 ポンド（約 2,400 万円）、コマーシャルに 30,000 ポンド（約 480 万円）、交通封鎖やサイン表示など交通関係に 50,000 ポンド。最終的なコストは現在計算中だが、おおよそこの規模から変わらない。
- 今回のホストシティ全般の予算の中で一番費用がかかったのは、ファン・ゾーンであった。2 カ月間に及ぶスクリーンのレンタル代として 40,000 ポンド（約 640 万円）を支払った。
- 84,000 もの人がファン・ゾーンに訪れた。3 日間の試合日の中で 34,000 人（1 日目）、25,000 人（2 日目）、25,000 人（3 日目）がそれぞれ入り、ロンドン外のファン・ゾーンにしては

多い方であった。訪問人数はゲートのセキュリティチェック地点にて目視で計測した。

#### <想定以上の赤字を出さずに済んだ理由>

- ファン・ゾーンの開催日を絞り込んだことが大きな要因だと思う。そして開催した 3 日間において、満員だったことも挙げられる。当初は、他の開催都市で RWC の試合がある時は全てファン・ゾーンを開こうと考えていたが、その案は結局採用しなかった。
- 放送権の問題もあった。ファン・ゾーンで放映する映像は限られているが（ファン・ゾーンの開催日程を限ってしまえば）、周辺のパブ等ではどの映像も放映することは可能であった。そのため、規制があるファン・ゾーンに代わって、パブがその役割を果たすことは明確だったので、長期間のファン・ゾーンの開催は行わなかった。

#### <トラブルに関して>

- 唯一の問題がファン・ゾーン内の混雑であった。最初のゲームが終わった後、イングランド戦が行われることになっていたため、スクリーン上映したが、約 52,000 もの人が集まってきた。ファン・ゾーンには 5 万人以上は収容できないので、閉鎖をしなければならない状況に陥った。警察と連携して近くのバーなどに人を分散させゲームを観覧させた。
- ビジターがファン・ゾーンに入ってきた際の注意事項として、飲食料の持ち込みに若干の規制はあったが、基本ファミリー層に対しては持ち込みを基本許可した（サンドイッチや水といったもの）。ただし、アルコールは許可しなかった。
- ホストシティになった際にいろいろと地域住民と話し合いを行ったので、特に問題は起きなかった。

#### <第三者におけるファン・ゾーンの運営に関して>

- ファン・ゾーンは民間企業によって運営されたが、市はいくつかの条件を彼らに提示した。ファン・ゾーンには大きなテントを設置し、そこには 5,000 人収容できるように設計した。このテントは天候不順なニューキャッスルには、必要不可欠な設備だった。そしてその外側には 10,000 人を収容できるようにした。

#### <市における長期観光客滞在取り組み>

- そのような取組は、地元地域のホテルなどの宿泊施設が行っていたが、当時、主に 2 泊パックの提供が多かった。
- 市は観光地としての魅力的な場所を観光地図などでホテルに提供していた。
- ホテルは宿泊料金の値上げを行っていた。仮に 3 泊以上宿泊する際の一泊は通常の 70 ポンド（約 11,200 円）から 200 ポンド（約 32,000 円）に値上げをしていた。

#### <試合後のビジターの行動について>

- 市を訪れたのち、一部の人は違う試合を観戦しに違う都市へ行った。例えば南アフリカを例にあげると、南アフリカが土曜日に試合をカーディフで行い、次の土曜日に試合があると

すると、カーディフに2～3日滞在して、少なくとも前日（金曜）の夜までにニューキャッスルに入る。土曜に試合を観戦し、日曜や月曜に別の開催都市へ行くという旅程が考えられる。

- 試合観戦のチケットは購入時に郵便番号を提示する必要があったので、その購入者がどこからきてどのルートを通ってニューキャッスルに来るのがわかり、購入率によりホテルの部屋（ベッド数）などもある程度分かった。この方法は、2012年に行われたオリンピックの時と同じ方法である。

#### <今回の改善点>

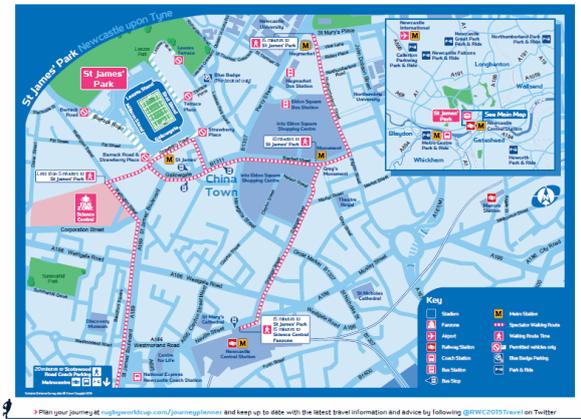
- 特になし、今回は本当に素晴らしい出来であった。予算は少々大変ではあったがそれ以外は何もなかった。市で務める人も、ボランティアも皆よくやってくれたし、町の清掃を依頼した人（契約業者）も、素晴らしい状態にしてくれた。また、人が多く通る場所は道の封鎖を行うべきである。

#### <ニューキャッスルユナイテッドについて>

- ニューキャッスルユナイテッドフットボールクラブは、スタジアムを保有し、ER2015とベニユーアグリーメントを締結した。
- ニューキャッスルユナイテッドフットボールクラブは、ホストシティのニューキャッスル市より依頼を受けて、ファン・ゾーンにおいてサッカーの体験試合を行った。
- ボックス席（VIP席）の価格設定をER2015が行ったところ、非常に高額の設定を提案され、ER2015に対し妥当な金額に設定するよう交渉することに苦労した。また、サッカーのプロリーグのシーズン中にもかかわらず週末3回もRWCでスタジアムを使用するため、RWC2015開催の3年前の2012年に、RWCの試合とサッカーリーグの試合日の調整に苦労した。

■ 入手資料等：

- ニューキャッスル市「YOUR TRAVEL GUIDE (ER2015 発行)」(以下は抜粋)



- ニューキャッスル市の開催前の準備に関する報告資料 (以下は抜粋)



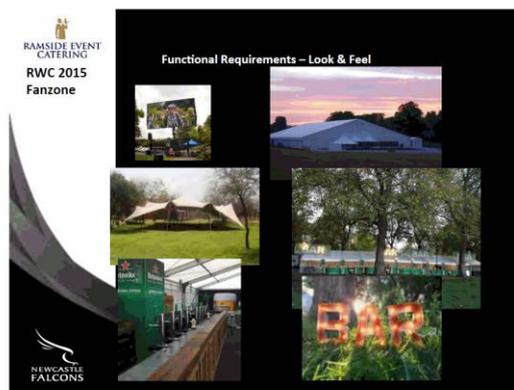
**Fanzone**

Match	Start Time	End Time	Weather	Wind	Temperature	Notes
1	15:00	17:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
2	19:00	21:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
3	15:00	17:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
4	19:00	21:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
5	15:00	17:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
6	19:00	21:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
7	15:00	17:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
8	19:00	21:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
9	15:00	17:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	
10	19:00	21:00	Partly cloudy	15 km/h	15°C	

England 2015



- ニューキャッスル市のファン・ゾーン開催報告書（以下は抜粋）



### 3.5.9 調査結果：RWC2015 開催都市「ロンドン市リッチモンド区」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <ロンドン市リッチモンド区概要>

- 人口：約 19 万人
- 面積：約 57km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 9月18日(金) 20:00～「イングランド×フィジー」(プールA)
- 9月19日(土) 20:00～「フランス×イタリア」(プールD)
- 9月26日(土) 20:00～「イングランド×ウェールズ」(プールA)
- 10月3日(土) 20:00～「イングランド×オーストラリア」(プールA)
- 10月10日(土) 16:45～「オーストラリア×ウェールズ」(プールA)
- 10月17日(土) 16:00～「南アフリカ×ウェールズ」(準々決勝)
- 10月18日(日) 16:00～「オーストラリア×スコットランド」(準々決勝)
- 10月24日(土) 16:00～「南アフリカ×ニュージーランド」(準決勝)
- 10月25日(日) 16:00～「アルゼンチン×オーストラリア」(準決勝)
- 10月31日(土) 16:00～「ニュージーランド×オーストラリア」(決勝)

##### <スタジアム>

- 名称：トゥイッケナムスタジアム
- 収容人数：82,000人



■ RWC2015 開催概要

<ファン・ゾーン>

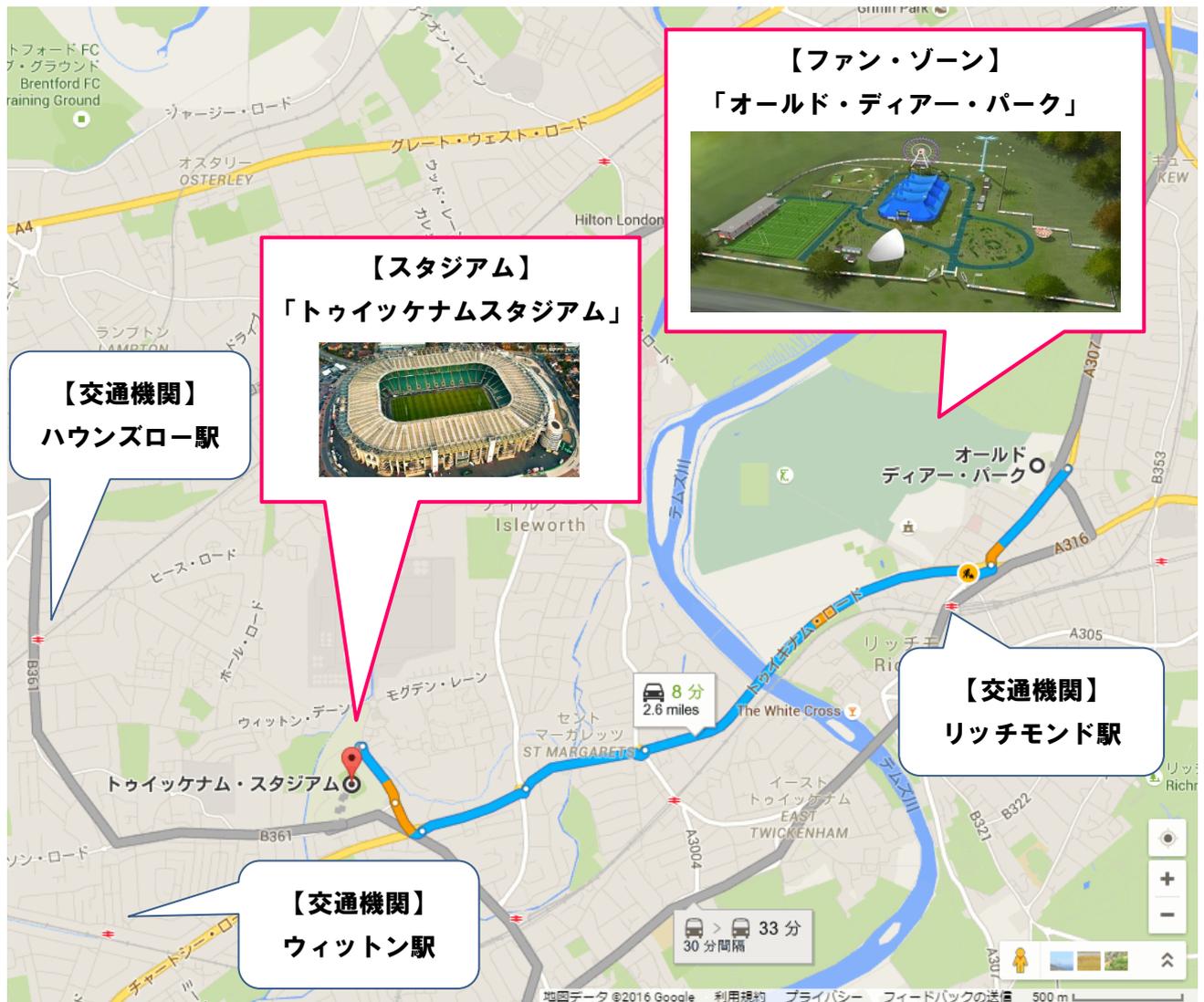
- 収容人数：10,000 人
- 開催日数：19 日間



<ファン・ゾーン開催日>

- 9月18日（金） 16:00-23:30
- 9月19日（土） 11:00-23:30
- 9月20日（日） 11:00-21:00
- 9月23日（水） 13:00-22:30
- 9月24日（木） 18:00-22:30
- 9月26日（土） 11:00-23:30
- 9月27日（日） 11:00-21:00
- 10月2日（金） 18:00-22:30
- 10月3日（土） 11:00-22:30
- 10月4日（日） 11:00-21:00
- 10月9日（金） 18:00-22:30
- 10月10日（土） 10:00-22:30
- 10月11日（日） 11:00-21:00
- 10月17日（土） 12:00-23:30
- 10月18日（日） 11:00-21:00
- 10月24日（土） 12:00-22:30
- 10月25日（日） 12:00-22:30
- 10月30日（金） 17:00-22:30
- 10月31日（土） 12:00-23:30

■ 開催時のロンドン市リッチモンド区の地図



[地図データ引用：Google マップ]

■ 平常時、及びRWC2015開催時のファン・ゾーン用地の様子

＜平常時のファン・ゾーン用地の様子＞



(スタジアムから徒歩で35分、車で8分の距離にある巨大な公園。ラグビーグラウンドもある。)



＜開催中のファン・ゾーン用地の様子＞



(グラウンド1面に加え、屋内型の巨大なファン・ゾーンが設置された)



※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015開催後に撮影した。

- 日 時 : 2016年2月2日(火) 15時~16時半
- 場 所 : ロンドン市リッチモンド区役所内 会議室
- 対応者 :
  - ロンドン市リッチモンド区 環境課課長  
イシュベル・マーレー氏



(右 : マーレー氏)

#### <担当者について>

- マーレー氏はリッチモンド区の環境課長で、区における土地や建設に関する業務を担当している。また、区が保有するスポーツに関するレジャーセンター、公園や空き地の管理に関する業務も任されている。さらに、危機管理プラン、衛生管理、墓地、芸術、図書館、文化事業等に関しても責任を持っている。RWC 時にも同じ役職で業務にあたった。
- マーレー氏はトロフィーツアーやリッチモンドが独自に行ったトライ イット (TRY IT) の担当として RWC に携わった。また、環境課のほかにコミュニケーションチームが区と ER2015 のパイプ役として携わった。

#### <組織体制について>

- ロンドン市は複数の区によって構成されており、交通に関してなどは一つの区が管轄できるような仕組みにはなっていない。そこで、RWC においてロンドン市内にある別の区がホストシティに選ばれた経緯により、ロンドン市共通の運営委員会を立ち上げ、ロンドン市で共通に取り組むべき交通や危機管理システムに関して取り組む組織を作った。この会は ER2015 が率先的に作ったため、ER2015 と綿密に連携しながら RWC までの準備をすることができた。地下鉄などの交通機関、救命救急、警察、消防団が委員会に属していた。
- ロンドン市の運営委員会に入っている、区内におけるイベントや国際スポーツイベント業務における運営の管理は区が行わなくてはならない。そのため、区には (ER2015 との連絡口である) コミュニケーションチーム、衛生および安全管理チームがあった。外注として 1 人プログラム マネージャーを雇い、区が RWC までに行わなければならない事柄を束ねるために、適切な会議を作ったり運営したりという役割を担った。
- 上記の外注を行った理由として、大きなイベントを開催する際に多くのビジターや地元住民の対応を管理するノウハウを持つ人材が必要だったからである。そのようなマネジメントスキルを持った人が司令塔となって RWC の準備を進めていく必要があった。
- トウイッケナムスタジアムはラグビーの聖地であったが、ファン・ゾーンを運営することは初めての経験であった。だからこそ、リッチモンドのファン・ゾーンは RWC2015 において最高のものにしなければならないという気持ちで挑んだ。

#### <スタジアムの契約>

- スタジアムはラグビーフットボールユニオン (RFU) と契約を結んでいた。ホストシティとしての契約は ER2015 と直接結んだが、リッチモンドはトイレ周りの整備、町中の清掃、道

路の封鎖、取引標準（一般住民からの問い合わせ・苦情対応）などを RFU と協定を結んでいた。

- RFU から ER2015 に試合の詳細な情報や依頼などがあり、ER2015 が各ホストシティにホストシティとしての業務・要求を伝えてくるので、直接各ホストシティが RFU と契約を結んでいなくても、RFU が次に何を求めるのか、それにどのようなタイミングで対応するかが重要であった。
- ER2015 とのホストシティの契約には破格の契約金がかかった。原則として、ER2015 がホストシティにお金を支払うことはなかった。一部協定を各ホストシティが ER2015 と結び、若干の資金支援を ER2015 から行うことを決めたが、その額もホストシティがホストシティとして業務をするにあたってかかる費用を賄うことは全くできなかった。また、費用はすべて区で賄い、ロンドン市からは資金面でのサポートはなかった。
- ファン・ゾーンの中にあるパブなどの屋台を総括するアンダーベリー（Underbelly）と契約を結び、現場の総括をするための資金を区が支払いながらも、ファン・ゾーンの中での売り上げ（有料の音楽コンサートのチケット代、パブの飲食代、屋台での売り上げ等）が一定金額以上になったら、区に報酬として支払う契約を結んだ。
- ファン・ゾーンの運営で一定の売上はあったものの、利益を出すことは難しかった。ファン・ゾーンを管理するために多くの支出が必要で、混雑時における整備費用等に追加費用が掛かってしまった。ファン・ゾーンの運営の際、人や車の流れを制御することがとても重要であり、混雑時の対応に費用がかかった。
- 試合を開催しない日も「フェスティバルデー」を 17 日間開催した。無料で開催し、人数確認用に事前にチケットを配り、映画鑑賞、コメディフェスティバル、音楽フェスティバル等を開催した。
- ファン・ゾーンのエリア開放は 29 日間、設置期間 7 週間という長期間開催となり、その間はファン・ゾーンの資材を撤収することはなかった。区で試合が開催される 10 日間は少なくとも公式のファン・ゾーンとして開催することが必要であり、また、開会式と決勝戦の 2 日間も公式のファン・ゾーンとして開く必要があった。一部期間（9 月 23 日～24 日）はその対戦試合に興味があったので、ER2015 に許可を得て、その期間もファン・ゾーンを開催した。
- 7 週間の間、テントや大型スクリーン、公式パートナーの施設なども常に設置してあったので、セキュリティに関して大変なお金がかかった。また、ファン・ゾーンのコンテンツとしてのパブ関連にお金がかかった。

#### <交通アクセスについて>

- ファン・ゾーンはリッチモンド駅から歩いて 5 分程の距離で、ファン・ゾーンからスタジアムは、歩いて 30 分程の距離であった。スタジアムとファン・ゾーンの間で無料のシャトルバスを運行した。その運行費用はすべて ER2015 が負担した。
- リッチモンド駅、そしてスタジアムがあるトゥイッケナム駅は、ロンドンの中心地のウォータールー駅から電車一本で来られる場所にあるが、この電車に、ファン・ゾーンのみなら

スタジアムで試合を観戦していた観客を同じ電車に乗らせ、電車を運行させるのは不可能であった。そこで、ER2015は交通マネジメントの専門家に相談し、スタジアム～ファン・ゾーン間、スタジアム～リッチモンド駅間、またはロンドン市内へと結ぶバスを運行した。

#### <ファン・ゾーンの場所に関して>

- ファン・ゾーンを行った場所は Old Deer Park (オールド ディアー パーク) で、この公園は区が保有している。駅から歩いてくることができ、様々なアトラクションやテント、スクリーンを入れても、そのゾーンの中を移動するのに苦ではない広さだったことから選択した。ただし、近隣住民にそのエリアを使う了承を得るのに6~7週間かかった。その公園は住宅街の真ん中にあったことや、そして週末の20時に試合が終わり、酔って歩いて騒ぐファンを区がどう対処するかを説得するのに大変な労力がかかった。

#### <実際の問題と住民との話し合い>

- 2015年の9月にRWCが開始されたが、住民への説明は2014年の夏あたりから開始した。
- 開催中は警察が巡回を行うことを説明したり、ファン・ゾーンにおける開催への理解をお願いしたりした。結果、リッチモンドの住民は理解をし、開催をすることができた。
- 一方で、予想できなかったこととして、トイレの問題がある。ファン・ゾーンは住宅地の真ん中にあり、周りにお店というお店もない。また、ファン・ゾーンという限られた場所でお酒を大量に飲むので、簡易トイレの設置が必要だった。最悪の場合、ビジターが住宅の庭先で用を足すこともあったので、それを避ける必要があった。一区間(コーナー)ごとに簡易トイレを設置したが、それでもなお道端で用を足す人は後を絶たなかった。

#### <予算について>

- 正確なデータは精査中だが、ファン・ゾーンに1,000,000ポンド(約1億6千万円)以上かかった(ヒアリング当時)。当初の予定では300,000~400,000ポンド(約4,800~6,400万円)くらいだと見込んでいたのだが、混雑時の管理等にお金がかかった。
- 市は、道路封鎖、街頭装飾、取引標準に関する費用の250,000ポンド(約4,000万円)を予算として確保。最終的にはもっと増加する見込み。パブに最も費用がかかり、警備等の人員手配、フェンスの設置等に費用がかかった。ファン・ゾーンの規模が大きく、周辺を囲むためや長蛇の列ができる箇所に設置するフェンスに費用がかかった。また、セキュリティ(夜間の警備)にもお金がかかった。
- ボランティアの数は正確には分からないが、ボランティアはER2015がボランティアパックを推奨していたので、そこから確保した。駅、ファン・ゾーンに行くまでの誘導、ファン・ゾーン内によるボランティアなどその数や職種は多岐にわたる。

#### <改善点について>

- イベントの日にちをもう少し減らすべきだったと思う。ファン・ゾーンのエリアを使っても、そのエリアを余らせてしまうことがあったので、その余っている場所にセキュリティを完備しなければならなかった。

#### <日本へのコメント>

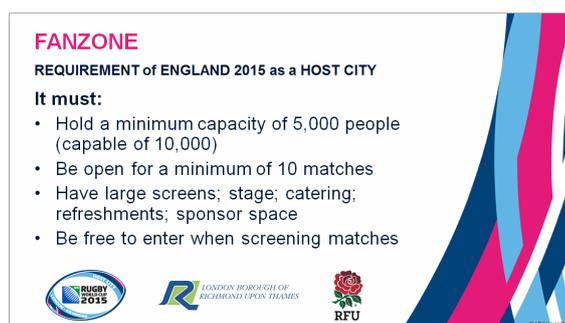
- 予算金額に応じたファン・ゾーンを開催すること、誰をターゲットにして、どう運営していくかを明らかにすること。
- ファン・ゾーンは一般的に区のイベントチームが管理・運営することになる。そのため、商品に関連する権利（プロダクションライツ）や公式パートナー商品、ホストシティとしての権利保護の責任を遵守することに留意すること。
- ファン・ゾーンはアクセスが楽であることが一番いい。そしてスタジアムとの関係性を考慮したうえで決定すること。ホストシティに決まったら時間がなく、関係各所への書類提出を行いながらの場所の選定は大変である。
- どういうところで安全管理を行えばいいのかを多くの経験や資料から学んでほしい。また、道路封鎖に関しても、地域住民の帰宅時間などに留意して行うべきである。

■ 入手資料等：

- リッチモンド区（トウイッケナム）「YOUR TRAVEL GUIDE（ER2015 発行）」（以下は抜粋）



- リッチモンド区のRWC2015 開催成果に関する報告書（以下は抜粋）



[引用：リッチモンド区提供資料]

### 3.5.10 調査結果：RWC2015 開催都市「カーディフ市」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <カーディフ市概要>

- 人口：約 34.6 万人
- 面積：6.652km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 9月19日（土）14:30～「アイルランド×カナダ」（プールD）
- 9月20日（日）14:30～「ウェールズ×ウルグアイ」（プールA）
- 9月23日（水）16:45～「オーストラリア×フィジー」（プールA）
- 10月1日（木）16:45～「ウェールズ×フィジー」（プールA）
- 10月2日（金）20:00～「ニュージーランド×ジョージア」（プールC）
- 10月11日（日）16:45～「フランス×アイルランド」（プールD）
- 10月17日（土）20:00～「ニュージーランド×フランス」（準々決勝）
- 10月18日（日）13:00～「アイルランド×アルゼンチン」（準々決勝）

##### <スタジアム>

- 名称：ミレニアム・スタジアム
- 収容人数：74,500人



##### <ファン・ゾーン>

- 収容人数：5,000人
- 開催日数：11日間

##### <ファン・ゾーン開催日>

- 9月18日（金）15:00-23:00
- 9月19日（土）10:00-23:00
- 9月20日（日）10:00-21:00
- 9月23日（水）12:00-23:00
- 9月26日（土）12:00-23:00
- 10月1日（木）12:00-23:00
- 10月2日（金）14:00-23:00
- 10月10日（土）12:00-23:00
- 10月11日（日）10:00-23:00
- 10月17日（土）12:00-23:00
- 10月18日（日）10:00-19:00

■ RWC2015 開催時のカーディフ市の地図



[地図データ引用：Google マップ]

■ 平常時、及びRWC2015開催時のファン・ゾーン用地の様子

<平常時のファン・ゾーン用地の様子>



(ミレニアム・スタジアムに隣接しているアームズパーク)

[引用：弊社撮影]



<開催中のファン・ゾーン用地の様子>



(アームズパークの芝生の上にシートを敷き、ファン・ゾーンとして利用)

[引用：カーディフ市提供資料]

※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015開催後に撮影した。

■ 日時：2016年2月3日（水）14時30分～15時30分

■ 場所：モトポイント アリーナ カーディフ

■ 対応者：

- 広告開発課 マネージャー  
ルイーズ・ハリントン氏
- ヘルス・イベント安全課マネージャー  
スチュワート・ヒギンズ氏
- イベント・ロジスティックスマネージャー  
ヤニス・キリヤコーリス氏
- シニアプロダクションマネージャー  
マシュー・フォルクナー氏
- 危機安全マネージャー  
フー・ウィリアムス氏



(打ち合わせの様子)

■ 議事：

#### <担当者について>

- ハリントン氏は広告・広報に関する業務のマネージャーで、市で行われている多様な種類のイベントのマーケティングや広告権に関する業務を担当。ヒギンズ氏はイベント危機管理に関する課に所属し、RWC では、ファン・ゾーンで行われたイベントに関する健康分野や公共安全、ライセンスに関する担当を受け持っていた。キリヤコーリス氏は健康分野や公共安全、そしてイベントのロジ関連に対して業務を行っていた。フォルクナー氏は、現在、プロダクションマネージャーとしてカーディフ市のイベントチームに所属し、インフラの建設や施設（ファン・ゾーンの）建設の監督を行っている。RWC では、ファン・ゾーンの統括者として業務を行い、市の代表として他の市の人と連絡なども行っていた。ウィリアムス氏は、現在は市の危機管理部署に所属。RWC 時は、市が出す案件を安全危機管理部署や健康部署でアクションプランとして具現化する役割を担っていた。

#### <組織体制について>

- 基本的にどこの市も全体的に体制は変わらず、ER2015 が各市それぞれの統制を取っていた。カーディフにおいては各担当者間における共同グループを作り、そのトップに文化、施設、イベント課の人物が立ち、カーディフ市全体における RWC 時の管理・運営の指揮を執っていた。ファン・ゾーンの管理運営、危機管理、高速道路の統制、清掃、権利保護、などこれらすべての業務を警察、救急隊、消防団などと連携を行い市全体でホストシティとしての役割を果たしていた。そして、それぞれ業務単位に階層が生まれ、例えばルイーズはブランディング側として、町中の装飾に関する担当を行っていた。

- カーディフ市共同運営体は、警察関係者・救命救急関係者、消防関係者を含めて全員で28人から成っていた。4カ月に1回程度の頻度で会合があり、RWCが始まる1年前には1カ月に1回程度に機会が増えた。共同運営体はRWCの始まる2年から2年半前に設立された。
- ウェールズの政府がこの連合体に予算を協力的に出してくれたため、自由に進められることが多かったが、ライセンスに伴う業務はER2015と確認作業を行わなければならなかったのが大変であった。
- カーディフらしいファン・ゾーンを作るためにウェールズ政府が前面に出てくれたが、資金のすべてをまかなうこともできないので、ER2015もバックアップしてくれた。また、ER2015が持っていた資金(各地域で売れたチケットの売り上げ料、スポンサーからの料金)の約3分の1をカーディフ市に渡し、市が各運営共同体の資金として分配していたので、もともとの金額がいくら入ってきたのかは把握できていない。

### <予算について>

- 既にカーディフはキャンプ地として選ばれていたもので、それだけでも市にとって利益が大きいものであった。しかし、ER2015がホストシティとしての開催をウェールズに提案してきた際、多額の費用がかかるためホストシティとしての務めが果たせないとER2015に話し、資金を援助できないかと頼み、資金援助を受けることとなった。
- 2009年に資金関連の話が持ち上がり、そこで大まかな合意をとり、2013年か2014年にホストシティアグリーメントを結んだ。その時に、市がホストシティとして開くことができる資金がようやく定まった状態であった。

### <ファン・ゾーンに関して>

- ホストシティアグリーメントに準拠すれば、ファン・ゾーンはホストシティで行われる試合と自国の試合の際は必ず開かなければならないという決まり事がある。カーディフ市もそのように、ミレニアム・スタジアムで行われる試合とロンドンで試合をしたウェールズ戦の上映を行い、その日をファン・ゾーンとして開催した。
- 正直なところ、どれくらいの日数を開いていいのかわからず、情報も何もないまま行っただけで、開催維持費用にコストがかかった。カーディフが開いたファン・ゾーンは、9月18日の開幕戦以降、試合が行われた11日間開催した。ファン・ゾーンの開催最終日は10月18日。
- この間のおよそ1カ月、ファン・ゾーンの開催地には施設・テント・スクリーンなどの備品が設置している状態なので、この期間の土地の借用資金を支払わなければならなかった。それに加え、日中・夜間パトロールといったセキュリティコストもあったので、当初予算よりも出費が膨らんだ。
- ER2015がアーズパークでのファン・ゾーン開催を強く希望したので、この土地で行ったが、その結果コストがかかったことは明らかだった。
- ファン・ゾーンを開催した場所は7週間借り、2週間強で建設した。ファン・ゾーン開催が11日間。5日間で撤去をした。

- 9,000人が最大集客数のファン・ゾーンで、11日間の集客人数が約158,000人であった。
- ファン・ゾーンの問題といえば、道路を長時間封鎖していたことである。試合日にはキックオフ2時間前、試合中の合計約4時間程度、カーディフ市における中心道路を通行止めにした。

#### <アクティビティについて>

- バーや飲食の屋台が一番忙しかった。市の地元ラグビーチームによるイベント、ラグビーボールを蹴ったり、スピードを測ったりするアクティビティを行った。その他公式スポンサーが出店している物も多々あった。コカ・コーラはコーラのみを売る特別な車で登場したり、DHLはスクラムマシンを体験できるようなアクティビティを準備した。マスターカードはカラオケブースを設置し、各国の国家を歌えるようにしていた。
- 出展内容は、バー2つ、7つの飲食屋台（フィッシュアンドチップス、コーヒーや紅茶のスタンド、中華料理、ホットドッグなど）。
- トロフィーツアーの一環として、トロフィーと写真が撮れる機会が4回もカーディフにはあった。
- ボランティアも積極的に参加し、旗を持って場所誘導を行ったり、チアリーダーが大衆の中で応援をしたり、ファン・ゾーンで撮影した写真をSNSに載せるなど率先的に動いていた。

#### <交通アクセスについて>

- カーディフからロンドン市内に向かう電車の本数を増やしたりするため、鉄道会社と連携を取ってビジターの移動手段の確保をした。
- 騒音などの問題は、市の騒音対策を行うグループの管轄のルールを作り、いろいろな時間ごとに測定した。その際には、市民からの文句は来なかった。

#### <経済効果について>

- 経済効果に関しては、現在市では行っていないが、近隣のホテルやショッピングモールの事業者が行った試算額が350,000,000ポンド（約560億円）。これは、ファン・ゾーンを行ったカーディフ中心地周辺の統計ではないか。前年比と比べ、ショッピングセンターの商業施設は17%、ホテルなどが25%増加。

#### <観光の取組みについて>

- RWCにおける観光の取組みは主に3種類で、まずは地域情報の追加を行った。ビジターがカーディフにで行うチケットを購入したら、カーディフの地域情報がわかるという構図。そこに市は独自に地方の魅力的な場所や地域資源を何か所か冊子にまとめて配布した。
- 実は、観光名所インフォメーションセンターをファン・ゾーンに入れたかった。しかし、それはファン・ゾーンガイドラインで厳しく禁止されていたので、簡易的な道案内程度で行った。しかし、リソースが足りなく充実としたものが行えなかった。

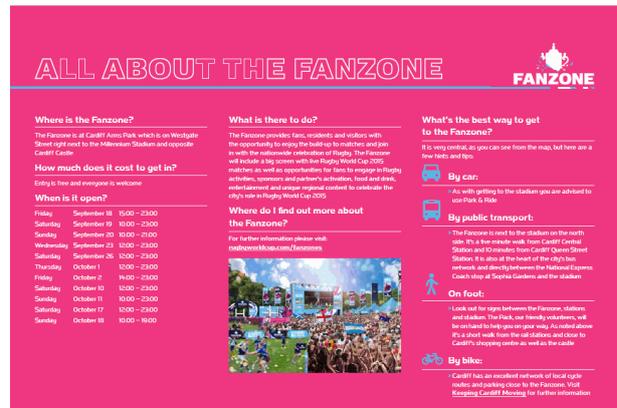
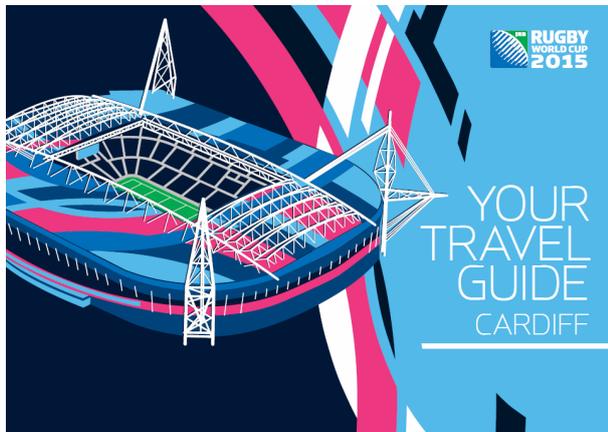
- さらに、パディントン駅にカーディフ誘致の垂れ幕を出し、カーディフへの入国を狙った。他の市との連携は行わなかったが、月に1回全ホストシティが集まり会議を行い、状況報告会を行った。

#### <日本へのコメント>

- 取組を早め早めに始めること。RWCの準備において、早いことに越したことはない。
- 適切な場所に適切な人材を配置すること。カーディフは1999年にラグビーワールドカップ、サッカーの世界カップを行った経緯があったからこそ、短期間でも大きな問題を起こすことなく終えることができた。
- 住民に早期に知らせることが出来なかったことが次回もしホストシティとして参加できるのならば改善していきたい。しかし、その短い中でも公共交通アクセスやセキュリティに関して万全の準備ができたのは、カーディフが持っている過去の経験を応用できたからだと思う。

■ 入手資料等：

- カーディフ市「YOUR TRAVEL GUIDE (ER2015 発行)」(以下は抜粋)



### 3.5.11 調査結果：RWC2015 開催都市「ロンドン市ニューハム区」

#### ■ RWC2015 開催概要

##### <ロンドン市ニューハム区概要>

- 人口：約 31 万人
- 面積：約 36km<sup>2</sup>

##### <試合開催>

- 9月23日（水）20:00～「フランス×ルーマニア」（プールD）
- 9月24日（木）20:00～「ニュージーランド×ナミビア」（プールC）
- 10月4日（日）16:45～「アイルランド×イタリア」（プールD）
- 10月7日（水）16:45～「南アフリカ×アメリカ」（プールB）
- 10月30日（金）20:00～「南アフリカ×アルゼンチン」（3位決定戦）

##### <スタジアム>

- 名称：オリンピックスタジアム
- 収容人数：54,000人



##### <ファン・ゾーン>

- 収容人数：10,000人
- 開催日数：（計画時）15日間、（実際）9日間



[引用：Newham Recorder HP]

##### <ファン・ゾーン開催日>

- 9月23日（水）13:00-19:00 ※注1
- 9月24日（木）16:00-19:00 ※注1
- 9月26日（土）12:00-23:00
- 9月27日（日）11:30-20:00
- 10月3日（土）12:00-23:00
- 10月4日（日）12:00-15:45 ※注1
- 10月7日（水）12:00-15:45 ※注1
- 10月10日（土）12:00-23:00
- 10月11日（日）11:00-20:00
- 10月17日（土）13:00-23:00
- 10月18日（日）11:00-20:00
- 10月24日（土）13:00-20:00
- 10月25日（日）13:00-20:00
- 10月30日（金）16:00-19:00 ※注1
- 10月31日（土）13:00-23:00

※注1：チケット保有者のみ入場可

※注2：10月17日（土）～10月31日（土）の6日間は開催中止した

■ RWC2015 開催時のロンドン市ニューハム区の地図



[地図データ引用 : Google マップ]

■ 平常時、及び RWC2015 開催時のファン・ゾーン用地の様子

<平常時のファン・ゾーン用地の様子>



(スタジアム近くの駐車スペース)



<開催中のファン・ゾーン用地の様子>



[引用 : Newham Recorder HP]

※平常時のファン・ゾーンの様子は、RWC2015 開催後に撮影した。

■ 日 時：2016年2月4日（木）10時～11時半

■ 場 所：ロンドン市ニューハム区 会議室

■ 対応者：

- コミュニケーション課 課長代理  
スー・メイナー氏
- コミュニケーション課 イベント管理  
ジョアンナ・ロルフィー



(打ち合わせの様子)

■ 議 事：

#### <担当者について>

- メイナー氏は、ロンドン・ニューハム区イベント課の課長。また区と「ロンドン・レガシー開発公社 (London Legacy Development Corporation)」(以下 LLDC) が実施するイベントの責任者である。LLDC はスタジアム (この場合、クイーンエリザベスオリンピックスタジアムを指す) で行う大きなイベントが適切に運営され、利益を得られるかを管理し、また ER2015 といった国際イベントをスタジアムで行う際に彼らに助言などを行っている。一種の諮問機関 (部署) として運営しており、具体的にはニューハムが、スタジアムの使用許可を与えたり、チケット販売の価格やそれを販売する人の確認、スタジアムにかかわるロジスティクス (ロジ/物流・その機能を発揮するための支援)、例えばスタジアムやファン・ゾーンに供給する地域企業の流れ、ニューハムにおける経済利益の把握などを行っている。
- ロルフィー氏は ER2015 の母体のシティーデリバリーコーディネーターとして 2015 年の 1 月～11 月まで出向の形で務めた。ニューハム、リッチモンド、ブレントというロンドンの特別区中でも RWC でホストシティアグリーメントを結んだ区で、ファン・ゾーンや権利保護、街頭装飾、交通管理プランに関わる物流管轄の業務に関わった。

#### <組織体系について>

- ロンドン市共通の運営委員会をニューハム、リッチモンド、ブレントで作成し、その 3 区で連携してロンドン市で行われる RWC2015 の組織運営を行った。主に交通、警察、入札などの競争にかかわる価格基準、3 区における住民への連絡、イベントにかかわる物流、イベントの企画、警備体制への管理を行っており、それらに関わるスタッフは LS185 という公社が雇用した。ニューハム区では、ファン・ゾーンとスタジアムに関わるすべての責任を LS185 が行った。LS185 は、ニューハム区と LLDC が共同で設立した会社だが、それぞれの組織からは独立して存在する会社である。
- LS185 はニューハムにおいて 5 日の試合日と、それにとまなうファン・ゾーンの運営の責任を持った。ラウドサウンドという会社に外部委託し、併せてファン・ゾーンのリスク管理、現場でのイベント等の計画を策定した。

### <ファン・ゾーンについて>

- ファン・ゾーンで実施するイベントの内容はニューハム区が計画し、ファン・ゾーンにおける運営をLS185が担当した。スタジアムはニューハムとLLDCの保有物で、スタジアムに関する連絡先はLS185、またLS185は独自のケータリングと警備会社を保有。
- スタジアムに隣接しているサウスパークラウンでファン・ゾーンを開催した。その理由はファン・ゾーンから試合会場へのロケーションが最適であり行きやすいことなどである。
- 試合を開催する日は、当初、制限をかけ、試合観戦チケット保有者のみファン・ゾーンへ入場することができた。しかし、想定よりも人が集まらなかったため、途中から試合開催日も誰でも入れるようにした。
- 試合がない日（ダークデイ）にもファン・ゾーンを開催したが、上手く行かなかった。スタジアムが近いので、試合が行われていない場合、RWCの雰囲気とうまく再現することができなかった。ファン・ゾーンにあてた費用（予算）を効果的に活用できなかったとはいえない。
- 試合開催時にファン・ゾーンの入場を制限した理由は、スタジアムの最大収容人数が55,000人と多く、そのままファン・ゾーンに入った場合、10,000人の最大収容客数のファン・ゾーンには入りきらず、管理方法も想像がつかなかったため。LLDCやLS185の安全管理部と協議し、仮に（55,000+10,000）の人数分が一気に駅に向かうなどした場合、安全管理などの視点から管理が十分にできない。そのため、ファン・ゾーンの入場にはチケットも持っている人のみという規制を張り、安全面を最優先に考えて入場規制を図った。しかし、実際にファン・ゾーンを開催してみたら、思ったほど人気が出ず、人が入らなかった。
- 10月7日（水）に試合を開催した後、10月30日（金）にも試合を予定していたが、それまで3週間以上期間があり、その間のセキュリティやレンタル代金等のコストが大きいため、ER2015と協議の上、10月11日（日）を最後の開催とし、それ以降はファン・ゾーンを中止した。

### <アクティビティについて>

- ファン・ゾーンの開催中の屋台などは、LS185がケータリング会社に外注して、LS185およびER2015が提示する販売価格・食の安全基準・ライセンスなどの基準をすべてクリアして提供をした。このケータリング会社はスタジアムで販売する飲食物とファン・ゾーンの飲食物両方の販売を行った。
- 店舗数は8～10店舗あり、ハイネケンのバーやバンパーカーなどのアクティビティがあった。試合観戦の前に、試合の雰囲気を楽しむために立ち寄る人が多く、バンドを見たり、スクリーンに映し出される映像を楽しんでいた。シャンパンバーや5つの異なるケータリング屋台が出店された。
- ファン・ゾーン開催中は、ER2015が公式に認めた試合だけでなく、過去の名試合の内容を放送することが認められた。また、一般の人に理解してもらえるように、ラグビーの試合説明やスクラムなどの技の説明と言ったスペシャルプログラムを上映できた（ダークデイは不可能）。

- エンターテインメントパッケージとして、ファン・ゾーンでは小さな芝生エリアでラグビーに関する有名人を招待しインタビュー形式で対談を行った。参加者にゲームの説明など、実際に有名人に質問できるコーナーを作った。ただし、この有名人招致のために、ファン・ゾーンに充てられた予算の大半を利用した。
- ファン・ゾーン建築に4日間、解体に2日間かかった。
- 地域住民からの問題は特になく、騒音などの問題に関しては、19時以降はファン・ゾーンから流れる音声・音楽の音量を落とすなどの工夫を行っていた。
- 区として取り組みを決める際に、事前に話し合いや連携体制に関して議論を行っていたので、交通では問題は特になかった。道路封鎖などに関しても、地元の道路責任者や課の理解があり、つつがなく行えた。

#### <経済効果について>

- 経済効果などの効果測定は、ファン・ゾーン外にあるレストランやパブで独自（事業者）で行っているだろう。市は直接関与していないので、把握していない。

#### <予算について>

- 予算に関してはLS185がすべて管理をしており、細かいことは伝えられないが、ファン・ゾーンでの経済効果はニューハムの場合ほとんど見込まれていない。区としての方針としてはファン・ゾーンでの収益より、来てくれたビジターが良い経験をしてくれるほうが重要。

#### <日本へのコメント>

- ファン・ゾーンの適切な開始時間を考えること。19時キックオフの試合のためにファン・ゾーンを平日に15時過ぎから開けるのは早すぎる。週末ならいいかもしれない。可能ならば、ほかのホストシティと話し合いをし、同じ日にファン・ゾーンを開催してみて、同条件でそれぞれの場所でどう結果が異なるかを話してみて方針を決めるのもいいと思う。
- 市がファン・ゾーンによって大幅な損失を生まないように、イベント管理などに詳しい人を導入すべき。LS185にはファン・ゾーンを開催するにあたって適切な人がいなかった。
- 状況に応じて、ファン・ゾーンの期間を短くすること、そしてこの案がいのではないかという他の市の例を参考し自分たちのまちに役立てるべきである。

■ 入手資料等：

- ・ ニューハム区「YOUR TRAVEL GUIDE (ER2015 発行)」(以下は抜粋)



- ・ ニューハム区のRWC2015開催成果に関する報告書(以下は抜粋)



City Dressing - Newham



Spend Sheet															
Transport															
Fanzone: Queen Elizabeth Olympic Park															
Attendance each day															
Sept	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	25th	26th	27th	28th	29th	30th		
			7500	10924		7500			7800	1500					
Oct	1st	2nd	3rd	4th	5th	6th	7th	8th	9th	10th	11th	12th	13th	14th	15th
			7500	15500						1500	1700				
16th	17th	18th	19th	20th	21st	22nd	23rd	24th	25th	26th	27th	28th	29th	30th	31st
Costs															
Confidential, but overall the fanzone created a substantial financial loss.															
Income															
Sponsors and partners who were present															
Mastercard, DHL, Coca Cola, Canterbury, Sportfolio (not all sponsors / partners activated every live Fanzone day)															

(ファン・ゾーンを開催した9日間の来場者数が掲載されている)

[引用：ニューハム区提供資料]

**3.6 RWC2019に関する調査：**

**RWC2019 開催自治体等へのヒアリング調査**

## 3.6 RWC2019 開催自治体等へのヒアリング調査

### 3.6.1 調査概要

- **目的**：RWC2019 開催自治体の現状や RWC2015 調査に関する要望を把握すること。
- **方法**：ヒアリング調査（E-mail、電話等）
- **対象者**：
  - ヒアリング依頼：RWC2019 を開催する 12 会場、18 自治体の担当者
  - ヒアリング実施：上記のうち、回答が得られなかった神戸市を除く 11 会場、17 自治体
- **期間**：
  - ヒアリング依頼：2015 年 10 月 30 日（金）～11 月 6 日（金）
  - ヒアリング実施：2015 年 12 月 11 日（金）～2016 年 1 月 13 日（水）

図表 3-7-1. RWC2019 の開催都市一覧

No	開催都市	試合開催会場
1	札幌市	札幌ドーム
2	岩手県・釜石市 ※	釜石鶴住居復興スタジアム（仮称）
3	埼玉県・熊谷市 ※	熊谷ラグビー場
4	東京都	東京スタジアム
5	神奈川県・横浜市 ※	横浜国際総合競技場
6	静岡県	小笠山総合運動公園エコパスタジアム
7	愛知県・豊田市 ※	豊田スタジアム
8	大阪府・東大阪市 ※	東大阪市花園ラグビー場
9	神戸市	神戸市御崎公園球技場
10	福岡県・福岡市 ※	東平尾公園博多の森球技場
11	熊本県・熊本市 ※	熊本県民総合運動公園陸上競技場
12	大分県	大分スポーツ公園総合競技場

※共同開催

### 3.6.2 調査結果のまとめ

調査結果を以下のとおり整理した。

No	項目	回答
1	ファン・ゾーンの設置・運営に関して知りたい項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収容人数、設置場所、機能、規模、パブリックビューイング用スクリーンの大きさ、イベント用舞台装置の有無、開催期間・時間等。</li> <li>• 設置場所や開催期間の設定理由。</li> <li>• 設置から撤去までのスケジュール。</li> <li>• 予算、資金調達方法及びスポンサー企業との関係。</li> <li>• ファン・ゾーンの運営主体。</li> <li>• ファン・ゾーンで開催したイベントの内容。</li> <li>• 開催都市の文化、観光、食、産業等をPRする取組の有無。</li> <li>• ファン・ゾーンのセキュリティ体制や騒音対策。</li> <li>• スタッフやボランティアの体制。</li> </ul>
2	ファン・ゾーンで力を入れた機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「パブリックビューイング」、「飲食」、「物販」をあげる自治体が多かった。</li> <li>• 開催都市の特色を出すことに関心が高い自治体が多く、地元の特産品や文化・芸術、観光情報の紹介や提供を希望する自治体が多かった。</li> <li>• 岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、横浜市は「ラグビー体験」にも力を入れたいと回答した。</li> </ul>
3	ファン・ゾーンの設置場所の想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 回答があった11会場のうち、6会場は現時点では「未定」と回答した。また、想定があった5会場のうち、4会場については、具体的な公園、広場を候補として回答した。</li> <li>• ただし、ファン・ゾーンのガイドラインがJR2019から発表されていないため、いずれも現時点の仮の想定段階であった。</li> </ul>
4	ファン・ゾーンの開催期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 回答があった11会場のうち、7会場は現時点では「未定」と回答した。また、想定があった4会場においては、「試合開催日もしくはその前後」、「試合開催日及び他の会場での試合開催日」、「RWC2019開催期間中」の回答であった。</li> </ul>

## 4. 調査結果のまとめ

3.1～3.6の調査結果より、RWCの開催を通じた地域活性化の取組とその効果等について、以下のとおり整理した。

### ① 過去のRWCで開催されたファン・ゾーンの概要

RWC2011とRWC2015で開催されたファン・ゾーンの概要を比較すると下表のとおりであった。

項目	RWC2011 ニュージーランド大会	RWC2015 イングランド大会
ファン・ゾーンの設置数や規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>オークランド市に最大のファン・ゾーン（収容人数1万人）を設置。ウェリントン市に3,000人収容。</li> <li>他にも、ハミルトン市、ネルソン市、ダニーデン市で開催が確認されている。</li> <li>一方で、予算の都合でファン・ゾーンの設置を断念した自治体も複数あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラグビー市を含め、全ての開催都市でファン・ゾーンを設置。合計15箇所。</li> <li>試合開催がなかったラグビー市を除いた他の開催では、ER2015により5,000人以上を最低の基準として設定され、基準を下回るファン・ゾーン計画には修正の指示があった。</li> </ul>
ファン・ゾーンの開催期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハミルトン市では、試合開催日の3日間とその前後を含めて、6日間開催。他の開催都市は詳細不明であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催期間は最短で2日間～最大19日間であり、開催都市により異なった。</li> <li>公式のファン・ゾーン開催期間に加え、ファン・ゾーン用地を利用して非公式のイベントを開催する自治体もあった。</li> </ul>
ファン・ゾーンの設置場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催都市が保有する公園や海岸等の用地や、試合を開催するスタジアムの隣接スペース、商業用地の隣接スペース等に設置された。</li> </ul>
ファン・ゾーンの形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にはファン・ゾーンへの入場・退場をゲート等で管理し、セキュリティチェックを行う体制であった。</li> <li>天候を懸念して屋内型を選択する開催都市と屋外型を選択する開催都市があった。</li> </ul>

ファン・ゾーンの機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラファルガースクエアに設置されたファン・ゾーンを除き、全てのファン・ゾーンにはパブリックビューイング用のスクリーンが設置され、RWC2015 のライブ中継が行われた。</li> <li>全てのファン・ゾーンで飲食物の提供、RWC2015 公式グッズ等の物販が行われた。</li> </ul>
------------	--	---

## ② 過去の RWC で開催されたファン・ゾーンの計画・予算・体制等

RWC2011 と RWC2015 で開催されたファン・ゾーンの計画・予算・体制等を比較すると下表のとおりであった。

項目	RWC2011 ニュージーランド大会	RWC2015 イングランド大会
ファン・ゾーンの計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催自治体の RWC2015 関連の予算の状況や、スタジアム、主要駅、中心街等の地域特性に応じ、いくつかファン・ゾーンの設置の方針がわかれた。</li> <li>ファン・ゾーンの設置・運営のための予算が少額の開催自治体では、ファン・ゾーンの設置・運営を行わず、ER2015 が代わりに行ったケース（ロンドン市ブレント区）や、開催都市が所有する公園、海岸等の用地への設置をしたケースがみられた。</li> <li>一方で、ファン・ゾーンと主要駅、開催都市の中心地、商業施設、スタジアム等の間の導線設計を重視してファン・ゾーンの設置場所を決定したケースもみられた。</li> </ul>

ファン・ゾーンの予算	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファン・ゾーンの予算としては、用地の借用費、ビッグスクリーンのレンタル費、セキュリティスタッフの費用が大きな割合を占めた。</li> <li>開催都市が所有する用地にファン・ゾーンを設置した開催自治体は、比較的安価にファン・ゾーンを運営することができた。</li> <li>ビッグスクリーンはファン・ゾーンの開催前後の日数を含めてレンタル費用がかかり、かつ設置期間中は24時間体制で警備スタッフを配置する必要があり、開催都市にとって悩みの種であった。</li> </ul>
ファン・ゾーンの体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント関連の管理スタッフに加え、セキュリティスタッフやボランティアでファン・ゾーンが運営された。</li> <li>国際的なスポーツイベントの専門家を期間雇用する開催自治体があった。また、セキュリティに関しては外部の専門会社へ委託していた。</li> </ul>

### ③ 過去のRWCで開催されたファン・ゾーンの効果・課題

項目	RWC2011 ニュージーランド大会	RWC2015 イングランド大会
ファン・ゾーンの効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファン・ゾーン内での飲食や物販について、開催都市とRWC Limitedの間で取り決められた割合（20%前後）に応じた直接的な収入が入る。</li> <li>RWC ビジターの約4割がファン・ゾーンを訪れるため、ファン・ゾーンと主要駅、開催都市の中心地、商業施設、スタジアム等の導線を利用した開催自治体では、周辺地域に集客による効果がみられた。</li> </ul>

<p>ファン・ゾーンの課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 詳細不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 開催試合の間隔が空いた開催自治体においては、ファン・ゾーンを開催しない間も用地のレンタル料、ビッグスクリーンのレンタル料やセキュリティ費用がかかるため、ファン・ゾーンの開催日を設定することに非常に悩んでいた。</li> <li>• 試合開催日とそれ以外の日、平日と週末、及び天候が良い日と悪い日、及び開催都市の地域特性に応じ、ファン・ゾーンへの集客に差があった。試合開催がない日や、平日及び地方都市で周辺地域からの集客がそれほど見込めない場合、地域の特色を活かしたイベントの開催により積極的な集客を図るケースや、割り切って集客が難しい期間の開催を断念するケースにわかれていた。</li> </ul>
-------------------	--	--

## 5. 調査結果の考察

調査結果より、RWC2019において、ファン・ゾーンの整備を中心に、開催都市が訪日外国人を含めた有効なビジターの受入体制を構築し、RWCを通じて効果的な地域活性化を実現するためには、以下の3点が重要であることが考えられる。

### ① 開催都市の状況に応じ、ファン・ゾーンの設置目的を明確化する。

RWC2011ではオークランド市で1万人規模のファン・ゾーンが開催されたものの、他の開催都市では規模が小さいファン・ゾーンを開催するか、もしくは開催自体をしない自治体があった。一方で、RWC2015では全ての開催都市でファン・ゾーンが開催され、一部の例外を除き、5,000人以上の収容人数で設置され、RWCを通じた地域活性化において重要な手段として活用されていた。

過去のRWCで設置・運営されたファン・ゾーンについては、スタジアムの周辺に設置し、スタジアム周辺の盛り上げに寄与することを意図する事例もあれば、ファン・ゾーンと主要駅、開催都市の中心地、商業施設やスタジアムとの導線設計を重視し、ファン・ゾーンへの集客を開催都市の観光、文化・歴史体験、芸術体験や消費等に役立てている事例もあった。また、公式のファン・ゾーンの開催期間に加え、ファン・ゾーンの用地を利用して非公式のイベントを開催し、地域の活性化に積極的に役立てている事例もあった。

ファン・ゾーンの効果としては、ファン・ゾーン内の飲食や物販等による直接的な消費、周辺の施設等への集客による経済効果だけではなく、ファン・ゾーンがあることによるスタジアムや周辺地域の盛り上がり、ファン・ゾーンを活用した児童への教育機会の提供や、ファン・ゾーンを中心とした国際交流の機会の提供等も期待される。RWC2019開催都市の状況に応じ、まず、ファン・ゾーンの整備により実現したい効果を検討し、ファン・ゾーンの設置目的を明確化することが重要であると考えられる。

なお、それにとどまらず、周辺地域も含めた効率的な情報発信や景観の向上とあわせて、地域資源をつなぎあわせたストーリーづくりに取り組むことにより、試合観戦やファン・ゾーン等をはじめとする大会の集客を周辺地域への周遊につなげ、さらなる地域活性化を図ることも有効な手法のひとつと考えられる。

### ② ファン・ゾーンの設置・運営に関わる地域特性を整理し、制約条件と有効なリソースを把握する。

ファン・ゾーンは、設定されるガイドラインによるが、一定の人数が一カ所に集まれるよう、一定の収容人数が必要となるため、開催都市によっては、設置が可能な場所が限られることがある。また、開催都市によっては、ファン・ゾーンの設置・運営にかけられる費用が限られる場合もある。RWC2011や2015においても、開催都市によっては、主要駅とスタジアムの近くに適した用地があったり、商業施設に隣接した場所に適した用地があったりする例もあれば、スタジアムから遠く離れていたりと様々であった。

また、ファン・ゾーンの集客や開催に必要な費用については、開催される試合のチームや日程により大きく左右されることがわかった。具体的には、人気や実力のあるチームの試合を開催する場

合、集客がしやすい。また、開催する試合の間隔が空いた場合、その間にかかる費用が大きくなることが懸念される。

ファン・ゾーンの設置・運営を計画する際は、ファン・ゾーンの設置目的を明確化したうえで、ファン・ゾーンの設置・運営に関わる地域特性を整理し、予算、場所、施設、日程等に関して制約となる条件と有効なリソースを整理し、適切に把握することが重要だと考えられる。

### **③ 各自治体の地域特性を踏まえて柔軟に対応する。**

現地ヒアリング等により過去の RWC 開催都市が工夫して取り組んだ方法や取組の背景について情報を把握した結果、前述のとおり、RWC 組織委員会の定めるガイドラインと開催自治体の地域特性を踏まえた制約条件や有効なリソースとを総合的に勘案し、各自治体において創意工夫を行いながらファン・ゾーンの設置・運営に取り組んだことが分かった。また、組織委員会がガイドラインという形で一定のルールを示すものの、各自治体が抱える課題については、組織委員会と自治体が相互に意見交換や調整等を行い、柔軟に対応してもらったという意見もみられた。

このように、過去の RWC の取組事例を参考としながら、各開催都市と RWC 組織委員会が意思疎通を行い、地域の特性を踏まえて柔軟に対応しつつ、RWC という大規模な国際スポーツ大会の機会を地域活性化につなげていくことが重要であると考えられる。

## 6. 今後の検討課題

また、RWC2019 を通じた地域活性化の効果的な取組が進められるよう、今回の調査・研究では十分に深めることができなかった以下のような事項に関し、今後、更に調査・研究を深めていくことが期待される。

### **① RWC2019 に関するベースキャンプの誘致を通じた地域活性化に関する調査・研究**

RWC においては、試合の開催だけではなく、試合に先立って RWC 参加国・地域が自主的に開催するベースキャンプ（事前キャンプ）も地域活性化に期待されるプログラムである。本調査研究においては、一部のベースキャンプ地の現地視察を行ったものの、調査研究の目的や対象に設定していなかったため、今後、更なる調査研究が進められることが期待される。

### **② スタジアムやファン・ゾーン等の RWC2019 開催に関するセキュリティ体制に関する調査・研究**

近年、多数の人が集まる場所や、世界的に注目を集めるイベントにおいて、テロや暴動等が発生している。RWC は世界で開催されるスポーツイベントの中でも 3 番目に大きく、世界的に注目を集めるイベントであるため、セキュリティに関する重要性は大きい。今後、調査研究が行われ、適切なセキュリティ体制が確立されることが望まれる。

### **③ RWC2019 を契機としたインバウンドの誘客及び地方への周遊に関する調査研究**

RWC は訪日外国人を呼び込む経緯となるとともに、開催期間が長期に渡るため、複数の地域を周遊した滞在も期待される。RWC2015 では過去大会の RWC 開催都市では開催都市間の連携が積極的に行われなかった一方で、RWC2011 では政府機関が地域横断的な取組を行い、RWC2011 開催を通じた訪日外国人の集客を積極的に行っていた。RWC2019 においても、国内の RWC2019 開催都市にはそれぞれの魅力があり、またそれらの都市の周辺にも魅力的な都市が多数あるため、RWC2019 を通じた地域活性化の効果を大きくするための方法について、調査・研究が望まれる。

## 付録

### ① RWC2011に関する文献一覧

No	文献名	内容
1	The Stadium of Four Million	ニュージーランド政府が発行したRWC2011の公式開催報告書
2	New Zealand's 2011 Rugby World Cup:A Tourism Perspective	ニュージーランド政府が発行したRWC2011の観客動員見込
3	Priliminary Forecasts of International Visitor Activity in Zew Zealand during Rugby World CUP.	ニュージーランド政府が発行したRWC2011の観客動員見込
4	RWC WORLD CUP EVALUATION REPORT	オークランド市が大会後に公表したRWC2011の成果報告書
5	Economic Impact Report RWC2011 Wellington Region	ウェリントン市が大会後に公表したRWC2011の成果報告書（経済効果について）
6	Hamilton Council Report	ハミルトン市が大会後に公表したRWC2011の成果に関する報告書
7	Hamilton Rugby World Cup Economic Snapshot	ハミルトン市が大会後に公表したRWC2011の経済効果の概要
8	NELSON TASMAN REGIONAL ECONOMIC IMPACT ASSESSMENT RUGBY WORLD CUP 2011	ネルソン市が大会後に公表したRWC2011の成果報告書（経済効果について）
9	THE NELSON RUGBY FESTIVAL GAME ON	ネルソン市でRWC2011の際に実施されるフェスティバルのガイドブック

## ② RWC2015 に関する文献一覧

No	文献名	内容
1	RWC2015_Match Schedule	RWC2015 の試合スケジュール
2	RWC2015 Fanzone Guidelines	RWC2015 のファン・ゾーンのガイドライン
3	Fanzone Location Map	RWC2015 のファン・ゾーンの設置全体図
4	Festival of Rugby Guidelines	RWC2015 のフェスティバルプログラムのガイドライン
5	Rugby World Cup Trophy Tour Map	RWC2015 で開催されるトロフィーツアーの地図
6	EY Rugby World Cup Final Report	RWC2015 の開催報告書（見込値）
7	ER2015_Brighton_Venue_Travel_Guide_V1	ブライトン市のファン・ゾーン等に関するガイド資料
8	ER2015_Cardiff_Venue_Travel_Guide_V2	カーディフ市のファン・ゾーン等に関するガイド資料
9	ER2015_Gloucester_Venue_Travel_Guide_V2	グロスター市のファン・ゾーン等に関するガイド資料
10	ER2015_Leicester_Venue_Travel_Guide_V1	レスター市のファン・ゾーン等に関するガイド資料
11	ER2015_Milton_Keynes_Venue_Travel_Guide_V1	ミルトン・キーンズ市のファン・ゾーン等に関するガイド資料
12	ER2015_Newcastle_Venue_Travel_Guide_V2	ニューキャッスル市のファン・ゾーン等に関するガイド資料
13	ER2015_Olympic_Venue_Travel_Guide_V1	ロンドン市ニューハム区のファン・ゾーン等に関するガイド資料
14	ER2015_Twickenham_Venue_Travel_Guide_V1	ロンドン市リッチモンド区のファン・ゾーン等に関するガイド資料
15	ER2015_Wembley_Venue_Travel_Guide_V2	ロンドン市ブレント区のファン・ゾーン等に関するガイド資料
16	England Rugby 2015 Host City Agreement	ロンドン市リッチモンド区のホストシティアグリーメント（契約書）の写し
17	THE RUGBY WORLD CUP FANZONE SITE MAP	ロンドン市リッチモンド区のファン・ゾーンの配置図
18	Borough Rugby Information and Co-ordination Centre Operating Procedure	ロンドン市リッチモンド区のRWC2015開催に関する運営手順書
19	CITY STEERING GROUP - RICHMOND UPON THAMES MEETING AGENDA	2015年9月29日に開催されたロンドン市の共通委員会の会議の議事次第
20	Presentation for Japanese delegates Jan2016	ロンドン市リッチモンド区がヒアリングの際に提供してくれたプレゼンテーション資料

No	文献名	内容
21	Richmond Partnership Presentation revised2	ロンドン局リッチモンド区の活動に関するプレゼンテーション資料
22	NEWHAM POST TOURNAMENT RESORT	ロンドン市ニューハム区の大会終業後に作成した報告書
23	FESTIVAL of RUGBY FAN GUIDE	ブライトンで行われるフェスティバルの内容の解説書
24	RUGBY WORLD CUP 2015 GLOUCESTER FANZONE PLAN	グロスター市で開催したファン・ゾーンの設置から撤収方法まで記載された計画書
25	FZ Plan	レスター市のファン・ゾーン図面案
26	Build schefule	レスター市のファン・ゾーンの設置スケジュール
27	Rugby World Cup Schedule for distribution	レスター市のファン・ゾーンのスクリーンの放映スケジュール
28	Newcastle RWC2015 Applicant Host City Bid	ニューキャッスル市のRWC2015への開催都市立候補の際の資料
29	Cabinet reports 22 May 2013 Rugby World Cup 2015-Newcastle a Host City	ニューキャッスル市のRWC2015の開催計画に関する報告資料
30	Newcastle Host City Update reorts (11 May 2015)	ニューキャッスル市のRWC2015の開催計画に関する報告資料
31	NEWCASTLE FALCONS	ニューキャッスル市のファン・ゾーンの取組に関する説明資料



- 件名：ラグビーワールドカップ 2019 を通じた地域活性化についての調査研究報告書
- 発行日：平成 28 年 3 月
- 発行者：総務省地域力創造グループ地域振興室
- 調査機関：株式会社日本能率協会総合研究所